

資料編

【資料編】

I 関連する教科等における安全学習

1 小学校	142
2 中学校	144
3 高等学校(現行課程)	147
4 高等学校(新課程)	153

II 特別活動等における安全指導

1 災害安全	
(1) 幼稚園	161
(2) 小学校低学年(1・2年生)	161
(3) 小学校中学年(3・4年生)	162
(4) 小学校高学年(5・6年生)	162
(5) 中学校	163
(6) 高等学校	164
2 生活安全	
(1) 幼稚園	165
(2) 小学校低学年(1・2年生)	165
(3) 小学校中学年(3・4年生)	166
(4) 小学校高学年(5・6年生)	166
(5) 中学校	167
(6) 高等学校	167
3 交通安全	
(1) 幼稚園	168
(2) 小学校低学年(1・2年生)	168
(3) 小学校中学年(3・4年生)	169
(4) 小学校高学年(5・6年生)	169
(5) 中学校	170
(6) 高等学校	171

III 事件・事故災害における対応フロー図

1 地震発生時における対応フロー(在校中)	172
2 水害・土砂災害発生時における対応フロー(在校中)	173
3 火災発生時における対応フロー(在校中)	174

4	地震発生時における対応フロー(校外活動中)	175
5	地震発生時における対応フロー(登下校中)	176
6	原子力災害発生時における対応フロー(在校中)	177
7	不審者侵入時における対応フロー	178
8	登下校中の不審者情報・事件対応フロー	179
9	登下校中の交通事故対応フロー	180

IV 防災に関する取組の見直しのためのチェックシート

1	多様な想定に基づく避難訓練の検討と実施	181
2	訓練方法の工夫	182
3	訓練後の検証	182
4	対応チームの編成	182
5	危険等発生時の対処行動	183
6	登下校時、在宅時に発生する災害における対応	184

V 学校安全計画例

1	幼稚園	185
2	小学校	187
3	中学校	189
4	高等学校	191
5	特別支援学校高等部(知的障害)	193

VI 危険等発生時対処要領例

1	本校の危険等発生時対処要領	196
---	---------------	-----

I 関連する教科等における安全学習

1 小学校

* 学年 低…1, 2年 中…3, 4年 高…5, 6年を表す

学年	教科等	単元	指導事項	指導の視点	その他(留意点等)	安全領域		
						生	交	災
6	国語	百年後の故郷を守る	<ul style="list-style-type: none"> 「稲村の火」の内容 地震と津波の関連性 先人の知恵を生かした施設や言い伝え 	地域に伝わる先人の知恵を生かした防災を学ばせる。とっさの判断が多くの命を救うこともあることを知らせる。				○
中	社会	地域における災害及び事故の防止	<ul style="list-style-type: none"> 事故や事件の防止について警察を含む関係機関が努力していること 災害による被害が少なく済むように関係機関が努力していること 事故防止や災害による被害を最小限に抑えるために自分たちができること 	関係機関の働きを理解することで、事故を未然に防止したり、災害から身を守ったりする方法を身に付けさせる。	災害については火災、風水害、地震等の中から選択して取上げる。事故の防止については交通事故などの事故防止や防犯を取上げる。地域の実態に応じて指導する。	○	○	○
5	社会	我が国の国土の自然などの様子	<ul style="list-style-type: none"> 国土の様子から考えられる災害（過去の災害を例示） 災害を予防したり、被害を最小限にとどめたりするために国や都道府県が進めている対策や事業 	日本が海に囲まれているために発生する可能性のある災害（津波）や、山林が多いために発生する可能性のある災害（土砂災害、河川氾濫）について理解させ、避難することが大切であることを理解させる。				○
6	社会	我が国の政治の働き	<ul style="list-style-type: none"> 災害復旧に係る国や地方公共団体の取組（風水害、地震、津波土砂災害、火山活動などの災害に対する復旧の工事など） 	災害発生時の国や地方公共団体の取組を知り、関連して自分たちができていることを考えさせる。				○
5	理科	天気の変化	<ul style="list-style-type: none"> 天気の変化の規則性やこれからの予測 映像や、新聞の情報の活用方法 	天気の変化の規則性を理解することで、災害の発生を予測する力を身に付けさせる。突然の豪雨や雷等が発生することを理解させ、空模様や雲の変化に注目させる。				○ ○ ○
5	理科	流水のはたらき	<ul style="list-style-type: none"> 雨の降り方によって流れる水の速さや水の量が変化することや、増水によって土地の様子が大きく変化すること 	川はその場だけでなく山からつながっていることから、その川の上流の天候によって、危険が発生することを理解させる。川の流れが穏やかに見えても、深さや湾曲によって流れが激しくなることを通して、川の危険を理解させる。				○ ○
5	体育	けがの防止	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故や身の回りの危険が原因となって起こるけがの防止の方法 <ul style="list-style-type: none"> 周囲の危険に気付く 的確な判断のもとに安全に行動する 環境を安全に整える けがの簡単な手当を速やかに行うことの必要性 	傷害の原因を理解し、積極的に予防する態度を身につけさせる。けがの簡単な手当ができるようにさせる。				○ ○ ○
低	道徳		<ol style="list-style-type: none"> 主として自分自身に関すること <ol style="list-style-type: none"> 1- (1) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする 主として自然や崇高なものとの係わりに関すること <ol style="list-style-type: none"> 3- (1) 生きることを喜び、生命を大切にすることを心を持つ 	自他の命を大切に思う気持ちを養わせる。				○ ○ ○

1 小学校

*学年 低・・・1, 2年 中・・・3, 4年 高・・・5, 6年を表す

学年	教科等	単元	指導事項	指導の視点	その他(留意点等)	安全領域		
						生	交	災
中	道徳		3 主として自然や崇高なものとの係わりに関すること 3-(1) 生命の尊さを感じ取り、生命ある者を大切に する 4 主として集団や社会との係わりに関すること 4-(5) 郷土の伝統と文化を大切に、郷土を愛する 心を持つ 4-(6) わが国の伝統と文化に親しみ、国を愛する心 を持つとともに外国の人々や文化に関心を持 つ	自他の命を大切に思う気持ちを養わせる。		○	○	○
高	道徳		3 主として自然や崇高なものとの係わりに関すること 3-(1) 生命がかけがえないものであることを知り 自他の生命を尊重する 3-(2) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にす る 4 主として集団や社会との係わりに関すること 4-(7) 郷土や我が国の伝統と文化を大切に、先人 の努力を知り、郷土や国を愛する心を持つ	自他の命を大切に思う気持ちを養わせる。		○	○	○
3 年 ～ 6 年	総合的な 学習の 時間	(各校で定める)	<ul style="list-style-type: none"> ・安全マップ作り 領域を明確にする方法と3領域合わせたマップを作成する 方法を知る。 危険ばかりに焦点を当てるのではなく、「だからどうする のか」「どうすれば安心か」ということを大切にする ・災害に対する地域の工夫 ・ボランティア活動 ・安全に生活するための地域の知恵 	地域の安全マップを作ったり、防災に関する取組を調べたり、ボラン ティア活動を行うなど安全意識を高めさせる。		○	○	○

2 中学校

* 学年欄 空欄は特に学年を定めないものとする

* 教科等欄 社会(地)は地理的分野 理科(2)は第2分野 技術家庭(技)は技術分野、技術家庭(家)は家庭分野とする

学年	教科等	単元	指導事項	指導の視点	その他(留意点等)	安全領域		
						生	交	災
1	社会(地)	日本の様々な地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海洋に囲まれた日本の国土の特色 ・ 地震、津波、風水害の影響を受けやすい国土の状況 	自然災害による被害が地形によって違うことを知り、自分たちの地域の災害特性をとらえさせる。 災害特性に応じて被害を最小限にすることができることを理解させる。				○
2	同上	同上	同上	同上				○
1	社会(地)	日本の様々な地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の自然環境に関する特色ある地理的事象とそれを中核とした地域的特色 ・ 自然環境と人々の生活や産業などの営みとの関係 ・ 様々な自然災害に対する防災対策 	自然災害による被害が地形によって違うことを知り、自分たちの地域の災害特性をとらえさせる。 災害特性に応じて被害を最小限にできることを理解させる。				○
2	同上	同上	同上	同上				○
3	理科(1)	科学技術と人間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水力、火力、原子力などからエネルギーを得ていることを知るとともに、エネルギーの有効な利用が大切であること 	放射線の性質と利用についても触れる。				
1	理科(2)	大地の成り立ちと変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本付近のプレートと火山や地震についての関連 ・ 野外観察記録をもとにした地層の重なり方や広がり方 ・ 大地の成り立ちと変化 ・ 地震や火山活動についての過去の体験や知識、災害に対する防災や減災等の日常生活や社会との関連 	火山活動による地震、プレートの動きによる地震等の特性を知り、減災につながる行動を理解させる。				○
1	理科(2)	気象とその変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の天気の特徴 ・ 気象現象の起こる仕組みと規則性 ・ 気象現象の規則性 ・ 気象要素の変化及び相互の関連 ・ 気象要素の変化と天気の変化の規則性 	気象現象の規則性から天気の変化を予測し、気象災害からの危険を回避することができることを理解させる。		○		○

2 中学校

* 学年欄 空欄は特に学年を定めないものとする

* 教科等欄 社会(地)は地理的分野 理科(2)は第2分野 技術家庭(技)は技術分野、技術家庭(家)は家庭分野とする

学年	教科等	単元	指導事項	指導の視点	その他(留意点等)	安全領域		
						生	交	災
	理科(2)	自然と人間	<ul style="list-style-type: none"> 地球規模でのプレートの動きと火山活動や地震との関係 地学的な事象と自然の恵みや災害との関係 各地域で起きた地震によって生じた現象と被害の特徴 生じた現象と被害との関係 被害を最小限に食い止める方策 津波の発生の基になる地震の規模や、震源との関係 津波が襲来した地域の地形や波の高さなどと被害の大きさとの関係 火山噴火の記録やハザードマップなどを基にした噴出物の分布域と、集落や田畑、森林などの被害との関係 被害をもたらした台風の特徴と、台風によって生じた様々な被害との関係 洪水を起こした梅雨、台風、融雪などの特徴 決壊した河川の浸水地域と土地の特徴との関係 地球規模の気候変動などとの関連 災害を減らすための行動 	自然災害発生メカニズムを知ることでその災害の規模やその被害を予測し、被害を回避するための行動を理解させる。		○		○
	保健体育	傷害の防止	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故や自然災害による傷害要因 交通事故による傷害の防止 自然災害発生時と二次災害の傷害 自然災害の防止 応急手当の適切な手順や方法 心肺蘇生等の応急手当 	事故の要因を分析し、安全な行動を身に付けさせる。災害への備え、適切な避難の仕方を理解することで被害を最小限にとどめることができることを理解し、実践させる。自他の命を大切に考え、応急手当の重要性を理解させる。		○	○	○
	技術家庭(技)	エネルギー変換に関する技術	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーの変換方法や力の伝達の仕組み 機器の基本的な仕組みと保守点検と事故防止 エネルギー変換に関する技術の適切な評価・活用 	エネルギー変換の仕組みを理解することで、事故を未然に防ぐことができることを理解させる。		○		○
	技術家庭(家)	衣生活・住生活と自立	<ul style="list-style-type: none"> 家庭内の事故の防ぎ方や自然災害への備え、室内の空気調節、音と生活との関わり等の視点からの室内環境の整え方 自然災害を含む家庭内の事故やその原因 災害への備えや事故の防ぎ方などの安全管理の方法 安全な生活の工夫 	地震が発生した際の家具等の転倒による危険の防止について理解させる。防災備品(非常持ち出し袋等)の準備や整理をし、災害に備えることができるようにさせる。		○		○

2 中学校

* 学年欄 空欄は特に学年を定めないものとする

* 教科等欄 社会(地)は地理的分野 理科(2)は第2分野 技術家庭(技)は技術分野、技術家庭(家)は家庭分野とする

学年	教科等	単元	指導事項	指導の視点	その他(留意点等)	安全領域		
						生	交	災
	道徳		<p>1 主として自分自身に関すること</p> <p>1－(1) 心身の健康の増進を図り、節度を守り、節制を心がけた調和のある生活</p> <p>1－(3) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行することとその結果への責任</p> <p>2 主として他の人との係わりに関すること</p> <p>2－(2) 温かい人間愛の精神と他の人々に対する思いやりの心</p> <p>2－(3) 心から信頼できる友達との互いの励まし合いと高め合い</p> <p>3 主として自然や崇高なものとの係わりに関すること</p> <p>3－(1) 生命の尊さの理解と、かけがえのない自他の生命の尊重</p> <p>4 主として集団や社会との関わりに関すること</p> <p>4－(1) 自他の権利を重んじ、義務を確実に果たした社会の秩序と規律の高まり</p> <p>4－(2) 公德及び社会連帯の自覚の向上と、よりよい社会の実現</p> <p>4－(4) 自己が属する集団の意義についての理解と役割や責任を自覚した集団生活の向上</p> <p>4－(5) 勤労の尊さや意義の理解、奉仕の精神を持った公共の福祉と社会の発展</p> <p>4－(8) 地域社会の一員としての自覚と郷土への愛を持って郷土の発展へ寄与する</p>	<p>自他の命を大切に思う気持ちを養わせる。社会の一員としての自分の役割を理解し、災害発生時には地域の人々と協力する態度を身に付けさせる。</p>		○	○	○
	総合的な学習の時間	(各校で定める)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校区安全マップの作成 災害安全・生活安全・交通安全の3つの視点を盛り込んだ安全マップの作成 ・ 安全マップを生かした安全確保の取組 ・ 地域の状況から予測される災害と安全対策 ・ 地域、関係機関と連携した安全教室 ・ 災害を想定した校内、地域内での避難訓練 	<p>地域や校区の特色に応じた探求的な学習を通して、安全意識を高めるような課題設定を行い、それを解決するための学習や活動に結び付けさせる。</p>		○	○	○

3 高等学校(現行課程)

* 学年欄 空欄は特に学年を定めないものとする

学年	教科等	単元	指導事項	指導の視点	その他(留意点等)	安全領域		
						生	交	災
	地理歴史・世界史 A	(3) 現代の世界と日本 カ 科学技術と現代文明	・ 災害援助の際の国際協力体制の重要性	災害発生時の科学的な側面からも国際協力ができることに気付かせる。	該当事例として自然災害とその対応を取扱う。			○
	地理歴史・世界史 B	(5) 地球世界の形成 オ 科学技術の発達と現代文明	・ 科学技術と自然環境の関係	科学技術の発達にともなって、災害による被害を最小限にできるようにしたこと気付かせる。	自然災害を事例としながら取扱う。			○
	地理歴史・地理 A	(2) 地域性を踏まえてとらえる現代世界の課題 イ 地球的課題の地理的考察 (7) 諸地域から見た地球的課題	・ 自然環境と人間生活の関連と自然災害の事例やその仕組み ・ 災害援助や国際協力の必要性	外国で発生した災害をもとに、災害援助や国際協力の必要性に気付かせる。	グローバル・イシュー(地球規模の問題)として取扱う。 ローカル・イシュー(地域問題・日本の国内問題)としては、 (2) 地域性を踏まえてとらえる現代世界の課題 イ 地球的課題の地理的考察 (イ) 近隣諸国や日本が取り組む地球的課題と国際協力の項目で取扱う。			○
	地理歴史・地理 B	(1) 現代世界の系統地理的考察 ア 自然環境	・ 自然災害の事例やその仕組み ・ 自然災害や防災・減災	日本の自然の特色によって発生する災害について理解させる。	自然環境と人間生活の関連、日本における自然環境の特色について、多くの教科書では、数ページにわたって記載されている。			○

3 高等学校(現行課程)

* 学年欄 空欄は特に学年を定めないのでとする

学年	教科等	単元	指導事項	指導の視点	その他(留意点等)	安全領域		
						生	交	災
	公民・現代社会	(2)現代の社会と人間としての在り方生き方 ア 現代の社会生活と青年	・社会参加の具体的事例(災害援助)	身近な社会である「地域」での社会参加の方法を知り、自分たちができていることを考えさせる。	科目のその他の項目においても、災害援助に関わる内容を取扱う。	○	○	○
	公民・倫理	(2)現代と倫理 ウ 現代の諸課題と倫理	・地域社会のあり方等の具体的事例(災害援助)	生命や環境について考え、よりよく生きるためにはどうすればよいかを考えさせる。	科目のその他の項目においても、災害援助に関わる内容を取扱う。	○	○	○
	公民・政治経済	(3)現代社会の諸課題 イ 国際社会の政治や経済の諸課題	・国際協力を扱う際の災害援助	災害発生時に経済的な側面での国際協力があることに気付かせる。	科目のその他の項目においても、災害援助に関わる内容を取扱う。			○
入学 年次 その 次の 年次	保健	現代社会と健康 (健康の考え方、精神の健康、交通安全、応急手当)	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスプロモーションの考え方 ・個人の行動選択とそれを支える社会環境 ・ストレスの原因と心身への影響 ・ストレスの適切な対処法 ・交通事故の現状 ・車両の特性 ・運転者や歩行者の安全に対する適切な行動 ・安全に対する個人の適切な行動 ・自他の生命を尊重する態度 ・交通環境の整備 ・安全な社会づくり ・日常的な応急手当の正しい手順や方法 ・心肺蘇生等の応急手当 	ヘルスプロモーションの考え方に基づき、個人の行動選択やそれを支える社会環境があることを理解させる。ストレスの原因と心身への影響及び対処法について理解させるとともに、事故災害後にはストレスによる障害が発生することにも気付かせる。二輪車及び自動車を中心とした交通事故の現状と事故のない社会づくりについて理解させるとともに、自然災害や犯罪被害を防止する社会づくりについても理解させる。応急手当の手順や方法を身に付けるとともに、実習を通して理解させる。		○	○	○
1 5 3	家庭・家庭総合	住環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児や高齢者、障害者などの家庭内事故の防止に配慮した室内環境の整備 ・自然災害、火災などへの防災、防犯など安全に配慮した室内環境の整備 ・住居の計画的な維持管理の必要性 	家庭内での事故を未然に防ぐための方法や防犯対策、災害発生時の家庭内での安全確保対策(耐震や家具が倒れるのを防ぐための工夫)を理解し実践させる。ただし、それで安心することがないことを強調し、理解させる。		○		○

3 高等学校(現行課程)

* 学年欄 空欄は特に学年を定めないものとする

学年	教科等	単元	指導事項	指導の視点	その他(留意点等)	安全領域		
						生	交	災
1 5 3	家庭・生活技術	住生活の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児や高齢者、障害者などの家庭内事故の防止に配慮した室内環境の整備 ・自然災害、火災などへの防災、防犯など安全に配慮した室内環境の整備 	<p>家庭内での事故を未然に防ぐための方法や防犯対策、災害発生時の家庭内での安全確保対策（耐震や家具が倒れるのを防ぐための工夫）を理解し実践させる。 ただし、それで安心することがないことを強調し、理解させる。 非常時持ち出し袋についても取り扱い、理解させる。</p>	住居の構造や住まい方の関係を取扱う。	○		○
1 5 3	情報・情報A	(4)情報機器の発達と生活の変化 イ 情報化の進展が生活に及ぼす影響	<ul style="list-style-type: none"> ・防災通報システムの役割や故障した際の問題 	<p>情報を効果的に活用することで安全の確保ができることを理解させる。</p>	災害等が発生した場合の情報の保全についても取扱う。	○	○	○
1 5 3	情報・情報B	(4)情報社会を支える情報技術 ア 情報通信と計測・制御の技術	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー、通信、交通、住宅などの日常生活を支える様々なインフラストラクチャーの維持・管理 	<p>情報通信技術や、計測・制御技術が不可欠であることを理解させる。 災害発生の際の情報の保全と、回復の際の情報通信の果たす役割を理解させる。</p>	それぞれの技術の長所だけを取り上げるのではなく、問題点についても取扱う。 災害等が発生した場合の情報の保全についてどのようにすればよいかも考えさせる。			○
1 5 3	情報・情報C	(4)情報化の進展と社会への影響 ア 社会で利用されている情報システム	<ul style="list-style-type: none"> ・情報システム全体の機能 ・システムの信頼性と社会に及ぼす影響の観点 	<p>それぞれが独立したシステムとして機能しているだけでなく、情報通信ネットワークに接続されることによって相互に影響を与え合うようになってきていることを理解させる。 自分たちの生活の安全と安心を確保できるようにするため、通信ネットワークに接続する有効性と課題を理解させる。</p>	代表的な情報システムを取扱う。 災害等が発生した場合の情報の保全について取扱う。	○		○
2 ・ 3	農業・森林科学	森林の保護と治山	<ul style="list-style-type: none"> ・気象災害、生物災害や人為災害などから森林を保護するために必要な知識と技術 ・山地の地形や地質、森林土壌の特性、渓流水理や治山工事の対象地に関する学習を通じた、森林の利水効果や国土保全機能 ・山腹工事、渓流工事や地すべり工事など山地保全を図る土木工事に関する知識と技術 	<p>災害の被害を最小限にとどめるための方法を習得させる。</p>				○

3 高等学校(現行課程)

* 学年欄 空欄は特に学年を定めないのでとする

学年	教科等	単元	指導事項	指導の視点	その他(留意点等)	安全領域		
						生	交	災
2・3	農業・農業土木施工	農業水利	<ul style="list-style-type: none"> ・水資源の開発 ・利水工法や治水工法に関する知識と技術 ・利水と治水の意義や役割 	水源、農業用水、生活用水、環境用水などの用水と水防並びに洪水調節と堤防について理解させる。環境保全と災害安全の観点から利水や治水に関する知識や技術を習得させる。		○		○
	工業・衛生・防災設備	防災設備、衛生・防災設備の施行	<ul style="list-style-type: none"> ・建築物用途による防火対象物と消防用設備の設置基準、各種消火設備、警報設備、避難設備などの消防用設備 ・事務所などの具体的な建築物を取り上げ、屋内消火栓設備、スプリンクラー設備とその簡単な配管機器の設計 ・衛生・防災設備に用いられる各種の管・継手類、弁類などの付属品、配管の接合方法などに関する施工 ・消防法などの法規に基づく衛生・防災設備の試験・検査・保守 	防災設備の機能を理解し適切に使用することで、自他の安全を確保するために行動することができることを理解させる。	実際に活用できるように指導する。	○		○
	工業・社会基盤工学	社会基盤整備、社会基盤システム	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害の多い日本の国土の特徴、国土総合開発の概要、主な災害と災害防止のために整備されてきた社会基盤の現状 ・土木技術を活用した電力やガスなどのエネルギー整備 ・過去の災害と災害の予知・予測、防災に関わる法規と行政の役割、災害対策と防災システム 	被害から回復するための行政の役割について理解させ、回復のために必要なことを考えさせる。	地震災害、風水害、火山災害、土砂災害などの具体的事例を取扱う。	○		○
1・3	専・商業・ビジネス情報	(6) 情報処理機器の導入と管理 ウ データ保護とセキュリティ管理	<ul style="list-style-type: none"> ・組織内におけるデータ管理及びセキュリティ管理の意義と役割 ・データのバックアップや復旧の方法及びハードウェアやソフトウェアによるセキュリティの管理 	災害発生時における情報機器の有効性とその活用について考えさせる。	災害等が発生した場合のデータ保護についてどのようにすればよいか考えさせる。実習を通して習得させる。	○		○

3 高等学校(現行課程)

* 学年欄 空欄は特に学年を定めないのでとする

学年	教科等	単元	指導事項	指導の視点	その他(留意点等)	安全領域		
						生	交	災
1 3	専・水産・水産情報技術	水産・海洋における情報の応用	<ul style="list-style-type: none"> 船舶識別などの船舶通信機能統合システムや船外通信と船内通信のネットワーク化、小型船位置測定システム、漁具漁網探知、ダイバーの安全潜水管理・監視システムなどの沿岸や海中における安全救助、防災システムなどに関する基礎的な知識と技術 	海上での安全を確保するために、防災システムについての知識や技術を習得させる。			○	○
2 3	専・水産・航海・計器	海流や潮汐の概要	<ul style="list-style-type: none"> 潮汐表による潮時、潮高などに関する算法などの海流と潮汐の概要 	海上での安全を確保するために潮汐表の取扱いや概要を理解させる。			○	○
2 3	専・水産・漁船運用	海上気象と荒天運用、海難と応急	<ul style="list-style-type: none"> 海上の気象と海象の観測、気団と前線、高気圧と低気圧、日本近海の気圧配置と気象、天気図や高層天気図の見方、荒天準備、荒天時の操船、荒天描泊法等の基本的な知識と技術 衝突、乗り揚げ、火災、浸水等の防止対策と応急、舵故障、えい航、人命救助、非常事態等に対処するための基本的事項 	船上での安全を確保できるように、海上気象を予想する能力や、操船の技術、応急処置等の能力を身に付けさせる。			○	○
3	専・家庭・リビングデザイン	住生活と環境	<ul style="list-style-type: none"> 幼児や高齢者に対する事故防止や防災への配慮 	家庭での安全確保につながる具体的な方法（段差をなくす、倒れないように支える等）を学び実践させる。	安全性を考えるとときに配慮する。	○		○

3 高等学校(現行課程)

* 学年欄 空欄は特に学年を定めないものとする

学年	教科等	単元	指導事項	指導の視点	その他(留意点等)	安全領域		
						生	交	災
1 3	専・情報・情報産業と社会	(1)情報化と社会 ア 情報化と社会生活	・情報化が社会生活に与える影響	情報を適切に収集することで、安全かつ安心して生活できることを理解させる。	情報関連機器や情報通信技術が、現代社会のあらゆる分野に普及している実態を取り上げて理解させる。 災害等が発生した場合のデータ保護についてどのようにすればよいか考えさせる	○		○
1 3	専・情報・ネットワークシステム	(4)ネットワークの安全対策	・地震や洪水などによるネットワーク内の構成要素の損壊・損傷、システムや建物などへの不法侵入や不正アクセスによるデータの破壊、盗難 ・自然災害や人為的過失などに対する安全対策の基礎的な内容	ネットワークシステムを利用することで、被害を最小限に抑える方法を理解させるとともに、被害からの回復に有効なネットワークシステムを活用できるようにさせる。	具体的な事例を通して理解させる。	○		○
1	専・福祉・社会福祉基礎	社会福祉分野の現状と課題	・高齢者福祉の課題 ・障害者福祉の課題	自分や自分以外の人への安全にも気を付けることができるようにさせる。		○	○	○

4 高等学校(新課程)

* 学年欄 空欄は特に学年を定めないものとする

学年	教科等	単元	指導事項	指導の視点	その他(留意点等)	安全領域		
						生	交	災
	地理歴史・世界史A	(1)世界史へのいざない ア 自然環境と歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境が人類の活動に与える影響や、人類が自然環境に積極的に働きかけた事象 ・自然環境と人類の活動の相互作用 	人類が自然の恵みを受けて生きてきたことに気付かせる。	該当事例として自然災害を取り扱う。歴史的に考察させる。			○
	地理歴史・世界史B	(1)世界史への扉 ア 自然環境と人類の係わり	<ul style="list-style-type: none"> ・地形・気候・植生などの自然環境と人類の活動 ・生業や暮らし、交通手段、資源、災害などの歴史的事例から見た、世界史学習における地理的視点の重要性 ・自然環境と人類の係わり方 	先人が自然環境と関わるうえで築いてきた知恵に気付かせる。	自然の猛威と人類の活動との係わりを取り扱い、噴火、地震、洪水などの突発的な自然の猛威や疫病の流行の実態と、当時の人々の対処法やその後の社会に及ぼした影響などを歴史的に考察させる。人類の生活形態や行動様式の変化と疫病の流行との係わりについて気付かせる。			○
	地理歴史科・日本史A	(3)現代の日本と世界 ウ 現代からの探究	<ul style="list-style-type: none"> ・先人の自然環境との向き合い方 	先人が自然環境とどのように付き合ってきたかを知り、その知恵を現代に生かす方法を考えさせる。	災害遺跡を取り扱う際に学習させる。			○

4 高等学校(新課程)

* 学年欄 空欄は特に学年を定めないものとする

学年	教科等	単元	指導事項	指導の視点	その他(留意点等)	安全領域		
						生	交	災
	地理歴史・地理A	(2)生活圏の諸課題の地理的考察 イ 自然環境と防災	<ul style="list-style-type: none"> 日本で発生する自然災害の典型的な事例を学習するだけでなく、生徒が居住している地域の自然災害についての、自然環境の特色と自然災害との係わり 学習を通しての防災意識の向上 	自分たちの地域の自然の特色を理解することを通して、災害の被害を最小限にとどめることができることに気付かせる。	あらゆる自然災害に対する備えをすることは困難なため、対応を優先すべき災害が地域によって異なり、同じような災害に対しても、地域によって対策が異なること、例えば、一般に火山地域では火山活動に伴う災害への備えが優先されるが、海岸地域では高潮や津波への備えが優先されること等を取り扱う。また、同じく地震が発生した場合にも平野の都市では地震に伴う建物の倒壊に対する備えが優先されるが、山間の村落では、地震に伴う土砂災害に対する備えが優先されるといった地域的な視点からの学習も求められる。			○
	地理歴史・地理B	(2)現代世界の系統地理的考察 ア 自然環境	<ul style="list-style-type: none"> 地形を取り上げる場合の、主な平野や山脈の分布やその要因、地形と産業とのかかわりや火山・地震災害に対する適切な対応 気候を取り上げる場合の、豪雨、台風など気象災害の要因、人間生活に与えるデメリット、メリット 	自然環境は災害をもたらすだけでなく、恵みをもたらすことに気付かせ、うまく付き合う方法を考えさせる。	教科書には数ページに渡って記載される。			○
	公民・現代社会	(3)共に生きる社会を目指して	<ul style="list-style-type: none"> 個人と社会の関係、社会と社会の関係、現役世代と将来世代の関係に着目させた課題設定 	自分と社会の関わりで事故を未然に防ぐことができたり、災害が発生した時には社会のために自分たちにどのようなことができるかということを考えさせる。	科目のあらゆる場面で、災害援助に関わる内容を取り扱うことができる。地域や学校、生徒の実態等に応じて課題を設定する。特に個人と社会の関係について取り扱う際に、被災時の行動を上げる。	○	○	○

4 高等学校(新課程)

* 学年欄 空欄は特に学年を定めないものとする

学年	教科等	単元	指導事項	指導の視点	その他(留意点等)	安全領域		
						生	交	災
	公民・倫理	(3) 現代と倫理	<ul style="list-style-type: none"> 人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間との係わり、民主社会における人間の在り方、社会参加と奉仕、自己実現と幸福などについての、倫理的な見方や考え方 他者と共に生きる自己の生き方 論理的思考力や表現力、現代に生きる人間としての在り方、生き方についての自覚 	生命や環境について考え、よりよく生きるためにはどうすればよいか考えさせる。	科目のあらゆる場面で、災害援助に関わる内容を取り扱うことができる。生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉などにおける倫理的課題を自己の課題とつなげて探究する活動を通して、深めさせる。	○	○	○
	公民・政治経済	(3) 現代社会の諸課題 ア 現代日本の政治や経済の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会の変貌と災害への備え 	政治的な側面や、経済的な側面から災害の発生に備えておくことの必要性に気付かせる。	科目のあらゆる場面で、災害援助に関わる内容を取り扱うことができる。			○
	理科・科学と人間生活	地球の活動と歴史、地球の大気と海洋	<ul style="list-style-type: none"> 地域の自然景観、その変化と自然災害 「自然景観の成り立ち」について、流水の作用、地震や火山活動と関連 身近な自然景観の成り立ちと自然災害についての、太陽の放射エネルギーによる作用や地球内部のエネルギーによる変動 	自然景観の変化を科学的捉え、自然災害との関連を理解させ、地域で発生する災害を予想させる。	観察、実験などを中心に取り扱う。その際、自然景観が長い時間の中で変化してできたことにも触れる。「自然災害」については防災にも触れる。	○		○
	理科・物理基礎	エネルギーとその利用	<ul style="list-style-type: none"> 人類が利用可能な水力、化石燃料、原子力、太陽光などを源とするエネルギーの特性や利用 	発電の仕組みを扱う際、放射性物質の特性や放射線の利用法、危険等についても触れる。	物理的な視点から理解させる。電気エネルギーへの変換を中心に取扱うこと。「原子力」については、関連して放射線及び原子力の利用とその安全性の問題にも触れる。	○		○
	理科・地学基礎	変動する地球	<ul style="list-style-type: none"> プレートの収縮境界における地震 「恩恵や災害」については、日本に見られる季節の気象現象、地震や火山活動などの特徴的な現象 	地震発生のメカニズムを科学的にとらえ、発生する可能性のある地震に備えることを理解させる。海底を震源とする地震であれば、津波が発生することを予測できるようにさせる。	自然災害の予測や防災にも触れる。	○		○

4 高等学校(新課程)

* 学年欄 空欄は特に学年を定めないものとする

学年	教科等	単元	指導事項	指導の視点	その他(留意点等)	安全領域		
						生	交	災
	理科・地学	地球の活動と歴史、地球の大気と海洋	<ul style="list-style-type: none"> 地震と地殻変動 日本列島付近におけるプレート間地震やプレート内地震の特徴 人工衛星などから得られる情報を活用した、大気の大循環 	気象の変化を科学的に理解し、気象の変化によって発生する災害の特性を知り、適切に対応する能力を身に付けさせる。	世界の地震帯の特徴をプレート運動と関連付けて取り扱う。気象災害にも触れる。	○		○
入学年次 ～ その次の年次	保健	現代社会と健康 (健康の考え方、精神の健康、交通安全、応急手当)	<ul style="list-style-type: none"> ヘルスプロモーションの考え方 個人の行動選択とそれを支える社会環境 ストレスの原因と心身への影響 ストレスの適切な対処法 交通事故の現状 車両の特性 安全な運転や歩行など適切な行動 自他の生命を尊重する態度 交通環境の整備 安全な社会づくり 応急手当の正しい手順や方法 心肺蘇生等の応急手当 	ヘルスプロモーションの考え方に基づき、個人の行動選択やそれを支える社会環境があることを理解させる。ストレスの原因と心身への影響及び対処法について理解させるとともに、事故災害後にはストレスにより障害が発生することにも触れる。二輪車及び自動車を中心とした交通事故の現状と事故のない社会づくりについて理解させるとともに、自然災害などによる傷害や犯罪被害を防止する社会づくりについても取り上げる。心肺蘇生の学習をする際、心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED(自動体外式除細動器)の使用などが必要であることを理解できるようにする。		○	○	○
1 ～ 3	情報・社会と情報	(4)望ましい情報 社会の構築 ア 社会における 情報システム	<ul style="list-style-type: none"> 情報システムの種類、目的や特徴 情報システムが社会生活に果たしている役割と及ぼしている影響 	災害安全や生活安全、交通安全に関わる情報システムの効果的な活用する方法を理解させ、実践させる。	交通、防災、産業、行政、教育などの各分野で構築されている情報システムを取り上げる。災害等が発生した場合の情報の保全についてどのようにすればよいかも考えさせる。	○	○	○
1 ～ 3	情報・情報の科学	(4)情報技術の進展と情報モラル イ 情報社会の 安全と情報 技術	<ul style="list-style-type: none"> 情報機器や情報通信ネットワークの故障や誤動作などのトラブルに備えて事前にバックアップや二重化などを行うことで障害の復旧を容易にするフォールトトレランスの考え方 情報機器の軽度の障害の箇所を特定するために障害箇所を切り分ける考え方 	情報モラルを徹底させるとともに、情報社会での安全を確保する方法を身に付けさせる。		○		

4 高等学校(新課程)

* 学年欄 空欄は特に学年を定めないものとする

学年	教科等	単元	指導事項	指導の視点	その他(留意点等)	安全領域		
						生	交	災
2・3	専・農業・森林科学	森林の多面的機能、森林の保護と山地の保全	<ul style="list-style-type: none"> 森林の機能は、生物多様性保全機能、地球環境保全機能、土砂災害防止機能、土壌保全機能、水源涵養機能、快適環境形成機能、保健・レクリエーション機能、文化機能、物質生産機能に分類されるように、多面的な機能を持つことが最大の特徴であり、いろいろな機能が複合的に発揮されることで、総合的に大きな効果が得られるものになること 気象災害、生物災害や人為災害などから森林を保護するために必要な知識と技術 森林の理水効果や国土保全機能及び治水との関連 山腹工事、溪流工事や地すべり工事など山地保全を図る土木工事に関する知識と技術 	災害の被害を最小限にとどめるための方法を習得させる。	山地の地形や地質、森林土壌の特性、溪流水理や治山工事の対象地に関する学習を通して習得させる。			○
2・3	専・農業・水循環	農業水利	<ul style="list-style-type: none"> 水資源の開発と水源、農業用水、生活用水、環境用水等の用水と水防並びに洪水調節と堤防 広域的な環境保全を考慮した利水や治水に関する知識と技術 利水と治水の意義や役割と自然環境との調和の重要性 	環境保全と災害安全の観点から利水や治水に関する知識や技術を習得させる。			○	○
	専・工業・衛生・防災設備	防災設備、衛生・防災設備の施行	<ul style="list-style-type: none"> 建築物用途による防火対象物と消防用設備の設置基準、各種消火設備、警報設備、避難設備などの消防用設備 屋内消火栓設備、スプリンクラー設備 簡単な配管機器の設計 衛生・防災設備に用いられる各種の管・継手類、弁類などの付属品、配管の接合方法などに関する施工 消防法などの法規に基づく衛生・防災設備の試験・検査・保守について 	防災設備の機能を理解し適切に使用することで、自他の安全を確保するために行動することができることを理解させる。	事務所などの具体的な建築物を取り上げる。実際に活用できるように指導する。		○	○
	専・工業・社会基盤工学	社会基盤整備、社会基盤システム	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害の多い日本の国土の特徴、国土総合開発の概要、主な災害 災害防止のために整備されてきた社会基盤の現状 土木技術を活用した電力やガスなどのエネルギー整備 過去の災害と災害の予知・予測、防災に関わる法規と行政の役割 災害対策と防災システム 	被害から回復するための行政の役割について理解させ、回復のために必要なことを考えさせる。	地震災害、風水害、火山災害、土砂災害などの具体的事例を取り上げる。		○	○

4 高等学校(新課程)

* 学年欄 空欄は特に学年を定めないものとする

学年	教科等	単元	指導事項	指導の視点	その他(留意点等)	安全領域		
						生	交	災
1 3	専・商業・ビジネス情報管理	(1) ビジネスと情報システム セキュリティ管理の必要性と方法	<ul style="list-style-type: none"> 災害や外部からの侵入などから情報システムの関連設備を守る対策 	災害発生時における情報機器の有効性とその活用について考えさせる。		○		○
1 3	専・水産・海洋情報技術	水産や海洋における情報の応用	<ul style="list-style-type: none"> 船舶識別などの船舶通信機能統合システムや船外通信と船内通信のネットワーク化、小型船位置測定システム、漁具漁網探知、ダイバーの安全潜水管理・監視システムなどの沿岸や海中における安全救助、防災システムなどに関する基礎的な知識と技術 	海上での安全を確保するために、防災システムについての知識や技術を習得させる。			○	○
2 3	専・水産・航海・計器	海流や潮汐の概要	<ul style="list-style-type: none"> 海流と潮汐の概要 	海上での安全を確保するために潮汐表の取扱いや概要を理解させる。	潮汐表による潮時、潮高などに関する算法などについて取り扱う。		○	○
2 3	専・水産・船舶運用	海上気象と荒天運用、海難と応急	<ul style="list-style-type: none"> 海上の気象と海象の観測、気団と前線、高気圧と低気圧、日本近海の気圧配置と気象、天気図や高層天気図の見方、荒天準備、荒天時の操船、荒天描泊法等の基本的な知識と技術 衝突、乗り揚げ、火災、浸水等の防止対策と応急、舵故障、えい航、人命救助、非常事態等に対処するための基本的事項 	船上での安全を確保できるように、海上気象を予想する能力や、操船の技術、応急処置等の能力を身に付けさせる。			○	○

4 高等学校(新課程)

* 学年欄 空欄は特に学年を定めないものとする

学年	教科等	単元	指導事項	指導の視点	その他(留意点等)	安全領域		
						生	交	災
3	専・家庭・リビングデザイン	住空間の構造と材料・住空間の環境と整備	<ul style="list-style-type: none"> 安全な住生活を営むために必要な住空間の構造 安全性などを取り上げた健康で安全であるための住まいの条件 	<p>家庭内での事故を未然に防ぐための方法や防犯対策、災害発生時の家庭内での安全確保策（耐震や家具が倒れるのを防ぐための工夫）を理解し実践させる。ただし、それで安心することがないことを強調するようにする。非常時持ち出し袋についても取り扱う。</p> <p>耐震構造についても理解し、地震発生で考えられる、自宅の被害を予測し、改善、あるいは避難に役立てるようにする。</p>	安全性については、特に、幼児や高齢者に対する事故防止や防災への配慮を取り扱う。	○		○
1 5 3	専・情報・ネットワークシステム	(4) ネットワークの安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークシステムなどへの不法侵入や不正アクセス、地震や洪水などによる構成要素の損壊・損傷によるデータの破壊、盗難、漏洩などを取り上げ、人為的過失や自然災害などに対する安全対策 	<p>ネットワークシステムを利用することで、被害を最小限に抑える方法を理解させるとともに、被害からの回復に有効なネットワークシステムを活用できるようにさせる。</p>		○		○
2 ある いは 3	専・福祉・生活支援技術	緊急時の介護	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時における介護の意義や目的 日常生活における危険の予防、緊急時の連絡方法や緊急通報システムに関する基礎的知識と技術 災害時における介護の意義や目的 災害の種類や被災者の身体的状況及び心理状態の把握、他科の職種との連携について取り上げ、災害時の情報伝達や安全確保など 	<p>災害発生時、介助や介護が必要な人に対して自分にできることを考え、避難や、被害からの回復に係ることができるようにさせる。</p>		○		○

4 高等学校(新課程)

* 学年欄 空欄は特に学年を定めないものとする

学年	教科等	単元	指導事項	指導の視点	その他(留意点等)	安全領域		
						生	交	災
1 2 3	専・福祉・こころとからだの理解	緊急時に関するこころとからだのしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時の対象となる人への適切な対応 救急時や災害時における被災者及び救援者自身の心身の状態、心的外傷後ストレス障害（PTSD）やストレス、心のケア 	被害による心的な影響を理解させ、不安を和らげたり、回復の支援をしたりする一助を担えるようにさせる。	具体的な事例を通して適切な対応を取り扱う。	○		○

II 特別活動等における安全指導

1 災害安全

(1) 幼稚園

災害等	目 標	指 導 事 項
地震	地震時及び津波発生時の避難の仕方を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・地震の時に発生する様々な危険に応じた避難の仕方（落下物・家具等の破壊等） ・津波警報と避難の仕方 【留意点】 <ul style="list-style-type: none"> ・正しい情報の入手（落下物・家屋等の倒壊・陥没・地割れ、山崩れ・液状化現象等）と状況に応じた安全な避難経路と場所を確認し、幼児に明確に指示が出せるようにしておく。
気象災害	暴風雨・洪水、豪雪・雪崩、落雷等の災害発生時の危険を知り、安全な行動ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・暴風雨、洪水時の怖さと安全な行動 看板等の落下物 電線の切断や倒木等 ・豪雪時の安全 屋根からの落雪 地吹雪時の怖さ ・戸外にいるときの落雷の怖さ ・落雷に遭わないための安全な行動 【留意点】 <ul style="list-style-type: none"> ・登降園時に気付いた危険な場所や状況を連絡し合い、回避できるようにする。
火 災	火災時の避難の仕方を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・煙の怖さ ・安全を確保する行動 ・避難経路、避難場所など様々な場面に応じた避難の仕方 【留意点】 <ul style="list-style-type: none"> ・煙体験を含む具体的な場面を通して指導する。
原子力災害	原子力災害が発生した際の安全な避難の方法を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・放射線に汚染された場合の避難行動の仕方 【留意点】 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員は原子力災害について必要な知識を事前に学び、正しい情報の入手と避難場所の確認をする。

(2) 小学校低学年（1・2年生）

災害等	目 標	指 導 事 項
地震	地震の際の危険や、避難の方法を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・地震のときの危険 ・安全な避難場所と避難の仕方 ・津波による危険
気象災害	気象災害に応じた安全な登下校ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・風水害、豪雪のときの安全な登下校の仕方 ・登下校中の落雷による危険
火 災	火災発生時の危険について理解し、安全な行動ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・火のまわり方と煙の危険及び行動の仕方 ・避難の仕方と方法
原子力災害	放射線の存在について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・身に見えない危険 ・安全な避難の仕方 ・放射線の存在
避難所の役割と安全	避難所での安全な生活や自分たちの役割、避難所の役割を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所での安全な生活（低）

(3) 小学校中学年（3・4年生）

災害等	目 標	指 導 事 項
地 震	地震が発生した際に自分で判断して行動できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・地震情報に基づいた判断と安全な行動 ・安全な避難場所の確認 ・津波情報の収集の仕方
気象災害	気象災害の危険を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・風水害、豪雪・雪崩のときの危険 ・雷からの身の守り方
火 災	火災の原因を知り、未然に防ぐための安全な行動を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・火災の原因と危険 ・火災情報に基づいた判断と安全な行動 ・避難場所の確認
原子力災害	自然に存在する放射線や放射線の利用の仕方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある放射線 ・避難経路や避難場所の確認 ・放射線の使われ方
避難所の役割と安全	地震が発生した際に自分で判断して行動できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時の避難所の役割（中）

(4) 小学校高学年（5・6年生）

災害等	目 標	指 導 事 項
地 震	地震が発生した時に被害を最小限にとどめるための防災ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・地震のときの危険に対する心構え ・様々な場面に応じた避難の仕方（天候、災害規模、津波の恐れ等）
気象災害	気象災害の危険を知り、安全な行動ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・風水害、豪雪・雪崩のときの安全な行動の仕方 ・落雷に遭わない行動の仕方
火 災	火災発生時に慌てることなく、適切な行動ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・火災が発生した時の心構え ・安全な行動の要素 ・様々な場面に応じた避難の仕方
原子力災害	放射線による事故の危険について理解し、適切に行動ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・放射線による身体への影響と健康被害 ・正しい情報の入手の仕方 ・放射線の安全対策への理解
避難所の役割と安全	地震が発生した際に自分で判断して行動できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所の生活と自分の役割（高）

(5) 中学校

災害等	目 標	指 導 事 項
地震	地震発生時の危険を知り、安全に行動することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・地震発生のメカニズム ・地震のときに発生する様々な危険 家屋の倒壊、地割れ、山崩れ、液状化、陥没、落下物 ・正しい情報の入手 ・緊急地震速報への対応 ・パニック防止と安全な行動 ・地震災害への家庭での備え ・地震に応じた避難経路と避難場所の確認 ・津波による危険 ・津波警報と避難の仕方
気象災害	気象条件によって発生しうる危険について理解し、安全に行動することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・風水害のときの危険 落下物、電線の切断や倒木、増水による河川の変化、土砂崩れ、河川の崩壊や橋の流出 ・風水害情報と避難の仕方 ・屋根からの落雪や地吹雪等の危険 ・落雷しやすい気象条件 ・落雷による校庭・プール等校舎外での危険 ・落雷に遭わない安全な行動
火災	火災の際、自分たちで避難することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・火災の原因と危険 ・火災に対する心構え ・有害な煙に対する行動の仕方 ・火災の特性 ・救助器具の使い方と初期消火の仕方 ・避難経路、避難場所の確認と様々な場面に応じた避難の仕方
原子力災害	原子力災害と放射線の影響について正しく理解し、安全に行動することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある放射線 ・目には見えない危険と身体への影響と健康被害の内容と防止 ・放射線事故に応じた避難の仕方 ・避難経路と避難場所の確認 ・放射線による原子力災害と安全対策 ・モニター制度の仕組みとその係わり ・情報収集の仕方 ・防災訓練への参加
避難所の役割と安全	災害発生時における避難所の役割と生活を理解し、主体的に自分たちの役割について考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時の避難所の意義と役割 ・避難所での生活 ・自主的な組織活動の必要性和相互扶助 ・ボランティア活動への参加

(6) 高等学校

災害等	目 標	指 導 事 項
地震	地震発生時の危険を知り、安全に行動することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地震発生メカニズム ・ 地震のときに発生する様々な危険 家屋の倒壊、地割れ、山崩れ、液状化、陥没、落下物 ・ 正しい情報の入手 ・ 緊急地震速報への対応 ・ パニック防止と安全な行動 ・ 地震災害への家庭での備え ・ 地震に応じた避難経路と避難場所の確認 ・ 津波による危険 ・ 津波警報と避難の仕方
気象災害	気象条件によって発生しうる危険について理解し、安全に行動することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 風水害のときの危険 家屋への浸水、家屋の倒壊、高潮、河川の氾濫、土石流、がけ崩れ ・ 風水害情報と避難と避難誘導の仕方 ・ 屋根からの落雪や地吹雪等の危険 ・ 落雷しやすい気象条件 ・ 落雷による屋内外での危険
火 災	火災の発生時、避難するだけでなく、被害を最小限にとどめるための行動をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 火災の原因と危険 ・ 危険物の取扱い ・ 火災に対する心構え ・ 有害な煙に対する行動の仕方 ・ 火災の特性 ・ パニックの防止と安全な行動 ・ 初期消火の方法 ・ 避難経路、避難場所の確認と様々な場面に応じた避難の仕方
原子力災害	放射線による事故の危険について理解し、安全に行動をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正しい情報の入手 ・ 避難経路と安全な避難と避難誘導の仕方 ・ 放射線による原子力災害に係る防災対策 ・ 放射線による健康被害防止対策 ・ 防災訓練への積極的参加
避難所の役割と安全	災害発生時における避難所の役割と生活を理解し、積極的に運営に係ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所生活と相互扶助 ・ 自主組織の活動への積極的参加 ・ ボランティア活動への積極的参加 ・ 災害安全に関する学校行事の意義の理解 ・ 防災避難訓練等行事への参加の仕方

2 生活安全

(1) 幼稚園

	目 標	指 導 事 項
生活安全	園舎・園庭で安心して生活をするために必要な約束が分かり、守る。 遊具や道具の使い方が分かり、安全に気を付けて使う。	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に行動できる場所、教職員と一緒に使用する場所などの約束 ・危険な場所、危険な遊びについての意識化 ・危険な状態（場所、環境、行動等）に気付いた場合の教職員等への連絡方法 ・園庭の固定遊具の安全な遊び方 ・遊びに必要な道具や材料（はさみ、鉛筆等）の安全な使い方や扱い方、片付け方 【留意点】 <ul style="list-style-type: none"> ・危険な行動を見かけたら教職員間の連絡を取り、指導を徹底する。 ・幼児の発達に合わせた道具の選択・設定を工夫する。 ・遊具、道具の使用前と使用後の安全点検を行う。
生活安全 (防犯)	事件や事故が発生した時に自分の身を守る適切な行動が分かる。 不審者の侵入時の避難の仕方や対応の仕方を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・大人（教職員・保護者等）への通報 ・応急処置の必要性 ・基本的な行動 <ul style="list-style-type: none"> 知らない人についていかない 大人に知らせる (い・か・の・お・す・し) ・不審者侵入の合図を知り、教師から離れない ・自分の身を守る適切な行動 <ul style="list-style-type: none"> 一人で遠くへ行かない ・事件や事故に遭遇した時の適切な行動（助けを求める） 【留意点】 <ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材、劇的な動きでわかりやすく示す。 ・必要以上に恐怖心を抱かせないようにして理解を図る。 ・家庭との連絡体制を日常から整え、常に点検しておく。

(2) 小学校低学年（1・2年生）

	目 標	指 導 事 項
生活安全	学校及び家庭、地域での決まりを守ることの大切さを知る。 けがをしないような道具の使い方や行動の仕方を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい服装の選び方 ・廊下・階段歩行等学校生活の中での安全な決まり ・清掃用具の安全な使用の仕方 ・給食の安全な運搬の仕方 ・家や家の周囲で安全な行動の仕方
生活安全 (防犯)	地域・社会で起こる犯罪や危険について理解し、犯罪に巻き込まれないよう行動することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な避難の仕方 ・誘拐に遭わないための行動 ・遊び場やその行き帰りでの安全 ・安全を守ってくれる人々や犯罪防止のため活動する人々

(3) 小学校中学年（3・4年生）

	目 標	指 導 事 項
生活安全	学校及び家庭、地域で安全に行動をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい服装の選び方 ・休憩時間中の安全な行動の仕方 ・安全な清掃作業の仕方 ・熱いものの配膳の仕方 ・家や家の周囲で起こる事故、犯罪被害と安全な行動の仕方
生活安全 (防犯)	地域・社会で起こる犯罪や危険について理解し、自分たちにできることを考えて行動することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な避難の仕方と教職員への通報 ・けが人の通報の仕方と簡単な応急手当の仕方 ・誘拐の起こりやすい場所と時間帯 ・安全を守ってくれる機関や団体の仕組み

(4) 小学校高学年（5・6年生）

	目 標	指 導 事 項
生活安全	学校及び家庭、地域での決まりを守ることの大切さを知る。 けがをしないような道具の使い方や行動の仕方を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい服装の選び方 ・廊下・階段歩行等学校生活の中での安全な決まり ・清掃用具の安全な使用の仕方 ・給食の安全な運搬の仕方 ・家や家の周囲で安全な行動の仕方
生活安全 (防犯)	地域・社会で起こる犯罪や危険について理解し、犯罪に巻き込まれないよう行動することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な避難の仕方 ・誘拐に遭わないための行動 ・遊び場やその行き帰りでの安全 ・安全を守ってくれる人々や犯罪防止のため活動する人々

(5) 中学校

	目 標	指 導 事 項
生活安全	学校、家庭内で発生する事故の原因を知り、防止できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 服装や持ち物等に関わって起こる事故とその防止 ・ 不安定な健康状態に関わって起こる事故とその防止 ・ 学校施設での事故とその原因 ・ 施設設備の安全な利用及び点検・設備 ・ 始業前等休憩時間中に廊下・階段・窓等で起こる事故とその原因 ・ 始業前や放課後等休憩時間中の校舎内外での安全な行動の仕方 ・ 電気、ガス、灯油等家庭内の危険物の種類とその取扱い ・ 家庭内の安全点検
生活安全 (防犯)	学校内で事件が発生した際、適切に行動できるようにする。 犯罪に巻き込まれないために行動できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な場面に応じた避難の仕方と教職員への通報 ・ けが人の介助の仕方と通報の仕方 ・ 止血法、心肺蘇生法等の応急手当の方法と実際 ・ 誘拐等犯罪が起こりやすい時間帯・場所・手口 ・ 被害に遭った場合の通報等の適切な行動 ・ 被害に遭わない日頃からの心構え

(6) 高等学校

	目 標	指 導 事 項
生活安全	学校、家庭内で発生する事故の原因を知り、防止できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 服装や持ち物等に関わって起こる事故とその防止 ・ 不安定な健康状態に関わって起こる事故とその防止 ・ 学校施設での事故とその原因 ・ 施設設備の安全な利用及び点検・設備 ・ 始業前等休憩時間中に廊下・階段・窓等で起こる事故とその原因 ・ 始業前や放課後等休憩時間中の校舎内外での安全な行動の仕方 ・ 電気、ガス、灯油等家庭内の危険物の種類とその取扱い ・ 家庭内の安全点検
生活安全 (防犯)	地域の防犯に目を向け、自分たちも安全な街作りに係わることの必要性を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な場面に応じた避難の仕方と教職員への通報 ・ けが人の介助の仕方と通報の仕方 ・ 止血法、心肺蘇生法等の応急手当の方法と実際 ・ 地域の犯罪被害の現状と安全な行動 ・ 犯罪被害の防止活動や対策と安全な行動 ・ 地域・社会生活の安全における自分たちの責任と役割

3 交通安全

(1) 幼稚園

	目 標	指 導 事 項
交通安全	道路での安全な歩行を身に付け、交通ルールを理解する。 雨や雪の日等の安全な歩行の仕方が分かり、身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・道路を歩く時の基本的な心構え道路の端・右側を歩く 等 ・交通事故の原因となる危険な行動 飛び出し、路上での遊び 等 ・雨の日の歩き方や雨具の安全な使い方 ・降雪や道路の凍結、強風時の安全な歩き方 ・運転操作の支障となる行動と安全な態度 ・チャイルドシートの着用 ・後部座席に乗車する場合の安全に関する約束 【留意点】 <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な方法について視聴覚教材等を利用して指導の徹底を図る。 ・交通安全に係る保護者の認識や行動がモデルになることを知らせ、保護者対象の交通安全教室等も開催する。
交通安全 (自転車)	自動車に乗車するときの安全な行動の仕方が分かり、行動する。 自転車を利用するときの約束がわかり行動する。	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で自転車に乗る時の約束 決められた場所で乗る 保護者の付き添い ヘルメットの着用 等 ・補助いすの安全な乗り方 ・補助いすの安全な降り降りの仕方 【留意点】 <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な約束を保護者とともに確認する。 ・自転車の安全な走行は保護者がモデルとなることを知らせる。

(2) 小学校低学年（1・2年生）

	目 標	指 導 事 項
交通安全	道路の利用のきまりや、危険について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の構造や利用のきまり、安全な歩行の仕方 ・道路を横断するときに手を挙げる等の運転者への合図の仕方 ・雨や雪の日の安全な歩行の仕方 ・白杖や点字ブロック等の意味 ・自動車の死角と内輪差 ・シートベルトの着用 ・夕方や夜間の運転者からの見え方と安全な行動の仕方 ・交通安全に関わる人々と施設の利用の仕方
交通安全 (自転車)	自転車乗車の際の基本的なきまりを理解し、安全な行動ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・身体に合った自転車と安全な練習場所及びヘルメットの着用 ・自転車に乗ってよい場所 ・自転車乗車中に起こりやすい事故 ・自転車の日常点検と手入れ ・自転車に関する規則 ・正しい駐輪の仕方

(3) 小学校中学年（3・4年生）

	目 標	指 導 事 項
交通安全	自分のことだけでなく、自動車の特性や周りの人々の動きによって危険が発生することを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の通行区分の意味と安全な歩行及び飛び出しの危険性 ・信号を守るの意味と交差点の安全な横断の仕方 ・道路の凍結、強風時の安全な行動の仕方 ・幼児、高齢者、障害のある人たちの交通場面における行動の特性 ・自動車の種類による死角と内輪差 ・シートベルトの着用とその効果 ・悪天候や夜間での車両の動きの特徴と安全な行動の仕方 ・交通安全に関する機関や団体の仕組みと施設の利用の仕方 ・交通事故が起きた時の通報の仕方
交通安全 (自転車)	自転車乗車の際の危険について理解し、事故を防止するために安全な行動をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車の正しい乗り方と乗ってはいけない場合及びヘルメットの着用 ・自転車の通る所と安全な走行の仕方 ・加害事故および自損事故の状況・原因と事故防止 ・並進・不適切な車間距離の危険性 ・自転車の各部の名称と働き及び点検と手入れ ・自転車に関係のある道路標識と道路標示

(4) 小学校高学年（5・6年生）

	目 標	指 導 事 項
交通安全	気象の違いによる自動車の特性を理解し、安全な行動ができるようになる。安全な交通社会を築くための自分の役割について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・交差点で左折・右折してくる車の危険と安全な通行の仕方 ・薄暮や夜間の安全な歩行の仕方（明るい服装や反射材の効果） ・幼児、高齢者、障害のある人たちの安全な通行のための保護の仕方 ・自動車の速度と停止距離 ・雨や雪の制動距離の違いと安全な行動の仕方 ・交通安全に関する機関や団体の仕組みと施設の利用の仕方 ・地域の交通安全活動の理解と参加 ・地域の交通安全と小学生の責任と役割
交通安全 (自転車)	自分の自転車走行の仕方が原因で事故が起こることがあることを知り、安全に乗車することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行者及び他の車両に対する事故、ヘルメットの効果と着用 ・交差点の通行の仕方と雨天や夜間の安全な走行の仕方 ・加害事故の責任と補償 ・集団走行の危険と安全な走行の仕方 ・定期的・乗車前の点検の仕方 ・自転車に関する基本的な交通法規 ・歩行者の安全と正しい駐輪の仕方

(5) 中学校

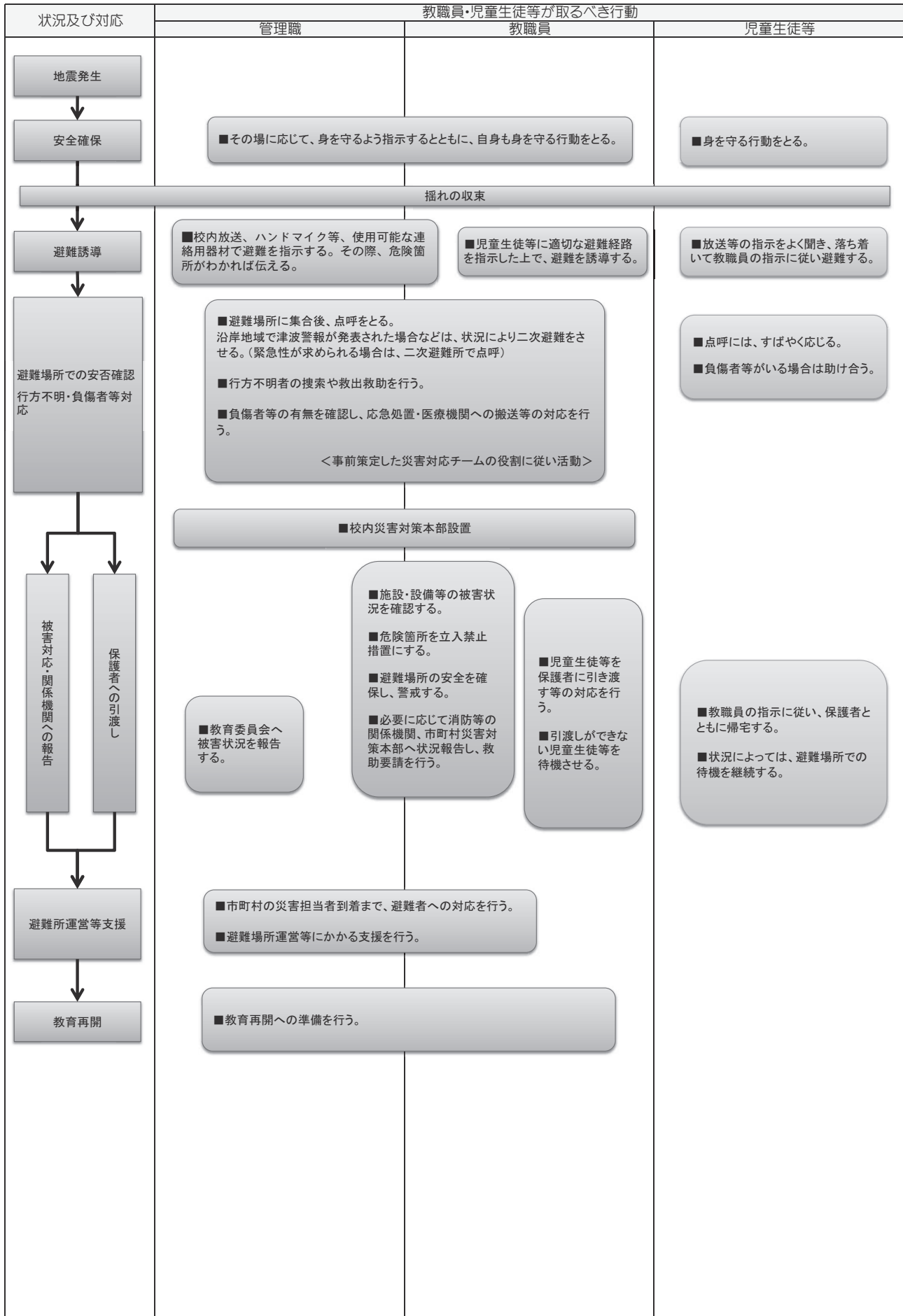
	目 標	指 導 事 項
交通安全	危険を回避するための行動を理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・道路施設とその役割の理解 ・信号の意味や標識・表示の種類と意味の理解 ・通学路やスクールゾーン設置の意味 ・道路条件や交通環境の変化に応じた安全な通学の仕方 ・交差点を横断するときの危機の予測と安全確認の仕方 ・歩行者の心理とその理解 ・雨、降雪、道路の凍結、強風等の交通の危険と安全な歩行の仕方 ・踏切等の安全確認と非常ボタンの取扱い ・白杖や点字ブロック等の理解 ・幼児、児童、高齢者や障害のある人たちの行動の特性の理解と保護及び介助 ・自動車の速度と停止距離および前照灯の照射距離 ・原動機付き自転車や自動二輪車、自動車の事故の特徴 ・交通事故が発生した場合のシートベルト着用による被害軽減効果
交通安全 (自転車)	自転車に関する規則を知り、安全に行動することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生に多い自転車事故の特徴 ・自転車の安全な利用の仕方（選び方等基本的な事項） ・自転車専用道路、車道、歩道通行可等の通行区分 ・加害事故の責任と補償制度 ・単独走行の場合と集団走行の場合の危険の違い ・自転車に関する基本的な交通法規の理解 ・自転車に関する道路標識と道路標示等道路交通法に定められている関係事項の理解 ・違法駐輪・迷惑駐輪の現状と問題点 ・秩序ある駐輪と施錠、防犯登録等の必要性和放置、盗難等の防止

(5) 高等学校

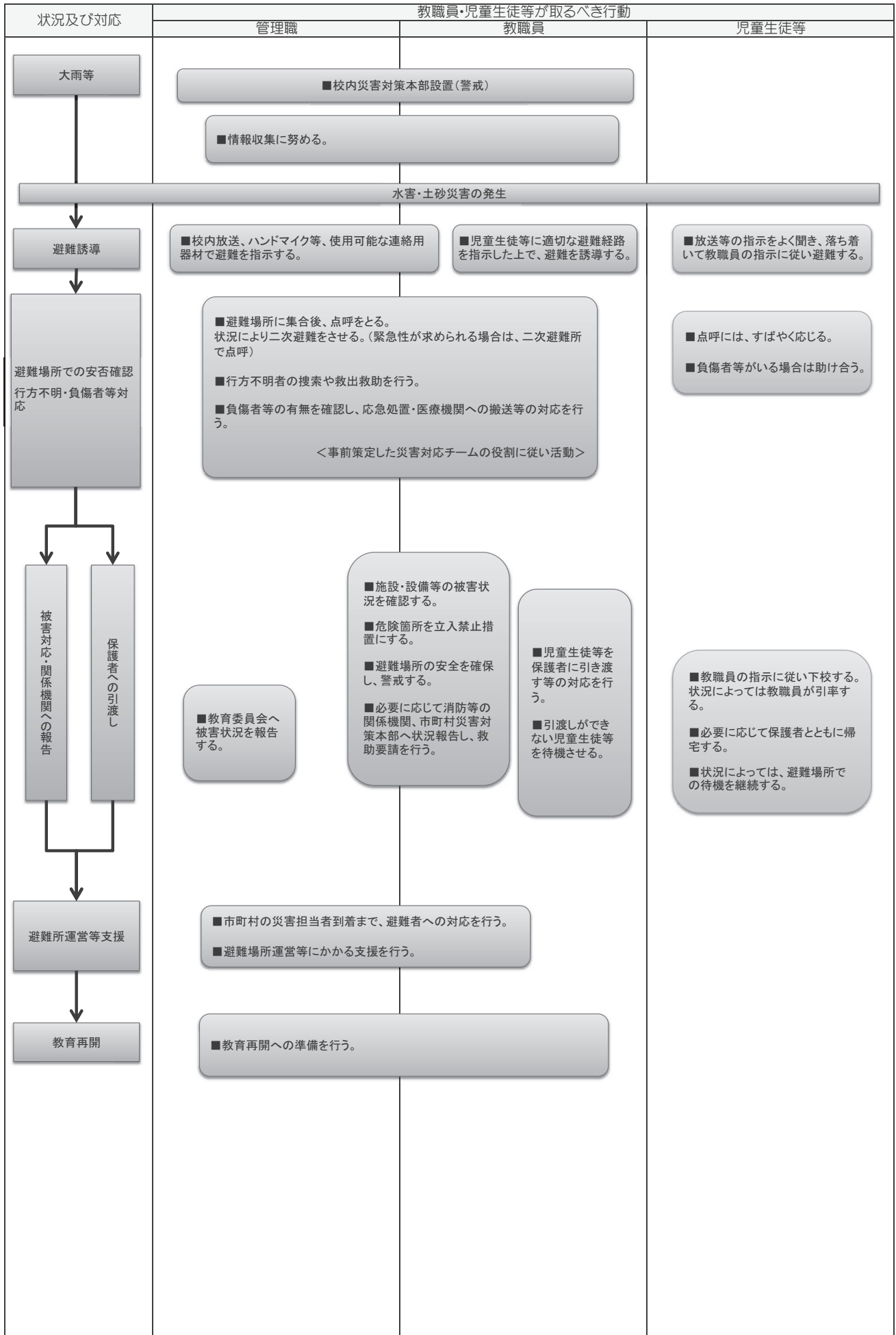
	目 標	指 導 事 項
交通安全	<p>二輪車、自動車の特性について理解し、道路の安全な歩行や安全な走行ができるようにする。 将来、二輪車や自動車の運転者となることを見据え、運転者の社会的責任と、安全な運転者としての行動について理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路施設とその役割の理解 ・ 標識・標示の種類と意味の理解 ・ 通学時の事故の現状の理解と安全な行動 ・ 通学方法に応じた安全な行動の仕方 ・ 交差点の危険性の理解と安全な行動の仕方 ・ 横断中の事故の現状とその原因の理解と安全な行動 ・ 歩行者の心理とその理解 ・ 気象や環境の変化によって発生する事故の現状の理解と安全な行動 ・ 鉄道（踏切や駅ホーム等）での事故の現状と原因の理解と安全な行動や非常ボタンの取扱い ・ 白杖や点字ブロック等の理解 ・ 幼児、児童、高齢者や障害のある人たちの行動の特性の理解と保護及び介助 ・ 自動車の速度と停止距離および前照灯の照射距離 ・ 二輪車と自動車の事故の現状とその原因 ・ 二輪車と自動車の特性と運転者の条件 ・ 交通事故が発生した場合の被害軽減効果（ヘルメット、シートベルト、エアバック）と正しい着用の仕方 ・ 運転免許制度と安全な通行 ・ 運転者の義務・責任と補償
交通安全 (自転車)	<p>自転車に関する規則を知り、安全に行動することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車事故の現状とその原因の理解と安全な行動 ・ 自転車の安全な利用の仕方（乗ってはならない場合等） ・ 歩行者保護の立場に立った安全な走行の仕方 ・ 自転車通行区分や合図の仕方 ・ 自転車利用者としての義務と責任の理解と安全な走行 ・ 事故の責任と補償制度 ・ 自転車の用途に合った選び方 ・ 自転車の関係法規の理解 ・ 違法駐輪・迷惑駐輪の現状と問題点 ・ 秩序ある駐輪と施錠、防犯登録等の必要性和放置、盗難の防止

III 事件・事故災害における対応フロー図

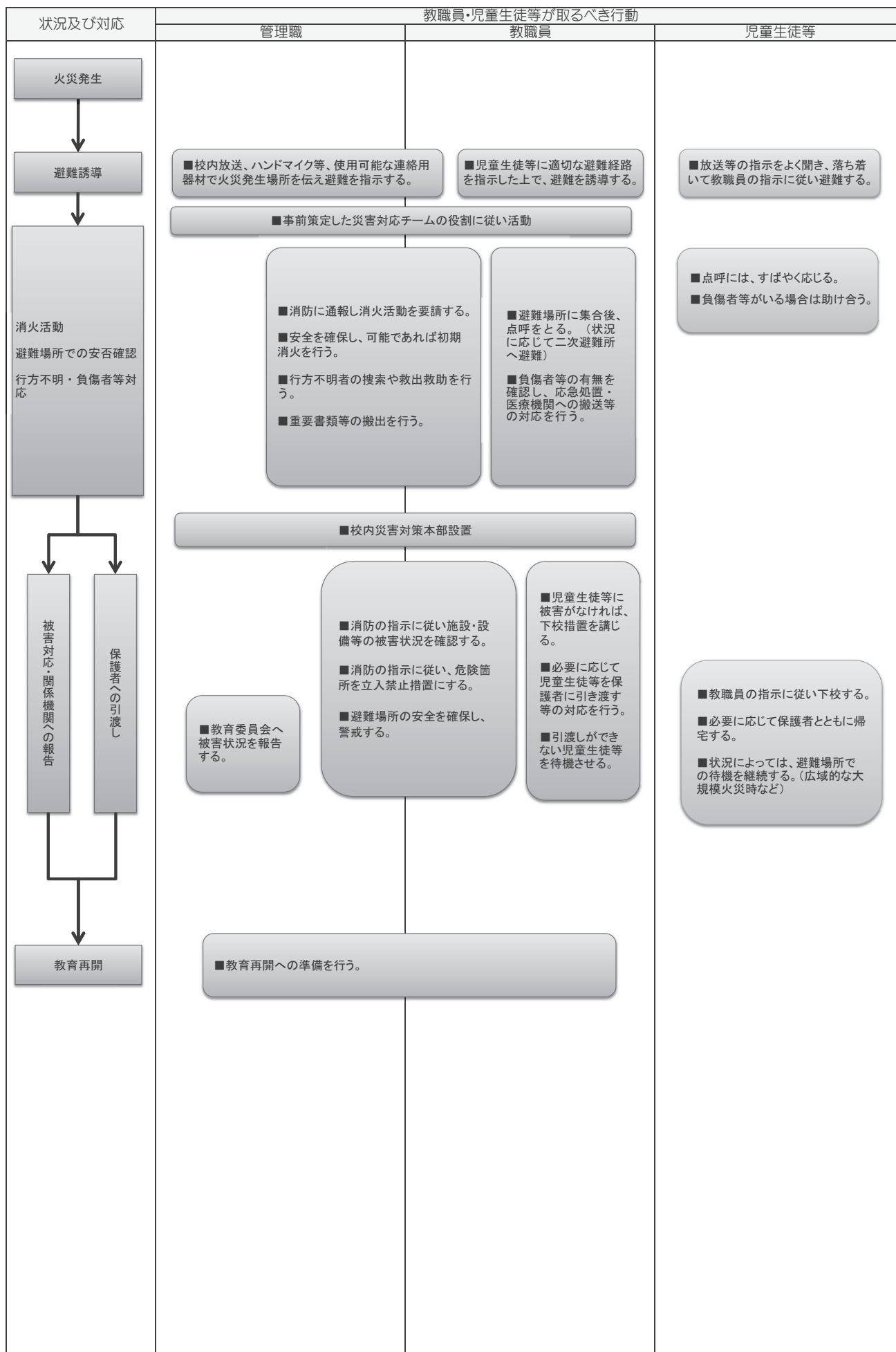
1 地震発生時における対応フロー（在校中）



2 水害・土砂災害発生時における対応フロー（在校中）



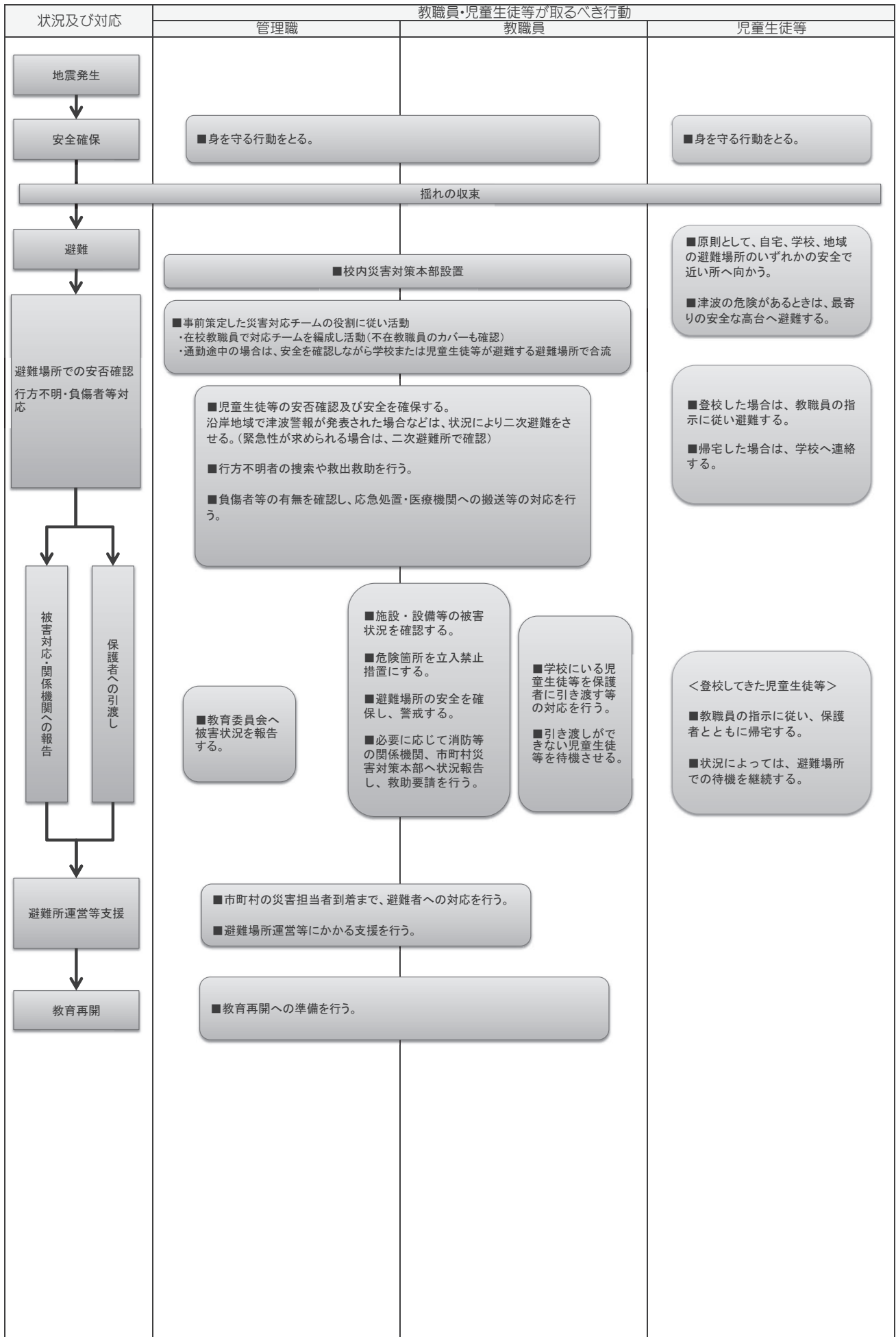
3 火災発生時における対応フロー(在校中)



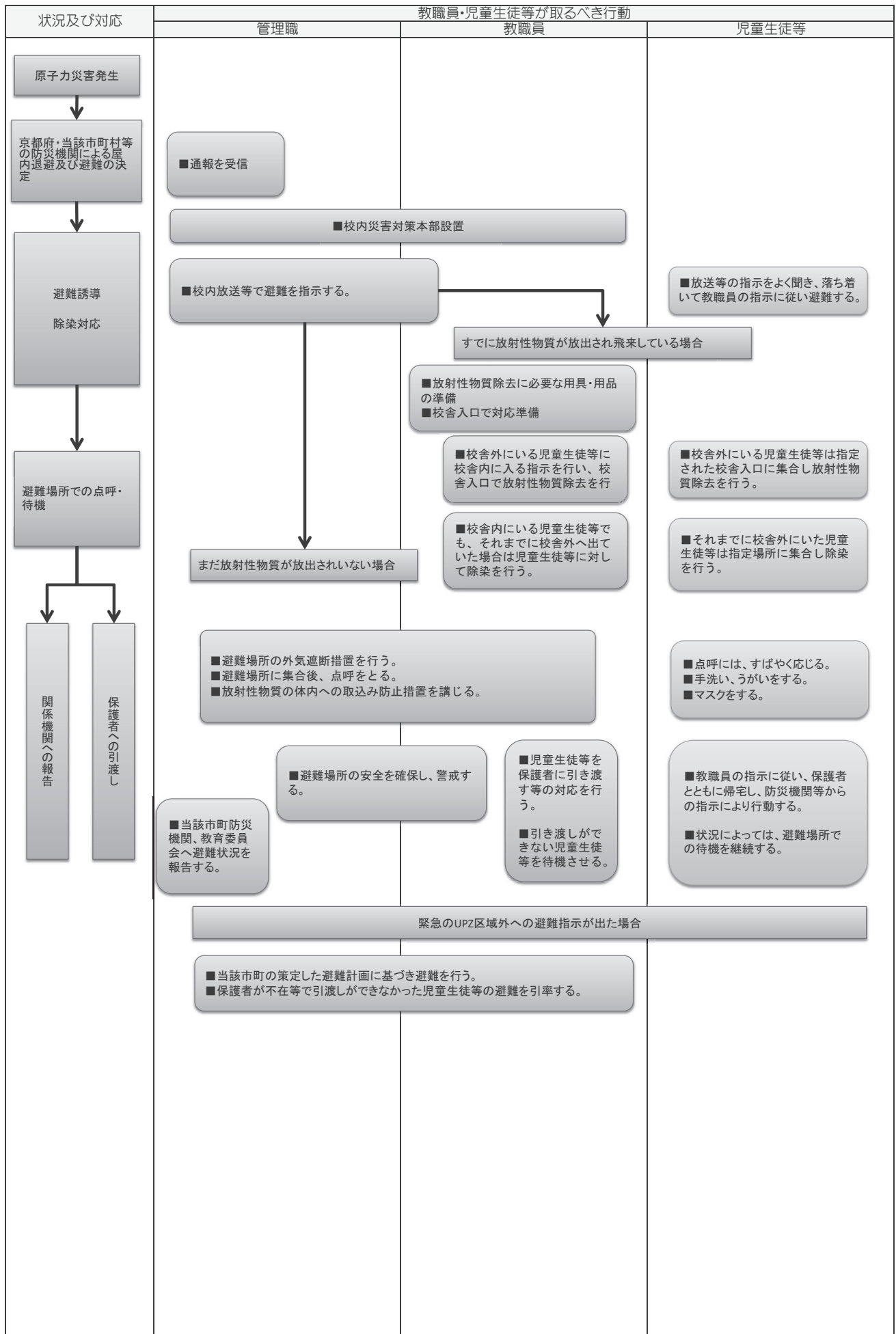
4 地震発生時における対応フロー(校外学習中)

状況及び対応	教職員・児童生徒等が取るべき行動		
	管理職(学校)	引率教職員	児童生徒等
地震発生		<ul style="list-style-type: none"> ■地形や周囲の状況に応じて、身を守るよう指示するとともに、自身も身を守る行動をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■身を守る行動をとる。
安全確保			
揺れの収束			
避難誘導		<ul style="list-style-type: none"> ■最寄りの安全な場所へ避難させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■引率教職員の指示に従い避難する。
避難場所での安否確認 行方不明・負傷者等対応	<ul style="list-style-type: none"> ■あらかじめ決めておいた緊急用連絡方法で現地との連絡体制を確保するとともに、被害情報収集体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ■安全な場所に集合後、点呼をとる。沿岸地域で津波警報が発表された場合などは、状況により二次避難をさせる。(緊急性が求められる場合は、二次避難所で確認) ■行方不明者の捜索や救出救助を行う。 ■負傷者等の有無を確認し、応急処置・医療機関への搬送等の対応を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■引率教職員とはぐれた場合は、あらかじめ決めておいた方法で連絡をとる。 ■引率教職員と連絡がとれない場合は、現地の警察や公的機関等に行くなど安全を確保した上で、学校・保護者へ連絡する。
被害への対応、現地との連絡、保護者への連絡、関係機関との連絡	<ul style="list-style-type: none"> ■引率教職員と連絡をとり、状況を把握し、必要な指示をする。 ■テレビ・ラジオ等で現地の被害情報を収集する。 ■状況により応援教職員を派遣する。 ■保護者へ状況を連絡する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■学校と連絡をとり、状況を報告し、指示を受ける。 ■必要に応じて現地の消防等の関係機関へ救助要請を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■引率教職員の指示に従い行動する。
<ul style="list-style-type: none"> ■教育委員会へ被害状況を報告する。 			
帰校・帰宅への対応	<ul style="list-style-type: none"> ■交通機関の状況や現地の安全状況を確認の上、帰校・帰宅か現地待機などの対応を行う。 		

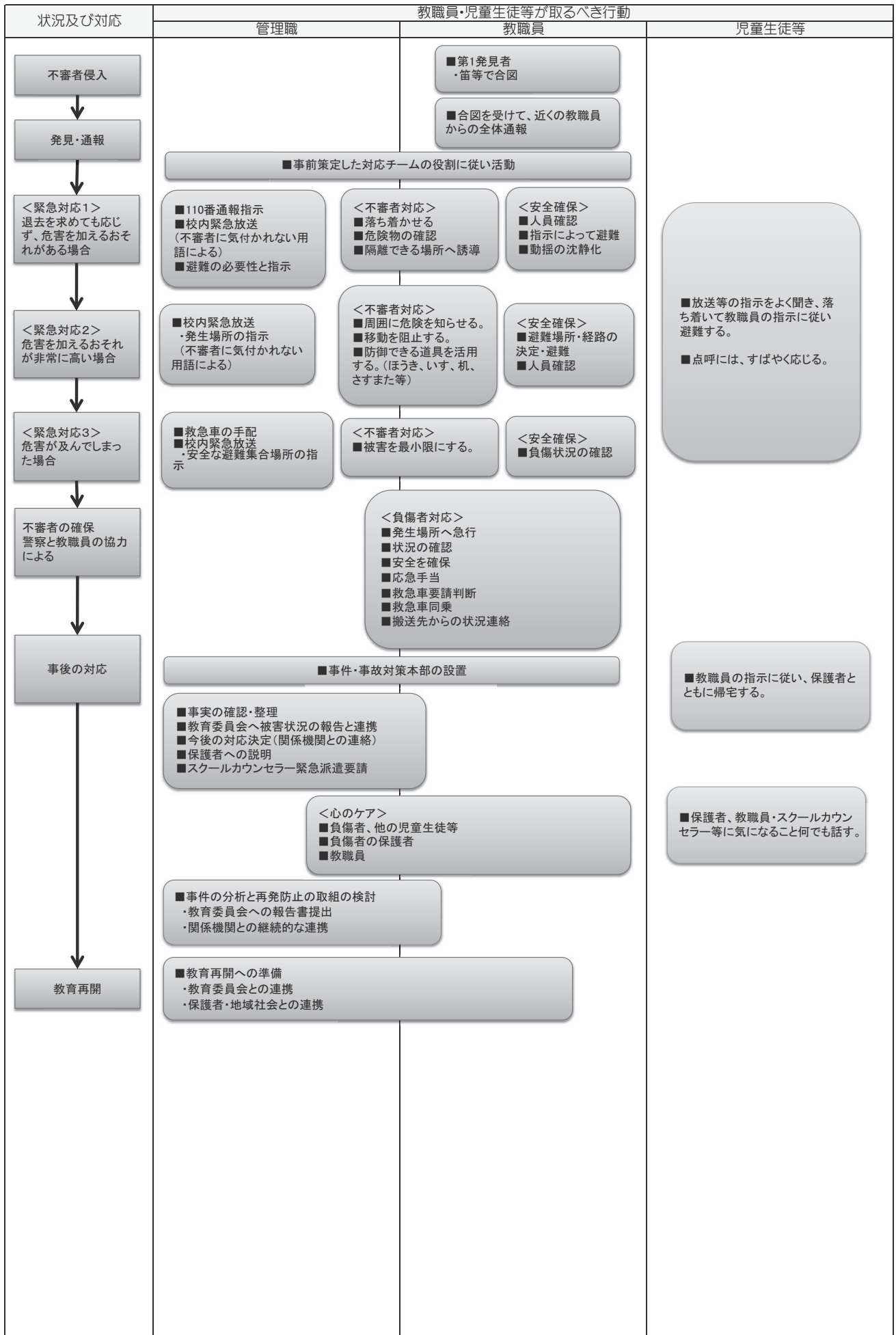
5 地震発生時における対応フロー（登下校中）



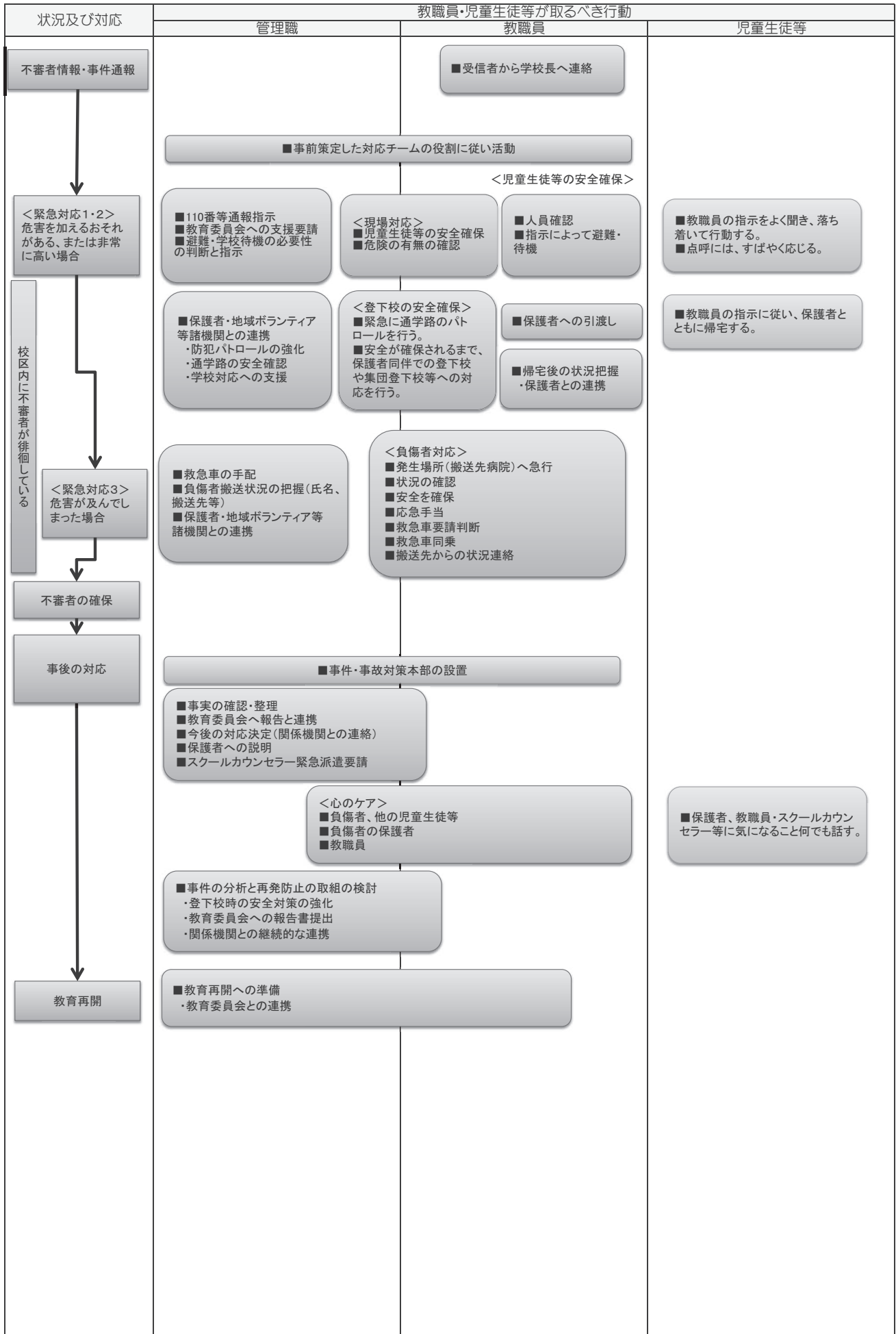
6 原子力災害発生時における対応フロー（在校中）



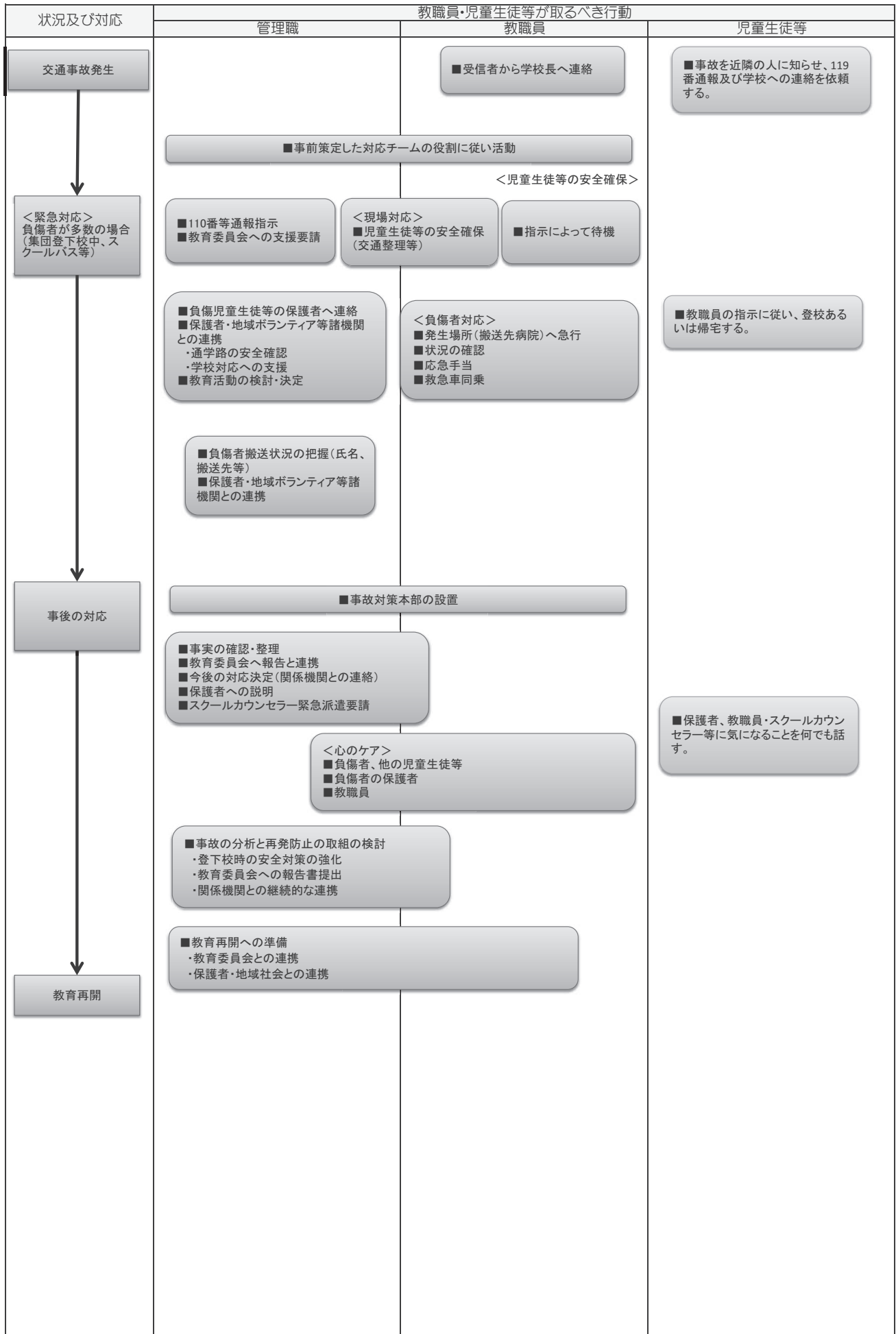
7 不審者侵入時における対応フロー



8 登下校中の不審者情報・事件対応フロー



9 登下校中の交通事故対応フロー



VI 防災に関する取組の見直しのためのチェックシート

「学校安全における防災に関する取組の見直しについて」(平成23年6月 京都府教育委員会)掲載

- ・それぞれの項目で示した内容について各学校での取組を見直す際に使用してください。
- ・すべての欄を網羅することが主目的ではなく、自校に必要な取組に見落としがないかチェックしていただくものです。
- ・チェックは1度だけで済ませるのではなく、学期ごとなど定期的に行うことが有効です。

チェックシート

1 多様な想定に基づく避難訓練の検討と実施

視点：災害の種類			
地震（津波）	沿岸地域は津波も含む 災害レベルごとによる避難方法の検討		設定している
風水（雪）害	学校が直接被害に遭った状況の訓練		設定している
	警報等発令時の下校に関する訓練		設定している
火災	校内で火災発生の危険性が高い場所を適宜想定しての訓練 火災の規模も考慮		設定している
原子力災害	屋内退避、指定避難場所への移動訓練		設定している
視点：発生の時間帯			
授業中	教員の指導のもと活動している状況		設定している
休み時間	児童生徒等が教室を含む学校敷地内に分散し、教職員が近くにいない状態		設定している
放課後	児童生徒等が学校敷地内外に分散し、教職員が近くにいない状態		設定している
登下校時	教職員が速やかに児童生徒等を保護、指導できない状態		設定している
校外活動時	教員の引率のもと、学校を離れて活動している状況		設定している
視点：避難場所の設定			
学校内での避難	被災状況に応じた校内の避難場所		設定している
学校外（二次避難場所）への避難	災害の種類に応じて設定		設定している
学校内の避難経路	混乱が生じないように児童生徒等にも周知		設定している
二次避難場所への避難経路	複数の経路の設定		設定している
視点：災害の規模			
甚大なレベル	広域的に被災し、交通機関、通信機器が不通 緊急な救援等が困難な状態		設定している
重大なレベル	被害は発生しているが、ある程度の緊急な救援等は求められる状態		設定している
警戒レベル	被害発生には至っていないが、これから被害が予想される状態		設定している
注意レベル	積雪、強風、雷雨などで行動に注意が必要な状態		設定している

チェックシート	2 訓練方法の工夫
----------------	------------------

視点：訓練の工夫			
通常訓練	一般的な訓練		設定している
緊急訓練	予告なしで実施し、対応を検証する訓練		設定している
机上訓練	教職員による机上演習		設定している
	児童生徒等を含めた机上演習		設定している
<small>地域の関係機関・消防署・自主防災組織等と連携した訓練</small>	関係機関・団体との合同訓練		設定している
集合・点呼訓練	全校集会等の児童生徒等が集合するときを利用した訓練		設定している
関係諸機関・家庭への緊急連絡訓練	電話連絡、電話連絡網、電子メールの一斉配信などの訓練		設定している

チェックシート	3 訓練後の検証
----------------	-----------------

視点：訓練実施後の検証（自校の評価項目の設定）			
避難の迅速性	目標とする時間等を設定しているか		設定している
人数確認の方法と迅速性	人数確認の正確性・迅速性等の目標を設定しているか		設定している
設備、器材等の点検	緊急時の放送機器は正常に機能しているか		機能している
	指示伝達手段は使用できる状態で整備されているか		整備されている
	情報収集機器は整備されているか		整備されている
	避難設備（救助袋、避難ばしご等）に不備はないか		不備はない
体制の円滑な運用	教職員は役割分担に沿って行動できていたか		行動できた
	不明児童生徒等・教職員の救助体制は確立されているか		確立されている
	負傷者の救護体制は確立されているか		確立されている

チェックシート	4 対応チームの編成
----------------	-------------------

視点：危機管理マニュアルにおける対応チームの編成			
明確な役割分担	分担が錯綜することなく、明確になっているか。		明確である
同系統の役割への配置（固定化）	同系統の役割を配置しているか。		配置している
教職員の熟知	役割を熟知し、円滑に行動できるか。		行動できる
役割のカバー体制	不在教職員がいる場合等のカバー体制がとれているか。		体制がとれている

視点：危険等発生直後

教職員の対処行動	教職員自身が役割を理解し、即応できる	できる
	担任不在学級が一目でわかる工夫をしている	している
	本部の指示内容が一覧にしてある	してある
	緊急放送設備の使用が可能である(定期的に点検しているか)	使用可能である
	危険等の情報・状況の共有の方法が確立されているか	されている
行動のフロー図	フロー図を作成しているか	作成している
	掲示・携帯しているか	掲示・携帯している

視点：在校中の避難

避難方法の共通理解	毎年確認しているか	している
下校判断	発生事案や状況別に下校体制を構築し、保護者と共通理解がとれているか	とれている
保護者への連絡	通常の通信機器が機能をしていない場合の連絡体制を複数確立しているか	している
備蓄品	学校待機が長引いた時の備蓄品を準備しているか	している

〈参考〉必要とされるもの

飲料水、非常食、生活用品(使い捨て食器等)、衛生用品(ウエットティッシュ、トイレトペーパー、マスク、簡易トイレ等)

保温器材(毛布、使い捨てカイロ、新聞紙等)、その他(ブルーシート等)

※学校が避難場所となることも含め、当該市町村防災機関と調整して備蓄

視点：被災場所別の避難方法の指導

教室	机の下への避難の際の注意(机の脚の対角線を保持)	指導している
理科室・家庭科室	薬品・調理器具・火の取扱いの注意 机など身を隠す場所がない場合の注意	指導している
音楽室	机など身を隠す場所がない場合の注意 重量のあるピアノの危険性の注意	指導している
保健室	ベッドで休養している場合の注意	指導している
図書室	本棚の転倒、本の落下への注意	指導している
廊下・階段	窓ガラスからの安全な距離の保持 上階からの落下物の回避	指導している
運動場	遊具等の転倒に対する注意	指導している
体育館	落下物や窓ガラスに対する注意	指導している
トイレ	出口の確保に対する注意	指導している

チェックシート		6 登下校時、在宅時に発生する災害における対応	
視点：児童生徒等への指導			
安全指導	在宅時の避難方法を指導(避難場所の確認、家族との連絡方法等)しているか		している
	登下校時の避難方法を指導しているか (自宅・学校・地域の避難場所への避難の選択 等)		している
	定期的に地域の避難場所を確認しているか		している
視点：教職員の対応			
勤務時間外の対応	教職員の自宅から学校(避難場所)への距離等を考慮した集合体制を確立しているか		している
	学校(避難場所)への未到着教職員の状況確認と在校教職員による対応チーム編成ができる体制を確立しているか		している
教職員の地域分担	児童生徒等の安全確認のための地域分担を設定しているか		している
安全確認の方法	児童生徒等の安全確認の方法・体制を多重に確立しているか		している
避難場等の設置	学校が避難場所になった際の対応をしているか		している
視点：保護者等との連絡			
安全確認の方法	安全確認の方法を複数設定し、保護者に周知できているか		できている
被害発生後の連絡体制	通常の通信機器が機能しない場合、他の複数の連絡体制を確立しているか		している

V 学校安全計画例

1 幼稚園

月	4	5	6	7・8	9	
行事	入園式・始業式 定期健康診断	園外保育・遠足	園外保育・遠足 プール開き	短縮保育 終業式	始業式、プール納め 園外保育・遠足	
安全 生活 安全	<ul style="list-style-type: none"> ○園内の安全な生活の仕方 ・登降園の仕方 ・遊びの場や遊具(固定遊具を含む)、用具の使い方 ・小動物のかかわり方 ・困った時の対応の仕方 ※5歳児:新しく使える遊具や用具、場所の使い方 ○子ども110番のいえ ・園外保育での安全な歩き方 ・並ぶ、間隔を空けない等 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や遊びの中で必要な遊具や用具の使い方(いす、はさみ、箸等) ・小動物の世話の仕方 ○集団で行動するときの約束 ・一人で行動しない 	<ul style="list-style-type: none"> ○雨の日の安全な生活の仕方 ・雨具の扱い方、始末の仕方 ○水遊びのきまりや約束 ・準備体操 ・プールでの約束 ○家に帰ってから ・一人で遊ばない ・知らない人についていけない ・乗り物に関する約束 ・車中での過ごし方 	<ul style="list-style-type: none"> ○夏季休業中の生活について安全で楽しい過ごし方 ・花火の遊び方 ・外出時の約束 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活のリズムを整え、楽しく安全な生活 ・登降園時の約束、遊具・用具・固定遊具の安全な使い方 ○戸外で体を十分動かして遊ぶ ・集合の合図・友達との歩行 	
	交通安全	<ul style="list-style-type: none"> ○安全な登降園の仕方 ・初歩的な交通安全の約束 	<ul style="list-style-type: none"> ○道路の安全な歩き方 ・標識、標示(とまれ等)の意味 ・安全確認(左右を見る)の仕方 ※5歳児:交通公園で体験を通しての安全指導(信号の見方) 	<ul style="list-style-type: none"> ○雨の日の安全な歩行の仕方 ・傘の持ち方 ○園外保育での安全な歩き方 	<ul style="list-style-type: none"> ○交通安全に関する約束を再確認 ・飛び出し ・道路で遊ばない ・自転車に乗るときの約束(保護者の付き添い) ・自動車の前後の横断 	<ul style="list-style-type: none"> ○4歳児:園外保育(交通公園)を利用、信号の見方 ○遠足、園外保育での交通安全 ・道の端を歩く ・ふざけながら歩かない
	災害安全	<ul style="list-style-type: none"> ○避難(防災)訓練の意味や必要性 ○避難の仕方 ・避難訓練の合図(サイレン、放送等) ・「おかしも」の約束 ・防災頭巾のかぶり方 	<ul style="list-style-type: none"> ○火災:サイレン、放送で伝達 ※3・4歳児:集合場面 ・火災時は靴を履きかえない ※5歳児:自由に活動している場面 ・教職員の指示を聞いての避難 ○消防署の指導による煙体験(姿勢を低く保つ) ○光化学スモッグに対する注意事項 	<ul style="list-style-type: none"> ○地震:サイレン、放送で伝達 ○地震の時の避難の仕方 ・机の下に潜る ・避難時は靴を履く ○園庭にて保護者への引き渡し訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ○火災:火災報知器・放送にて伝達 ○放送・教職員の指示を聞き、避難 ・非常用滑り台で避難 ・ハンカチを鼻、口に当てる ・持っているものは置いて避難 	<ul style="list-style-type: none"> ○地震:警戒宣言発令) ○大地震が起きたときの避難の仕方 ・保育室にて保護者への引渡し訓練(保護者は徒歩)
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○安全点検表の作成 ○園内外の環境の点検、整備、清掃 ○保育室の道具、用具の点検、整備、清掃 	<ul style="list-style-type: none"> ○園外保育、遠足等の目的地の実地踏査 ○消防署の指導により教職員の通報訓練、初期消火訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児の動線を考え、室内での安全な遊び場作りの工夫 ○プールの清掃、水遊びの遊具、用具の安全点検 ○プールの水質、温度の管理 	<ul style="list-style-type: none"> ○夏季休業中は園舎内外の施設、設備の見回り ○新学期が始まる前に、保育室内外の清掃、遊具、用具の安全点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○使い慣れた遊具、場所の安全指導の徹底 ○危険な行動に対する、教職員同士で共通理解、指導の徹底 	
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会、園だよりで ○園生活を安全に過ごすためのきまり、約束を連絡(登降園の仕方、園児引渡しの仕方出欠の連絡、怪我、病気にに関する連絡方法、災害時の対応) ○通園状況の把握 ○緊急家庭連絡網の作成 ○家庭訪問 ○春の交通安全運動 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会、園だよりで ○定期健康診断の結果の連絡、健康で安全な生活についての意識の高揚 ○緊急家庭連絡網を使い、電話連絡の練習 ○光化学スモッグ警報発令時の対応の仕方を連絡 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会、園だよりで ○水遊びのための健康管理 ○夏の生活に必要な安全 ・雨天時の歩行、登降園時に親子で注意 ・食中毒への配慮 ・熱射病、日射病への配慮 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会、園だよりで ○警察署より交通安全及び防犯(誘拐)について講話 ○夏季休業中の過ごし方(健康生活、落雷、台風などの気象災害への配慮事項の確認) ○地域が行っている防犯パトロールについての情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会、園だよりで ○通学路を見直し、安全な通路、危険な場所の確認 ○生活リズムの調整、体調への十分な配慮 ○警戒宣言発令時の避難行動、引渡し訓練 ○秋の交通安全運動 	

10	11	12	1	2・3
<p>運動会 園外保育・遠足(バス)</p> <p>○様々な遊具の安全な使い方、遊び方 ・ボール(ける、投げる等)の遊び方 ・縄跳びの縄の扱い ※5歳児:後に使う人の安全を考えた片付け方 ○集団で行動するときの約束 ・教職員の指示を聞き、自分から気を付ける</p>	<p>園外保育・遠足 作品展、焼きいも大会</p> <p>○様々な遊具や用具の安全な使い方、片付け方 ・目打ち、段ボールカッター等</p>	<p>もちつき 終業式</p> <p>○体を動かして遊ぶ ・室内にこもらず、戸外で遊ぶ ○冬の健康な遊び方、安全な行動の仕方 ・風邪の予防 ○誘拐の防止 ○暖房機の危険性、安全に関する約束</p>	<p>始業式 園外保育(凧上げ)</p> <p>○進んで体を動かし、安全で活発な行動 ・室内にこもらず、戸外で活動 ○園生活に必要な約束 やきまりを自分から気付き、守る</p>	<p>節分豆まき、子ども会 ひな祭り、修了式・終業式</p> <p>○自分の身の回りの安全に自ら気付き、判断し行動する ・担任以外の教職員の指示 ○違年齢の交流場面での安全に関する自主的な約束の確認</p>
			<p>○雪の日の安全な遊び方、身支度の仕方</p>	
<p>○信号の正しい見方 ・点滅しているときの判断の仕方、適切な行動 ○警察の指導による交通安全 ・安全な登降園の仕方、自転車の補助いすの乗り降りの仕方、道路の渡り方 ○バスの中の安全な過ごし方</p>	<p>○登降園時、園外保育時の交通ルールを自分から気を付け、守る ・自分の耳と目で確かめる習慣 ○電車の乗り降り、車中の安全な過ごし方</p>	<p>○様々な状況、場面での交通ルール ・道路の横断 ・駐車中の自動車の前後の横断 ・信号が点滅している時の行動の仕方など</p>	<p>○様々な状況、場面で、自分で判断する ・自分の耳と目で確かめる習慣 ・交通量の多い道路での歩行、横断</p>	<p>○交通安全のために、自分で判断して行動する ・降園後の生活 ※5歳児:小学校付近の道路の危険な場所、安全な歩行の仕方</p>
<p>〈火災:肉声で通報〉 ○「火事だ」の声による通知、速やかな避難行動 ・周囲の状況、そばにいる教職員の指示 ・第二次避難場所まで避難</p>	<p>〈地震:サイレン、放送で伝達〉 ○大きな揺れが続いているとき ・頭を守る、危険のない場所 ・指示があるまで動かない等 ※5歳児:起震車により大地震の揺れを体験、地震の時の基本動作(親子で体験)</p>	<p>〈地震、火災発生:サイレン、放送で伝達〉 ○第三次避難場所へ避難 ・防災頭巾をかぶつての安全な歩行</p>	<p>〈火災:予告なし〉 ○周囲の状況、放送やそばにいる教職員の指示 ○消防署から指導 ・火災の怖さ、火事発生時の適切な行動</p>	<p>〈地震・火災:予告なし〉 ○大きな揺れが続いているときの自分の身の守り方</p>
<p>○戸外での遊び、遊びの場、幼児の遊びの動線への配慮 ○園外保育を利用し、信号機の見方、道路の歩き方等の体験的な指導</p>	<p>○電車を使つての遠足では、使用する駅のホームの状況も含めて遠足の実地踏査</p>	<p>○暖房設備の点検、使用するための準備 ○風邪の流行等の情報の収集、手洗いうがいの励行</p>	<p>○室内での遊び、狭い遊び場での安全管理・教職員同士の連携・調整 ○暖房の温度、室内の換気に留意 ○戸外での遊びの奨励 ○教職員の消火訓練(消防署の指導) ○積雪時の園庭、園舎の安全確認</p>	<p>○1年間の安全点検の評価・反省 ○次年度の組織の防災組織の再編成</p>
<p>保護者会、園だよりで ○戸外での活動、徒歩での通園などへの協力依頼 ○警察の指導により、登降園の様子、幼児が自分で判断し、安全な歩行の仕方を身に付けるための指導協力</p>	<p>○消防署の指導により ・起震車で地震体験 ・家庭で地震が起こった場合の対処の仕方</p>	<p>保護者会、園だよりで ○手洗い、うがいの励行と習慣化 ○冬休み中の健康で安全な生活について ○年末年始の地域の防犯、防災活動に関心をもち、幼児に伝える</p>	<p>保護者会、園だよりで ○登降園時の安全、大地震発生時の避難場所、連絡方法などを再確認 ○降雪時の登降園時の歩行、身支度などへの配慮について連絡と協力依頼</p>	<p>保護者会、園だよりで ○就学に向けての心構え(危険な道路、場所を教える等) ○春休み中の生活について</p>

2 小学校

月		4	5	6	7・8	9	
項目		通学路を正しく歩こう	安全に休み時間を過ごそう	梅雨時の安全な生活をしよう	自転車のまきりを守ろう	けがをしないように運動しよう	
月の重点							
道徳		規則尊重	生命の尊重	思いやり・親切	助け合い	郷土愛	
安全学習	生活	生	○移種べら、スコップの使い方	○道具の使い方		○はさみ、カッターナイフの使い方	
		交	○地域巡回時の交通安全	○野外観察の交通安全	○公園までの交通安全	○虫探し、お店探検時の交通安全	
	社会	生	○校区地図作り			○警察のはたらき	
		交	○校区地図作り			○警察のはたらき	
	理科	生	○アルコールランプ、虫めがね、移種ごての使い方	○カバーガラス、スライドガラス、フラスコの使い方	○スコップ、ナイフの使い方	○夜間観察の安全	○観察中の安全
		交	○野外観察時の交通安全			○試験管、ピーカーの使い方	○フラスコ、ガラス管の使い方
	図工	生	○はさみ、カッターナイフ、絵の具、接着剤の安全な使い方	○写生場所の安全な選定	○のこぎり、小刀、金づち、くぎ抜き、くぎの使い方	○木づち、ゴム、電動のこ、ニスの使い方	○プールでの船の安全な浮かべせ方
		交		○写生場所の安全な選定			
	家庭	生	○針、はさみの使い方	○アイロンの使い方	○食品の取扱い方	○包丁の使い方	○実習時の安全な服装の選び方
		交		○アイロンの使い方			
	体育	生	○固定施設の使い方	○鉄棒運動時の安全	○水泳前の健康観察	○水泳前の健康観察	○集団演技、行動時の安全
		交	○運動の場の安全確認		○水泳時の安全	○水泳時の安全	
総合的な学習の時間		「わが町探検」(3年)「交通安全マップづくり」(4年)「安全はかせになろう」(5年)「防災マップづくり」(6年)等安全にかかわる課題を年間活動計画に位置づける(20～35時間)					
安全指導	低学年	生	●通学路の確認 ◎安全な登下校 ●安全な給食配膳 ●子ども110番のいえ	●休み時間の約束 ●遠足時の安全	●雨天時の約束 ◎プールの約束 ●遊び場や行き帰りの安全	●夏休みの約束	●運動の時の約束 ◎校庭や屋上の使い方のまきり
		防犯	●通学路の確認 ◎安全な登下校 ●子ども110番のいえ	●遠足時の安全	●遊び場や行き帰りの安全	●夏休みの約束	
		交	●通学路の確認 ◎安全な登下校	●遠足時の安全	●雨天時の約束 ●遊び場や行き帰りの安全	●夏休みの約束 ◎自転車乗車時の約束	
		災	●通学路の確認 ◎安全な登下校	◎避難(防災)訓練の参加の仕方 ●遠足時の安全		●夏休みの約束 ●落雷の危険	
	中学年	生	●通学路の確認 ◎安全な登下校 ●安全な清掃活動	●休み時間の約束 ●遠足時の安全	●雨天時の安全な過ごし方 ◎安全なプールの利用の仕方	●夏休みの安全な過ごし方	●運動時の安全な服装 ◎校庭や屋上の安全な使い方
		防犯	●通学路の確認 ◎安全な登下校 ●誘拐の起こる場所	●遠足時の安全	●子ども110番のいえ	●夏休みの安全な過ごし方	
		交	●通学路の確認 ◎安全な登下校	●遠足時の安全	●雨天時の安全な過ごし方	●夏休みの安全な過ごし方 ●道踏での自転車乗車時のまきり	
		災	●通学路の確認 ◎安全な登下校	◎避難(防災)訓練への積極的な参加		●夏休みの安全な過ごし方 ●落雷の危険	
	高学年	生	●通学路の確認 ◎安全な登下校 ●安全な委員会活動	●休み時間の事故とけが	●雨天時の事故とけが ◎救急法、着衣泳	●自転車の点検と整備の仕方 ●夏休みの事故と防止策 ●落雷の危険	●運動時の事故とけが ◎校庭や屋上で起こる事故の防止
		防犯	●通学路の確認 ◎安全な登下校 ◎身の回りの犯罪		●防犯にかかわる人たち		
		交	●通学路の確認 ◎安全な登下校 ◎交通事故から身を守る	●交通機関利用時の安全	●雨天時の事故とけが		
		災	●通学路の確認 ◎安全な登下校	◎避難(防災)訓練の意義	◎救急法、着衣泳		
児童会活動	生	○児童による安全点検(毎月) ○新1年生紹介集会 ○前期委員会開始	○クラブ活動開始	○ユニセフ募金	○七夕集会	○運動会スローガン作成	
	交						
主な学校行事等	生	○始業式 ○入学式 ○健康診断	○遠足 ○体カテスト ○心肺蘇生法講習会	○プール開き	○終業式 ○七夕集会 ○林間学校 ○夏季水泳指導	○始業式 ○水泳記録会 ○移動教室	
	交	○春の交通安全運動 ◎避難(防災)訓練「火災」	○心肺蘇生法講習会 ○心肺蘇生法講習会	○避難(防災)訓練「地震車」	○交通安全教室 ○林間学校	○秋の交通安全運動	
安全管理	対人管理	生	○校門における不審者進入防止活動(毎月) ○安全な通学の仕方 ○安全のまきりの設定	○固定道具の安全な使い方	○校舎内での安全な過ごし方 ○プールでの安全のまきりの確認	○校庭や屋上での安全な過ごし方	
		交	○安全な通学の仕方 ○安全のまきりの設定			○自転車乗車時のまきり、点検・整備	
	対物管理	生	○施設・設備の安全点検 ○通学路の安全確認 ○安全点検年間計画の確認	○諸設備の点検及び整備	○学校環境の安全点検及び整備	○夏季休業前・中の校舎内外の点検	○校庭や屋上など校舎外の整備
		交	○通学路の安全確認 ○安全点検年間計画の確認				
学校安全に関する組織活動	生	○通学時の交通安全(毎月) ○地域による見守り隊	○校外における児童の安全、行動把握、情報交換	○学校安全(保健)委員会 ○地域の危険箇所点検	○国民安全の日(7月1日) ○地域パトロール	○学校安全(保健)委員会	
		防犯	○校外における児童の安全、行動把握、情報交換	○校外における児童の安全、行動把握、情報交換	○学校安全(保健)委員会 ○地域の危険箇所点検	○国民安全の日(7月1日) ○地域パトロール	○学校安全(保健)委員会
	交	○春の交通安全運動時の教職員・保護者の街頭指導	○校外における児童の安全、行動把握、情報交換	○学校安全(保健)委員会 ○地域の危険箇所点検	○国民安全の日(7月1日) ○地域パトロール	○学校安全(保健)委員会 ○秋の交通安全運動の啓発と街頭指導	
	災		○校外における児童の安全、行動把握、情報交換	○学校安全(保健)委員会 ○地域の危険箇所点検	○国民安全の日(7月1日) ○地域パトロール	○学校安全(保健)委員会	

10	11	12	1	2	3
乗り物の乗り降りに気を付けよう	災害に備えた生活をしよう	安全な冬の生活をしよう	災害から身を守ろう	道路標識を守ろう	安全な生活ができるようにしよう
思いやり・親切	家庭愛	勇気	自然環境保全	友情	愛校心
○たけひご、つまようじの使い方	○郵便局見学時の安全	○はさみ、ステープラーの使い方	○カッターナイフの使い方	○ガスコンロの使い方	○移種ごての使い方
	○郵便局見学時の安全			○ガスコンロの使い方	
	○消防署のはたらき				
	○消防署のはたらき				
	○消防署のはたらき	災害復旧に関わる取組	防災のための国や都道府県が進めている対策や事業		
○太陽観察時の注意	○ポリ袋、ゴム風船の使い方	○鏡、凸レンズ、ガラス器具の使い方	○バーナー、蒸発皿の使い方	○針金、プラスチックの使い方	○塩酸、水酸化ナトリウムの取扱い方
			○バーナー、蒸発皿の使い方		
○彫刻刀の管理の仕方と使い方	○ラッカー、シンナーの取扱い方	○竹ひご、細木の使い方	○小刀の管理の仕方と使い方	○陶器作成時の注意	○共同作品作成時の安全
○熱湯の安全な取扱い方	○ミシンの使い方	○油の安全な取扱い方	○ガスコンロの使い方	○調理用具の使い方	○調理器具の安全な使い方
			○ガスコンロの使い方		
○マット、跳び箱運動時の安全	○けがの防止(保健)	○ボール運動時の安全	○持久走時の安全	○跳躍運動時の安全	○固定施設利用時の安全
	○けがの防止(保健)				
	○けがの防止(保健)				

●廊下の安全な歩行の仕方		●安全な服装 ◎冬休みの安全な過ごし方 ●暖房器具の安全な使用	◎避難時の「おかしもの約束」 ●危ないものを見つけたとき		●1年間の反省 ◎けがをしないために
		◎冬休みの安全な過ごし方	◎避難時の「おかしもの約束」		●1年間の反省
◎乗り物の安全な乗り降りの仕方		◎冬休みの安全な過ごし方 ●安全な服装	●危ないものを見つけたとき	◎身近な道路標識	●1年間の反省 ◎けがをしないために
	◎災害時の正しい行動の仕方・安全な集団行動	◎冬休みの安全な過ごし方 ●雪道の歩き方 ●暖房器具の安全な使用	◎避難時の「おかしもの約束」 ●危ないものを見つけたとき		●1年間の反省 ◎けがをしないために
●校庭での安全な遊び方	●安全な集団行動	◎冬休みの安全な過ごし方 ●暖房器具の安全な使用	●避難時の「おかしもの約束」 ◎安全な身支度	●暖房器具の安全な使用	●1年間の反省 ◎けがをしやすい時間と場所
	●屋外への避難の仕方 ●安全な集団行動	◎冬休みの安全な過ごし方	●避難時の「おかしもの約束」 ◎安全な身支度		●1年間の反省
◎車内での安全な過ごし方		◎冬休みの安全な過ごし方 ●凍結路の安全な歩き方	◎安全な身支度	◎自転車に関係のある道路標識	●1年間の反省 ◎けがをしやすい時間と場所
	屋外への避難の仕方 ●安全な集団行動	◎冬休みの安全な過ごし方 ●凍結路の安全な歩き方 ●暖房器具の安全な使用	●避難時の「おかしもの約束」 ◎安全な身支度	●暖房器具の安全な使用	●1年間の反省 ◎けがをしやすい時間と場所
●校庭の安全点検		●道路凍結時の事故とけが ◎冬休み中の事故とけが ●暖房器具の安全な使用	●安全な身支度、衣服の調整	●暖房器具の安全な使用	●1年間の反省 ◎けがの種類と応急処置
	●避難場所		●安全な身支度、衣服の調整		●1年間の反省
◎乗車時の事故とけが			●安全な身支度、衣服の調整	◎交通ルール	●1年間の反省 ◎けがの種類と応急処置
	◎火災防止 ●避難場所		◎災害時の携行品	●暖房器具の安全な使用	●1年間の反省 ◎けがの種類と応急処置
○運動会進行	○後期委員会開始	○学校まつりの準備	○学校のお誕生日集会(開校記念日)	○クラブ発表会	○6年生を送る会
○運動会 ○連合運動会	○学芸会 ○展覧会	○終業式 ○学校まつり	○始業式 ○連合学芸会 ○書き初め	○節分集会	○卒業式 ○修了式
		○避難(防災)訓練体験			
○電車・バスの安全な待ち方及び乗降の仕方	○安全な避難の仕方	○凍結路の安全な歩き方			○1年間の人的管理の評価・反省
○電車・バスの安全な待ち方及び乗降の仕方	○安全な避難の仕方				○1年間の人的管理の評価・反省
○電車・バスの安全な待ち方及び乗降の仕方		○凍結路の安全な歩き方		○道路標識の種類と意味	○1年間の人的管理の評価・反省
	○安全な避難の仕方	○凍結路の安全な歩き方	○災害時の身の安全の守り方		○1年間の人的管理の評価・反省
○駅、バス停周辺の安全確認	○避難経路の確認	○学校内の危険箇所の確認		○学校内の安全施設の確認	○1年間の学校環境、安全点検の評価・反省
○駅、バス停周辺の安全確認	○避難経路の確認	○学校内の危険箇所の確認		○学校内の安全施設の確認	○1年間の学校環境、安全点検の評価・反省
○駅、バス停周辺の安全確認					○1年間の学校環境、安全点検の評価・反省
○駅、バス停周辺の安全確認	○避難経路の確認 ○防災設備の点検、整備	○学校内の危険箇所の確認	○防災用具の点検、整備	○学校内の安全施設の確認	○1年間の学校環境、安全点検の評価・反省
○地域生活指導情報交換会	○冬季の通学路点検		○PTA安全(保健)委員会	○学校保健委員会	
○地域生活指導情報交換会	○冬季の通学路点検		○PTA安全(保健)委員会	○学校保健委員会	
○地域生活指導情報交換会	○冬季の通学路点検	○年末年始の交通安全運動の啓発	○PTA安全(保健)委員会	○学校保健委員会	○地域交通安全パトロール
○地域生活指導情報交換会	○冬季の通学路点検	○地域防災訓練の啓発	○PTA安全(保健)委員会	○学校保健委員会	

3 中学校

項目		4	5	6	7・8	9	10	
月の重点		安全な登下校をしよう	施設設備の適切な使用方法を学ぼう	梅雨期を安全に過ごそう	健康と安全に気を付けよう	体育祭を安全にやりぬこう	交通法規を理解し守ろう	
道徳		集団の意義	善意や支え	自然愛護	法の遵守	自主自律	友情の尊さ	
安全 学 習	理科	生	○理科室における一般的な注意 ○実験時の危険防止とふきだし服装	○薬品やガラス器具の使い方 ○加熱器具の使い方 ○備品の点検整備		○薬品検査	○電気についての知識	○電気器具の使い方
		交						
		災	○理科室における一般的な注意	○加熱器具の使い方 ○備品の点検整備	○地震発生時のメカニズムと震度 ○火山活動の様式とマグマの性質			
	美術	生	○教室での一般的な注意	○備品の点検整備	○彫刻刀の正しい使い方	○ニードル等の道具の使用の注意 ○備品検査	○印刷機具の使い方	○小型ナイフの使い方
		交						
		災	○教室での一般的な注意	○備品の点検整備				
	体育分野	生	○集団行動の徹底 ○施設、用具の使い方	○陸上競技の適切な場所の使い方と測定の方法 ○器械運動の特性 ○自己の運動能力を知る ○備品の点検整備	○水泳の事故防止について(自己健康管理)	○備品検査	○器械運動における場所や器具の安全 ○ダンスにおける安全な場所の使い方 ○集団行動と協力性	○器械運動における段階的な練習と適切な補助の仕方
		交						
		災		○備品の点検整備			○器械運動における場所や器具の安全	
	保健分野	生	○心身の発達と心の健康(1年) ○傷害の防止(3年)			○熱中症の予防	○疾病の予防(3年)	○健康と環境(2年) ○疾病と予防(3年)
		交						
		災					○自然災害(全学年)	○健康と環境(2年)
技術・家庭	生	○施設設備の使用上の注意	○切削加工時の安全 ○はんだづけによる火傷の注意 ○備品の点検整備	○電気器具の取扱い	○加熱と漏電 ○電機製品製作上の安全配慮 ○備品検査	○工作加工機械や工具の安全点検	○塗装時の換気や火気 ○家庭電気の安全な利用	
	交							
	生	○家庭科室の使用上の注意	○被服領域の一般的な注意 ○備品の点検整備	○アイロン、ミシンの適切な使い方	○備品検査	○食物領域についての一般的な注意	○ガスコロの使い方 ○換気について	
	災	○家庭科室の使用上の注意	○備品の点検整備	○アイロン、ミシンの適切な使い方			○ガスコロの使い方 ○換気について	
総合的な学習の時間		(活動例)「我が町の交通安全対策調べ」「学区安全マップづくり」「災害と町づくり」など(20~35時間)						
安全 指 導	第1学年	生	●中学生になって ●通学路の確認 ●部活動での安全 ●自分でできる安全点検 ◎犯罪被害の防止や通報の仕方 ●清掃方法を確認しよう	●通学時の安全	●雨天時の校舎内での過ごし方 ●校内での事故と安全な生活 ◎水泳、水の事故と安全	●自分の健康チェック ◎夏休みの生活設計と安全	●体育祭の取組と安全	
		交	●通学路の確認 ●自分でできる安全点検	●通学時の安全		◎夏休みの生活設計と安全		
		災	◎犯罪被害の防止や通報の仕方 ●自分でできる安全点検	◎災害時の安全な避難の仕方と日常の備えの仕方 ●通学時の安全	●校内での事故と安全な生活	●落雷の危険や風水害 ◎夏休みの生活設計と安全	◎地震による津波の危険と避難	
	第2学年	生	●通学路の確認 ●自分でできる安全点検 ◎犯罪被害の防止や通報の仕方	●野外活動の安全	●雨天時の校舎内での事故原因 ◎水泳、水の事故と安全 ●中体連大会と安全	●自分の健康チェック ◎夏休みの生活設計と安全	●体育祭の取組と安全	◎部活動の安全とリーダーの役割 ●新人戦について
		交	●通学路の確認 ●自分でできる安全点検	◎交通事故の防止をしよう ●自転車点検 ◎野外活動の安全		◎夏休みの生活設計と安全		
		災	●通学路の確認 ●自分でできる安全点検	●野外活動の安全	◎水泳、水の事故と安全	◎夏休みの生活設計と安全	◎地震による津波の危険と避難	
	第3学年	生	●登下校の安全 ◎心の安定と事故 ●自分でできる安全点検	◎修学旅行と安全	◎水泳、水の事故と安全 ●中体連大会と安全	●自分の健康チェック ◎夏休みの生活設計と安全	●体育祭準備 ●下校指導	
		交	◎犯罪被害の防止や通報の仕方 ●登下校の安全 ◎心の安定と事故 ●自分でできる安全点検	◎修学旅行と安全 ●自転車点検 ◎修学旅行と安全	●中体連大会と安全	◎夏休みの生活設計と安全	●体育祭準備 ●下校指導	◎交通事故の原因と事故の特性(停止距離・内輪差) ●自転車の正しい乗り方と選び方
		災	●登下校の安全 ●自分でできる安全点検			◎夏休みの生活設計と安全	◎地震による津波の危険と避難 ●下校指導	
	生徒会活動	生	○安全委員会	○安全テスト ○校区の安全点検活動	○安全委員会	○交通安全と生活安全の生徒集会	○体育祭	○文化祭準備 ○安全委員会
		交	○安全委員会	○安全テスト ○校区の安全点検活動	○安全委員会	○交通安全と生活安全の生徒集会		○文化祭準備 ○安全委員会
		災	○安全委員会	○安全テスト ○校区の安全点検活動	○安全委員会		○防災の日(1日)	○安全委員会
主な学校行事等	生	○始業式 ○入学式 ○健康診断	○通学(1年) ○野外活動(2年) ○新体力テスト ○修学旅行(3年)	○心臓蘇生法講習会	○終業式 ○夏休みの諸注意	○始業式	○新体力テスト	
	交	○春の交通安全運動			○交通安全教室 ○夏の交通安全運動	○秋の交通安全運動		
	災	○防災訓練(火災)		○防災訓練(地震)		○防災訓練(津波) ○避難訓練(津波)		
安全管理	生	○通学方法の決定 ○安全のきまりの設定	○自分でできる点検ポイントについて ○救急体制の見直し ○熱中症の予防と対策	○校舎内での安全な過ごし方	○プールにおける安全管理について ○夏季休業中の部活動での安全と対応	○身体の安全について及びけがの予防	○自転車の正しい乗り方と危険防止(反射材の効果、無灯火や薄暮時の危険等)	
	交							
	災							
対物管理	生	○通学路の安全確認・安全点検(月1回、1日)	○諸設備の点検・整備	○学校環境の安全点検整備(階段、廊下)	○学校環境の安全点検整備(プール) ○夏季休業前・中の校舎内外の点検	○運動場や校庭など校舎外の整備	○学校環境の安全点検整備(体育館)	
	交	○通学路の安全確認・安全点検(月1回、1日)	○諸設備の点検・整備	○学校環境の安全点検整備(階段、廊下)	○学校環境の安全点検整備(プール) ○夏季休業前・中の校舎内外の点検	○運動場や校庭など校舎外の整備	○学校環境の安全点検整備(体育館)	
	災	○通学路の安全確認・安全点検(月1回、1日)	○諸設備の点検・整備	○学校環境の安全点検整備(階段、廊下)	○学校環境の安全点検整備(プール) ○夏季休業前・中の校舎内外の点検	○運動場や校庭など校舎外の整備	○学校環境の安全点検整備(体育館)	
学校安全に関する組織活動	生	○保護者の街頭指導	○校外における生徒の安全行動把握、情報交換	○学校安全(保健)委員会 ○地域の危険箇所点検	○国民安全の日(1日)の啓発 ○地域安全・パトロール		○学校安全(保健)委員会 ○校内の点検	
	交	○保護者の街頭指導	○校外における生徒の安全行動把握、情報交換	○学校安全(保健)委員会 ○地域の危険箇所点検	○国民安全の日(1日)の啓発 ○地域安全・パトロール		○学校安全(保健)委員会 ○校内の点検	
	災	○保護者の街頭指導	○校外における生徒の安全行動把握、情報交換	○学校安全(保健)委員会 ○地域の危険箇所点検	○国民安全の日(1日)の啓発 ○地域安全・パトロール	○府下一斉防災の日	○学校安全(保健)委員会 ○校内の点検	

11	12	1	2	3
危険を予測し安全な生活をしよう	事故災害から身を守り、適切な行動をしよう	自ら健康を維持していこう	事故の原因について学ぼう	安全な生活ができるようにしよう
社会通帯	郷土愛	人間愛	生命の尊重	社会への奉仕
○力学関係の実験器具の使い方	○薬品検査 ○理科室と準備室の整備			○備品点検 ○薬品点検(台帳管理)
○打ち出しの用具の使い方	○塗装の際の一般的な注意	○カッター、はさみ、コンパス等の使用上の注意	○絵の具、用具の保管、管理の指導	○機具、用具点検
○長距離走行における健康状態の把握と個人の体力にあったペース配分	○武道における場所、用具の適切な使い方と手入れ ○武道における事故防止	○サッカーにおける適切な用具、場所の使い方(ゴール運搬や固定の仕方等)、ルールやマナーの徹底 ○ゲームの安全	○バスケットボールにおける適切な用具、場所の使い方、ルールやマナーの徹底 ○サッカーのゲームの安全	○バスケットボールのゲームの安全 ○器具、用具点検
	○武道における場所、用具の適切な使い方と手入れ	○サッカーにおける適切な用具、場所の使い方(ゴール運搬や固定の仕方等)、ルールやマナーの徹底 ○健康と生活(3年)	○バスケットボールにおける適切な用具、場所の使い方、ルールやマナーの徹底	
○金属材料の性質と切断 ○日常での木製品の利用	○暖房と換気について	○工作機械の安全な利用 ○電子機器の利用と安全	○作業場所の確保と危険の回避	○機具点検整備 ○備品検査(台帳管理)
○調理実習における注意 ○日常食の調理	○暖房と換気について ○備品点検	○保育領域についての一般的な注意	○作業場所の確保と危険の回避 ○電気の安全な利用 ○食生活と健康	○器具点検整備 ○備品検査(台帳管理)

●文化祭の準備と安全	●冬休みの生活設計と安全 ●火器の注意 ◎降雪時の安全	●自分の健康チェック ●持久走大会と安全 ●地域の安全	●施設の安全な利用の仕方 ●けがの発生状況とその防止	●1年間の反省 ●送別球技大会での安全
	●冬休みの生活設計と安全	●持久走大会と安全 ●地域の安全		●1年間の反省
●自転車の安全な乗り方 ◎交通事故の加害と被害	●冬休みの生活設計と安全 ◎降雪時の安全	●持久走大会と安全 ●地域の安全		●1年間の反省
●文化祭の準備と安全	●冬休みの生活設計と安全 ●火器の注意 ◎降雪時の安全 ◎災害への備えと協力(地域の一員として)	●地域の安全	●施設の安全な利用の仕方	●1年間の反省
	●冬休みの生活設計と安全 ●火器の注意 ◎降雪時の安全	●自分の健康チェック ●持久走大会と安全 ●地域の安全	●けがの発生状況とその防止	●1年間の反省 ●送別球技大会での安全
◎交通事故の加害と被害	●冬休みの生活設計と安全 ◎降雪時の安全	●持久走大会と安全 ●地域の安全		●1年間の反省
	●冬休みの生活設計と安全 ●火器の注意 ◎降雪時の安全 ◎災害への備えと協力(地域の一員として)	●地域の安全		●1年間の反省
	●冬休みの生活設計と安全 ●火器の注意 ◎降雪時の安全	●自分の健康チェック ●冬のスポーツと安全 ●地域の安全	●けがの発生状況とその防止	●送別球技大会での安全 ●学校、教室環境の整備修繕(奉仕活動)
	●冬休みの生活設計と安全	●地域の安全		●学校、教室環境の整備修繕(奉仕活動)
◎交通事故の責任と補償	●冬休みの生活設計と安全 ◎降雪時の安全	●冬のスポーツと安全 ●地域の安全		●学校、教室環境の整備修繕(奉仕活動)
	●冬休みの生活設計と安全 ●火器の注意 ◎降雪時の安全 ◎災害への備えと協力(地域の一員として)	●冬のスポーツと安全 ●地域の安全		●学校、教室環境の整備修繕(奉仕活動)
○文化祭準備 ○自転車点検(ライト)		○登下校時の街頭呼びかけ	○安全委員会	○送別球技大会 ○安全委員会
○文化祭準備		○登下校時の街頭呼びかけ	○安全委員会	○安全委員会
○文化祭準備 ○自転車点検(ライト)		○登下校時の街頭呼びかけ	○安全委員会	○安全委員会
○文化祭	○終業式 ○冬休みの諸注意	○始業式 ○持久走大会		○卒業式 ○修了式 ○春休みの諸注意
	○防災訓練と防災学習		○防災訓練(積雪)	
○文化祭の準備と安全 ○電気の正しい使い方	○避難時の約束について	○通学路の見直し ○安全な登下校について	○施設設備等の安全な使い方について	○1年間の人的管理の評価・反省(けがの状況)
○避難経路の確認		○学校環境の安全点検整備(通学路)	○学校環境の安全点検整備(備品)	○1年間の学校環境安全点検の評価・反省
○避難経路の確認		○学校環境の安全点検整備(通学路)		○1年間の学校環境安全点検の評価・反省
		○学校環境の安全点検整備(通学路)		○1年間の学校環境安全点検の評価・反省
○避難経路の確認 ○防火設備・用具の点検整備	○避難所として開放する教室の点検	○学校環境の安全点検整備(通学路)	○学校環境の安全点検整備(備品)	○1年間の学校環境安全点検の評価・反省
○冬季の通学路点検			○学校安全(保健)委員会	
○冬季の通学路点検			○学校安全(保健)委員会	
○冬季の通学路点検	○年末年始の交通安全運動の啓発		○学校安全(保健)委員会	○地域交通安全パトロール
○冬季の通学路点検	○地域防災訓練の啓発	○阪神淡路大震災(17日)の想起啓発活動	○学校安全(保健)委員会	○東日本大震災(11日)の想起啓発活動

4 高等学校

月		4	5	6	7-8	9	
項目		安全な通学	学校生活での安全	梅雨期の健康安全	野外活動での安全	学校内行事における安全	
安全学習	保健体育	生	○体育施設・用具の安全点検 ○既往症の把握	○定期健康診断の結果から運動不適生徒の発見とその指導	○雨季の体育部、グラウンド使用について(転倒防止) (保)応急手当	○水泳の安全指導 ○熱中症の予防指導 ○野外活動と安全 ○体育施設・用具の安全点検	
		交		(保)通学時の交通安全			
		災					
	公民	生	(現)青年期の問題	(現)青年期をどう過ごすか	(現)現代社会の特質	(現)都市問題	
		交					
		災					
	理科	生	○器具・器材の安全な扱い方 ○施設・設備・薬品管理等の点検	○実務上の一般的な注意及び危険防止の注意		(物)衝突・運動エネルギー及びエネルギー保存法則による車の衝突の理解	
		交			(物)摩擦力、運動量、円運動等による車の安全運転の理解		
		災					(物)振動の共振性の理解
	総合的な学習の時間		○地域の安全と防災(30時間)(学習活動例)・防災ホームページの閲覧・防災壁新聞・ポスター・パンフレットの作成・災害時ボランティア活動体験・火災時における応急救護実習・非常食の作り方実習				
	実験・実習を伴う教科		施設器具・機械の取扱いと使用上の注意、点検・整備、熱源・電気器具の取扱いと使用上の注意、点検・整備、化学薬品の取扱いと使用上の注意、点検・整備				
	安全教育	1年 学級活動	生	○高校に入学して ●犯罪被害の防止	●部活動や休憩時の安全	●雨の日の安全行動	●夏休みの生活と安全 ●野外活動の安全
交			●通学時の安全	●交通安全への参加 ●自転車の構造と点検整備	●通学路に潜む危険 ●雨の日の安全行動	●夏休みの生活と安全 ●野外活動の安全	●歩行者の安全と交通環境 ●通学路の安全
災			●防災体制の確立		●地震と安全	●野外活動の安全	●地震災害対策について
2年 学級活動		生	○2年生になって ●犯罪被害の防止	○高校生の心理や行動と事故の特徴 ●部活動と健康管理	●雨の日の安全行動	●夏休みの生活と安全 ●野外活動の安全	
		交	●通学時の安全	●自転車の安全な利用	●雨の日の安全行動	●夏休みの生活と安全 ●野外活動の安全	○交差点に潜む危険 ●通学路の安全
		災	●防災体制の確立		●地震と安全	●野外活動の安全	●地震災害対策について
3年 学級活動		生	○3年生になって ●犯罪被害の防止	○幼児・高齢者・障害のある人の心理と行動 ●安全意識と行動	●雨の日の安全行動	●夏休みの生活と安全 ●野外活動の安全	
		交	●通学時の安全	●安全意識と行動 ●自転車の安全な利用	●運転者の心理と行動特性 ●雨の日の安全行動	●夏休みの生活と安全 ●野外活動の安全	○交差点に潜む危険 ●通学路の安全
		災	●防災体制の確立		●地震と安全	●野外活動の安全	●地震災害対策について
農業クラブ活動		生	○入部・入部調査 ○農業クラブ部構成 ○部活動年間計画作成	○農ク家ク総会		○部活動合宿 ○農ク指導者養成講座 ○農クリーダー研修会	○農業文化祭実行委員会
		交					
		災					
主な学校行事	生	○入学式 ○始業式 ○定期健康診断 ○歓迎遠足 ○1年生・オリエンテーション	○遠足安全指導 ○救急法講習会 ○交通安全指導 ○1年生・オリエンテーション	○高校総体 ○保健委員会 ○2年生・生徒指導集会 ○衛生講話	○終業式 ○学校保健委員会 ○夏休みの諸注意 ○校内競技大会における安全指導 ○野外活動の安全	○始業式 ○入学式	
	交	○1年生・オリエンテーション	○遠足安全指導 ○救急法講習会 ○交通安全講話		○学校保健委員会 ○夏休みの諸注意 ○野外活動の安全		
	災	○春の交通安全指導 ○1年生・オリエンテーション	○救急法講習会	○避難(防災)訓練「火災」	○学校保健委員会 ○夏休みの諸注意 ○野外活動の安全	○避難(防災)訓練「地震」	
課外指導個別指導	生	○校門あいさつ指導		○健康診断結果の指導	○校外指導 ○生徒指導全体集会		
	交	○自転車、バイク通学許可 ○校門立番指導	○自転車、バイクの点検		○校外指導 ○生徒指導全体集会 ○自転車、バイクの実技指導 ○免許取得指導	○自転車、バイクの点検 ○新規免許取得指導	
	災						
部活動	生	○新入部員オリエンテーション	○用具の点検・整備	○部活動新旧部長会	○合宿・遠征の安全 ○合宿・遠征の安全 ○救急法実技講習会 ○合宿・遠征の安全 ○救急法実技講習会	○用具の点検・整備	
	交						
	災						
対人管理	生	○救急体制の確立 ○下宿、アルバイト、習事調査	○授業時の安全確認(体育実技、農業実習、理科実験、家庭科実習)	○水泳指導健康安全管理 ○梅雨期の健康管理 ○生徒引率の安全確認	○長期休業前の生活指導 ○大掃除時の安全確認 ○夏休みの健康管理		
	交	○登下校指導 ○安全計画の設定			○長期休業前の生活指導 ○避難訓練(不審者侵入)		
	災	○通学状況調査 ○登下校指導	○車に係る規則の徹底 ○事故調査と防止対策	○生徒引率の安全確認	○長期休業前の生活指導	○通学路の見直し	
安全管理	対物管理	生	○学校環境の安全点検整備(施設・設備、通学路) ○家用電気工作物保安点検 ○尿浄化槽消毒	○学校環境の安全点検整備(普通・特別教室、実験実習器具) ○環境整備・美化作業 ○自家用電気工作物保安点検 ○尿浄化槽消毒	○学校環境の安全点検整備(体育館、格技館、クラブ部室、運動器具) ○校内衛生検査(厨房、水質) ○プール掃除	○学校環境の安全点検整備(校庭、学校全般) ○通学路安全点検 ○プール水質管理 ○自家用電気工作物保安点検	
		交	○学校環境の安全点検整備(施設・設備、通学路) ○自転車置き場施設		○通学路安全点検		
		災	○学校環境の安全点検整備(施設・設備、通学路) ○防災設備の点検整備			○学校環境の安全点検整備(校庭、学校全般) ○消火器、消火栓、火災報知器の点検	○学校環境の安全点検整備(普通・特別教室、実験実習器具) ○防災施設・設備の点検整備
学校安全に関する組織活動	生	○PTA総会	○保護者会 ○学校安全(保健)委員会	○保護者面談 ○中高連絡会 ○PTA委員会	○安全に関する広報活動 ○学警連絡委員会 ○校外補導・危険箇所巡回		
	交	○春の全国交通安全運動 ○PTA総会	○交通安全(保健)委員会	○保護者面談 ○PTA委員会	○安全に関する広報活動 ○学警連絡委員会 ○校外補導・危険箇所巡回	○秋の全国交通安全運動 ○交通街頭指導	
	交	○PTA総会	○保護者会 ○学校安全(保健)委員会	○保護者面談 ○PTA委員会	○安全に関する広報活動 ○学警連絡委員会 ○校外補導・危険箇所巡回	○地域防災訓練	
	災	○PTA総会	○保護者会 ○学校安全(保健)委員会	○保護者面談 ○PTA委員会	○安全に関する広報活動 ○校外補導・危険箇所巡回		

10	11	12	1	2	3
交通道徳の理解	安全な行動	事故・災害の防止	安全な通学	事故原因と対策	安全な生活
○体育大会事故防止	○体力と体育について考える	○冬季スポーツの意義 ○体育施設・用具の安全点検	○生徒の健康状態把握 ○体育施設・用具の安全点検	(保)職業と健康	○安全に対する反省と評価 ○体育施設・用具の安全点検
(現)生存権・環境権	(現)地方自治と住民参加	(現)大気汚染・水質汚濁と公害	(現)日本の社会保障制度 (現)工業生産と公害問題	(倫)現代における自然観と人間観の問題	(倫)人間の原点の問題
	(現)交通安全と損害保険				
	(現)電気器具との取扱い上の注意				(化)炭化水素類の取扱い上の注意
(生)ガス中毒、一酸化炭素中毒の仕組みと応急手当					
・防災関連施設の見学・今年度総合学習のまとめ					
◎事故災害時の応急手当 ●体育大会の安全	●火災の予防とストーブの取扱い	●冬休みの生活と安全	●校内マラソン大会の安全	◎幼児と老人の心理と行動	◎春休みの生活と安全 ●今年度活動のまとめと反省
◎事故災害時の応急手当	◎慣れない事故の責任	●冬休みの生活と安全	◎交通安全の対応と応急手当 ●校内マラソン大会の安全	●危険の予測 ●地域の安全活動	◎春休みの生活と安全
◎事故災害時の応急手当	●火災の予防とストーブの取扱い	◎火災予防と避難訓練		●危険の予測 ●地域の安全活動	◎春休みの生活と安全
◎修学旅行の安全 ●体育大会の安全	●火災の予防とストーブの取扱い	●冬休みの生活と安全	◎交通行動の社会性とパートナーシップ ●校内マラソン大会の安全	●規則正しい生活	◎春休みの生活と安全 ●今年度活動のまとめと反省
◎修学旅行の安全	◎危険予測訓練	●冬休みの生活と安全	●校内マラソン大会の安全	●地域の安全活動	◎春休みの生活と安全
◎修学旅行の安全	◎危険予測訓練	●冬休みの生活と安全	◎交通行動の社会性とパートナーシップ ●校内マラソン大会の安全	◎休業日の交通事故防止 ●地域の安全活動	◎春休みの生活と安全
◎修学旅行の安全	◎危険予測訓練	◎火災予防と避難訓練 ●冬休みの生活と安全		●地域の安全活動	◎春休みの生活と安全
◎事故災害時の応急手当 ●体育大会の安全	●火災の予防とストーブの取扱い	●冬休みの生活と安全	◎これからの社会生活と交通問題 ●校内マラソン大会の安全	◎家庭学習について ●規則正しい生活	◎卒業に当たって ●今年度活動のまとめと反省
●地域の安全活動		●冬休みの生活と安全	●校内マラソン大会の安全		
◎事故災害時の応急手当 ●地域の安全活動	◎運転免許の仕組みと運転者の義務・責任	●冬休みの生活と安全	◎これからの社会生活と交通問題 ●校内マラソン大会の安全		
◎事故災害時の応急手当 ●地域の安全活動	●火災の予防とストーブの取扱い	◎火災予防と避難訓練 ●冬休みの生活と安全			
○農業文化祭実行委 員会	○農業文化祭	○農く実践講習会		○校内意見発表会	○家く実践講習会
○修学旅行の安全指導 ○体育大会	○文化祭	○終業式 ○冬休みの諸注意	○始業式 ○校内マラソン大会	○学校保健委員会 ○1・2年生生徒指導集会	○卒業式 ○終業式 ○春休みの諸注意
		○冬休みの諸注意	○校内マラソン大会	○学校保健委員会 ○1・2年生生徒指導集会	○終業式 ○春休みの諸注意
	○交通講話	○冬休みの諸注意	○校内マラソン大会		○終業式 ○春休みの諸注意
		○避難(防災)訓練「火災」 ○冬休みの諸注意	○避難(防災)訓練「地震」		○終業式 ○春休みの諸注意
○校内巡回				○校内巡回 ○入社前指導	
○校内巡回	○校外巡回	○校外巡回	○校外巡回	○校内巡回	○校外巡回
○校内巡回	○第2回バイク通学許可 ○校外巡回	○バイク、自動車免許取得の手続き ○校外巡回	○免許取得の指導 ○校外巡回	○校内巡回	○校外巡回 ○バイク免許取得の手続き
○校内巡回				○校内巡回	
○活動場所の安全点検	○用具の点検・整備	○部室・クラブ部室の安全点検	○活動場所の安全点検	○応急手当実践講習	
○活動場所の安全点検		○部室・クラブ部室の安全点検	○活動場所の安全点検	○応急手当実践講習	
○活動場所の安全点検				○応急手当実践講習	
○活動場所の安全点検	○文化祭の安全対策	○部室・クラブ部室の安全点検	○活動場所の安全点検	○応急手当実践講習	
○体育大会・修学旅行の安全対策 ○授業時の安全見直し ○事故災害時の応急手当方法の徹底	○文化祭の安全対策	○長期休業前生活指導 ○冬休みの健康管理 ○校内競技大会の安全対策	○換気・採光設備の点検検査		○今年度活動の反省と次年度の計画立案 ○長期休業前生活指導
○体育大会・修学旅行の安全対策 ○授業時の安全見直し ○事故災害時の応急手当方法の徹底	○文化祭の安全対策	○校内競技大会の安全対策	○校内マラソン大会安全対策		○今年度活動の反省と次年度の計画立案 ○長期休業前生活指導 ○本年度の事故発生のおまとめ
○体育大会・修学旅行の安全対策 ○事故災害時の応急手当方法の徹底			○校内マラソン大会安全対策	○車に係る規則の徹底	○今年度活動の反省と次年度の計画立案 ○長期休業前生活指導 ○本年度の事故発生のおまとめ
○体育大会・修学旅行の安全対策 ○授業時の安全見直し ○事故災害時の応急手当方法の徹底	○文化祭の安全対策	○避難(防災)訓練「火災」の徹底	○避難(防災)訓練「地震」の確認		○今年度活動の反省と次年度の計画立案 ○長期休業前生活指導
○学校環境の安全点検整備(体育館、クラブ部室、運動器具)	○学校環境の安全点検整備(校庭) ○ストーブの施設と取扱い方	○学校環境の安全点検整備(普通・特別教室、実習実験器具)	○学校環境の安全点検整備(体育館、クラブ部室、運動器具) ○火気器具の安全点検	○学校環境の安全点検整備(施設、設備)	○学校環境の安全点検整備(1年間の反省) ○今年度活動の反省と次年度の計画立案 ○生徒用机・いすの点検整備
○学校環境の安全点検整備(体育館、クラブ部室、運動器具)	○学校環境の安全点検整備(校庭) ○ストーブの施設と取扱い方	○学校環境の安全点検整備(普通・特別教室、実習実験器具)	○学校環境の安全点検整備(体育館、クラブ部室、運動器具) ○火気器具の安全点検	○学校環境の安全点検整備(施設、設備)	○学校環境の安全点検整備(1年間の反省) ○今年度活動の反省と次年度の計画立案
○中高連絡会 ○学校安全(保健)委員会	○保護者面談週間 ○安全に関する広報活動	○学警連委員会	○PTA委員会 ○学校安全(保健)委員会	○中高連絡会	○今年度活動の反省と次年度の計画立案
○学校安全(保健)委員会	○安全に関する広報活動	○学警連委員会	○PTA委員会 ○学校安全(保健)委員会	○安全に関する広報活動	○今年度活動の反省と次年度の計画立案
○学校安全(保健)委員会	○保護者面談週間 ○安全に関する広報活動	○交通街頭指導 ○学警連委員会 ○年末の全国交通安全運動	○交通街頭指導 ○PTA委員会	○安全に関する広報活動	○今年度活動の反省と次年度の計画立案
○学校安全(保健)委員会	○保護者面談週間 ○安全に関する広報活動		○PTA委員会 ○学校安全(保健)委員会	○安全に関する広報活動	○今年度活動の反省と次年度の計画立案

5 特別支援学校高等部(知的障害)

項目		月		4	5	6	7・8	9	10
月の重点				新しい環境に慣れよう	生活環境を把握しよう	プールでの事故に気を付けよう	夏休みを安全に過ごそう	危険を予測し安全に過ごそう	実習時の安全に気を付けよう
安全 学 習	教 科	技 術	生	技術室の使用	のこぎり等工具の使い方	電気工具の使い方	厚紙の裁断機の使い方	技術室の整理整頓	木工材料の取扱い(切断・研磨等)
			交						
		災							
		家庭	生	家庭科室の使用	調理器具の使い方	電気器具の使い方	調理実習の衛生と安全	家庭科室の整理整頓	ガスコンロの使い方
	交								
	災								
	保 健	生	健全な男女交際	けが等の予防	救急法	1学期のまとめ	応急処置の仕方(消毒・包帯)	健康管理と運動の関係	
	交								
	災						応急処置の仕方(消毒・包帯)		
	学 級 活 動	生		男女交際の在り方			性的被害の予防	命の尊厳	
交		通学における交通安全							
災				火災時の避難の仕方				地震時の対応と避難の仕方	
全 教 育 指 導	通 学 指 導	交	<ul style="list-style-type: none"> ・通学指導と通学観察指導 ・寄宿舎生の帰省指導 ・駅からのバス通学指導 						
	学 級 活 動	1 年	生		避難経路を知る	校内実習時の安全			
			防	子ども110番のいえ・誘拐等の防止	宿泊生活訓練における安全	水泳の安全		夏休みの生活と安全	
		交	通学の安全			火災の防止・校内実習時の安全		交通事故の予防	地震への対応
	災								
	2 年	生	2年生になって	避難経路を知る	作業現場等における実習の安全			熱中症予防と応急手当	産業現場等における実習の安全
		防	子ども110番のいえ	宿泊生活訓練における安全			夏休みの生活と安全		
	交	通学の安全		火災の予防				地震への対応	
	災								
3 年	生	3年生になって	避難経路を知る						
	防	子ども110番のいえ	宿泊生活訓練における安全			夏休みの生活と安全	けがをしたときの応急手当		
交	通学の安全		火災の予防				地震への対応		
災									
学 校 行 事 等	生	入学式	健康診断	火災避難(防災)訓練(消防署招来)				地震避難(防災)訓練	
	交		宿泊生活訓練	産業現場等における実習				体育祭 産業現場等における実習	
災									
部活動を週3日、放課後に40～70分間活動、安全に配慮し、知、徳、体を身に付ける									
安全 管 理	対 人 管 理		疾病のある生徒の把握(発作・運動制限)	救急体制の見直し	健康観察の徹底 心肺蘇生法の確認	夏休み中の事故防止	健康観察の徹底		
	対 物 管 理		施設・設備点検 机・いすの点検	便所・洗面所の衛生 管理・点検 避難経路の点検	プール水質検査		期末大掃除 安全点検・修理報告	飲料水検査 掃除 防災関係設備点検	照度検査 掃除
安全点検(通年)									
・学校安全(保健)委員会 ・職員研修会(救急救命法) ・学校安全(保健)委員会 保健安全部会(毎月)PTA・地域との連携									

11	12	1	2	3	到達目標
火災を予防し安全に過ごそう	冬休みを安全に過ごそう	快適な環境を維持しよう	教室環境の管理をしよう	春休みを安全に過ごそう	安全で健康な生活を送る
	塗料の使用と暖房と換気	金属材料の取扱い(切断・研磨等)		塗料の使用と換気	安全な器具の使い方や塗料の使用の仕方を身に付ける
調理実習の衛生と安全	電磁調理器等の使い方	調理実習の衛生と安全	もちつきにおける衛生と安全	家庭における調理器具の確認	
ミニホッケーにおける安全	サッカーにおける安全	マラソン練習時の安全	マラソン大会における安全	バスケットボールにおける安全	自分を含め、周囲の安全に気を付ける
校外における異性との接し方	2学期のまとめ	健康管理と運動の関係	一人で行動するときの心構え	3学期のまとめ	性被害を防止するとともに健全な性の在り方を理解する 災害への対応を身に付ける
校外における異性との接し方					
助け合って生きる		知らない人からの誘いへの対応		自転車の安全な乗り方	
	火災への対応(初期消火)		地震火災時における避難の仕方		
					自分の判断で安全に配慮し、交通ルールを守る態度を育成する。
校内実習の安全	冬休みの生活と安全	冬の安全対策	教室の整理整頓	1年生の反省	健康や事故防止について理解する
				避難訓練の徹底	
火災予防と安全		冬の安全対策	避難訓練の徹底		
	冬休みの生活と安全		冬の安全な生活	2年生の反省	健康で安全な生活を送る力を身に付ける
				避難訓練の徹底	
火災予防と安全		タバコと火災	避難訓練の徹底		
修学旅行における安全	冬休みの生活と安全	日常生活と健康管理	社会に出るに当たって	卒業を控えて	社会人として、自覚を持って行動する
				避難訓練の徹底	
火災予防と安全・タバコの害			避難訓練の徹底		
修学旅行(3年)	文化祭	防災の日	地震火災避難(防災)訓練 マラソン大会	卒業式	学校行事における安全の徹底
	冬休み中の事故防止	健康観察の徹底		健康管理の反省 春休み中の事故防止	健康状態の的確な把握 健康維持と健康の増進 事故の防止
飲料水検査	期末大掃除 安全点検・修理報告	教室の自然換気・CO2濃度検査 掃除	照度検査	健康管理の反省 期末大掃除 防災関係設備点検	安全で快適な学校環境 学校薬剤師との連携 学校施設・設備の安全管理

本校の危険等発生時対処要領

平成24年4月時点

(注) この対処要領の中の人数・時間・回数等については、標準（基準）として示すものではないので、学校の実態に合わせて設定してください。

〇〇市立〇〇小学校

＊ ＊ ○○市立○○小学校の設定 ＊ ＊

<p>教職員数 22名</p> <p>児童数 400名</p>	<p>校長 1名、 教頭 1名、 教諭・講師 16名、 養護教諭 1名、 事務職員 1名、 栄養教諭 1名、 学校用務員 1名</p> <p>各学年2学級、 特別支援学級1学級、 計 13学級</p>
<p>施設・設備</p>	<p>◎ 門扉があり、登下校時以外は校門を閉めるなどして、敷地や校舎への入口を、管理可能なものに限定している。</p>
<p>教職員の組織活動</p>	<p>◎ 教職員は、「教職員カード（名札）」を付け、緊急時の情報伝達のため、「笛」を常時携帯することになっている。</p> <p>◎ 学期に1回「学校安全の日」として、PTAの協力を得て、不審者侵入を防ぐことを着眼とした校内巡回と安全点検を行っている。</p> <p>◎ 毎月15日を「安全点検の日」と定め、校内各所の安全点検を行い、改善が必要な場合は速やかに改善する。</p> <p>◎ 保護者には、年度当初に「保護者カード(名札)」を配布している。</p> <p>◎ 登下校の安全確保を図るため、保護者、ボランティアの協力を得て見守り活動を行っている。</p>

本校の危険等発生時対処要領

目 次

1	本校の危機管理の基本方針	199
2	危機管理体制・役割分担	200
3	危険等発生時の連絡体制・下校の判断基準	202
4	施設面における安全確保	203
5	安全教育・避難訓練	204
6	定期的な巡回	205
7	日常の来校者等への対応	206
8	関係者以外の立入りに対する対応	207
9	危険度に応じた対応（緊急対応1～3）	208
10	学校行事の受付体制（参観日・運動会）	211
11	学校行事の危険等発生時の対応（参観日・運動会）	212
12	学校行事の体制等（校外活動）	213
13	危険等発生時の対応図	214
14	危険等発生時の連絡先一覧表	220
15	避難経路図	221
16	状況記録用紙	223
17	児童負傷者状況記録用紙	224
18	緊急下校確認カード・引渡し確認表	225
19	報告文	226
20	登下校時における危険等発生時の対応	227
21	登下校時における危険等発生時対応フロー	228
22	避難所の運営	231
23	事後の対応・報道関係機関への対応	234
24	心のケア	235
25	京都府学校危機支援チーム（CCST）の派遣	236

1 本校の危機管理の基本方針

危機管理の必要性

◎ 学校は、児童が安心して学び、教職員が安心して教育活動を行う安全な場所でなければならない。しかし、ときとして学校の安全を脅かす事件・事故災害が発生する。そのようなときに備えて学校独自の危険等発生時対処要領の改善を行うとともに、適切かつ確実な危機管理体制を整備する。

また、校内研修会で教職員の共通理解を図り、訓練等を実施して対処要領を見直し、より実効性の高いものへと改善する。

危機管理の目的

- 1 児童や教職員の命を守る。
- 2 危険をいち早く発見して、事件・事故災害の発生を未然に防ぐ。
- 3 万一、事件・事故災害が発生したときは、適切かつ迅速に対応し、被害を最小限に抑える。
- 4 事件・事故災害の再発防止と教育の再開に向けた対策を講じる。

本校の課題・発生が予想される危険等

- 1 火災や地震を想定し、低学年が逃げやすいよう、下の階に低学年の教室配置をしているので、不審者侵入の場合は、危険度が増す。
- 2 体育館の裏は、死角になりやすい。
- 3 地域社会の人間関係が希薄であり、学校に対する保護者の関心も薄い。
- 4 校区が広く、単独で登下校する区間が長い児童がいる。
- 5 雨量が増えると〇〇川の氾濫が予想される。
- 6 雨量が増えると裏山が崩れる可能性がある。
- 7 〇〇断層上に立地しているため、直下型地震発生が予想される。〇〇校舎は耐震化されているが、体育館は耐震構造になっていない。
- 8 車歩道の区別がない通学路を利用する児童がいるので、交通事故防止に努めなければならない。

課題を補う危機管理体制

- 1 不審者に対する施設上の弱点に対しては、教職員の巡視等を行うことによって、危険をいち早く発見するなど、日常の危機管理意識を高めることにより、被害を最小限に抑える。
- 2 職員室に在室しているときには、来訪者について注意を払う。
- 3 対処要領に従って、事件・事故に対処できない場合は、臨機応変に役割が変更できるよう、各担当者の業務内容も熟知し、危険等発生時に備える。
- 4 登下校の課題に対しては、保護者、学校安全ボランティアの協力を得て見守り活動を行う。

保護者・地域社会・関係機関との連携を図る上での留意点

- 1 学校の安全は、まず教職員が積極的に守ることを基本に考える。
- 2 学校の情報を発信し、開かれた学校づくりに努め、教職員一人一人が地域社会との信頼関係を築く。
- 3 危険等発生時、保護者や地域の人に快く協力してもらえるよう、地域社会の行事等にも参加するよう心がける。

2 危機管理体制・役割分担

危機管理体制組織表と教職員の役割分担

◎（日常）

担当者	活 動 内 容
管理職 校長・教頭	全体の統括 ◇ 安全教育に関する事項（安全教育、避難訓練、校外学習の事前指導など） ◇ 安全管理に関する事項（施設設備の点検、児童の安全確保に関する点検など） ◇ 安全に関する組織活動（体制の整備、教職員を対象とした研修(*1)や訓練、学校安全委員会(*2)など）及び学校安全計画全体の状況把握と、必要な指示、掌握 ◇ PTA、地域、関係機関との連携
安全部	◇ 施設・設備の点検、児童の安全確保に関する点検 ◇ 避難訓練の計画と実施 ◇ 教職員対象の研修の計画と実施 ◇ 学校安全委員会の企画・運営
担 任	◇ 児童に対する安全教育の実施（災害の発生及び復旧、通学路での安全、こども110番のいえ、校内・校外で不審者と遭遇した場合の対応、避難訓練、防犯訓練等）
救 護 養護教諭	◇ 児童の健康状態、要観察者の状況と、かかりつけ医療機関の掌握 ◇ 応急手当、心肺蘇生法についての講習会資料作成 ◇ 救急病院の掌握 ◇ 負傷者搬送時の必需品の確認と準備

(*1) 教職員研修

PTA・保護者・関係機関の連携のもと、次のとおり開催する。

- ◎ 不審者侵入時・災害発生時の対処要領に基づいたに基づいた教職員研修

（年度当初の職員会議で実施）

- ◎ 不審者侵入・大規模災害を想定したシミュレーション訓練を複数回実施
- ◎ 応急手当、心肺蘇生法講習会の実施
- ◎ 危機対応能力等の向上や児童への安全教育を充実させるための研修会の実施

安全教育を担当する教職員及び管理職が京都府総合教育センター及び京都府教育委員会等が行う安全研修会に参加し、伝達講習を実施する。

(*2) 学校安全委員会（学校保健安全委員会）

- 1 構成員 校長、教頭、安全教育を担当する教職員、学年主任、保健主事、養護教諭、地域の関係機関（警察、消防、PTA、ボランティア）等
- 2 会議開催回数・・・3回開催する。
- 3 開催時期とテーマ
 - (1) 4月上旬（本年度の計画）
 - (2) 7月下旬（児童の安全確保の現状と課題の改善）
 - (3) 2月下旬（本年度の総括と来年度の方向性）

◎災害発生時、不審者侵入時の役割を同じにする。

◎（緊急時）出張等で不在者がある場合、臨機応変に役割を分担する。

	災害発生時・不審者発見時	児童生徒等避難後
対策本部チーム	<p>校内緊急放送</p> <p>情報収集、整理</p> <p>関係機関へ連絡(消防・警察等)</p> <p>避難の判断(避難場所、下校の判断)</p> <p>児童への行動の連絡(放送等)</p> <p>新たに発生する事案への対応と指示</p> <p>負傷者の保護者への連絡</p>	<p>情報収集</p> <p>下校の指示</p> <p>児童・教職員の安否の確認</p> <p>搬送先への付添いの指示、把握</p> <p>関係機関へ連絡(教育委員会等)</p>
不審者・災害対応チーム	<p>児童へ指示後、災害発生場所に急行</p> <p>初期消火・不審者対応</p> <p>校内巡回(災害発生場所、不審者対応)</p> <p>状況報告(携帯電話・インターホン・伝令による)</p>	<p>消火活動</p> <p>救護、救助へ移行</p> <p>不審者対応(警察へ引き渡すまで)</p>
児童対応チーム	<p>児童へ指示</p> <p>避難経路を判断・指示</p> <p>避難誘導</p>	<p>安全確認</p> <p>負傷者対応</p> <p>児童の観察</p> <p>心のケア</p> <p>保護者への緊急連絡</p>
救助チーム	<p>児童へ指示後、校内巡回</p> <p>→負傷者への応急手当・救護所へ搬出</p> <p>行方不明児童、教職員の搜索</p> <p>情報収集と状況報告</p>	<p>状況報告</p> <p>救急車へ同乗</p>
救護チーム	<p>救護体制の確立(救急用品準備、救護所設置)</p> <p>負傷者の全体把握</p> <p>救急、医療機関への連絡</p> <p>心のケア</p>	<p>負傷者搬送先確認</p> <p>負傷者の保護者へ連絡</p>

3 危険等発生時の連絡体制・下校の判断基準

連絡体制の構築

保護者への連絡

- ◇ 全家庭へ連絡できるように電子メール配信の登録をよびかける。
- ◇ 登録していない家庭を把握し、電話連絡ができるようにまとめておく。
(電話下金庫に保管)
- ◇ 学校ホームページ、学校ツイッターに連絡事項を掲載

緊急の対応が必要な場合(通学路の安全確保等を要請)

- ◇ P T A会長、役員へ依頼
- ◇ 役員から学級委員等へ依頼
- ◇ 役員相互の連絡体制を構築
- ◇ 個人情報保護と目的外使用禁止を徹底

※緊急連絡先カードの保管場所・・・校長室、職員室(教頭管理)、事務室

下校の判断基準

下校の判断基準を定め、保護者と共通理解しておく。

レベル	災害の大きさ	児童	教職員	保護者
4 甚大なレベル	当該地域を中心に震度6弱以上の地震が発生 校区内で広域的な火災が発生 通信機能、交通機関が不通 原子力災害発生 校内で凶悪事件発生 校区内で凶器を所持した不審人物が徘徊	学校待機 場合により 二次避難場 所へ避難	児童の保護	学校(二次避 難場所)まで 迎え
3 重大なレベル	当該地域を中心に震度5弱以上の地震が発生 交通機関は乱れがあるが、運行を維持 台風などの自然災害により警報が発令 校区内の河川が氾濫 地震等で土砂災害が発生 校内で火災が発生 近隣地域で凶器を所持した不審人物が徘徊	学校待機 あるいは 地域別一斉 下校 場合により 二次避難場 所へ避難	児童の保護 学校待機児 童の保護あ るいは地域 別引率	学校(二次避 難場所)まで 迎え あるいは 事前に学校待 機を申請して いる場合は速 やかに迎え
2 警戒レベル	河川の氾濫等を警戒(警報未発令) 地震等による土砂災害を警戒 校区内で気象条件等によりなだれを警戒 地域の警察署管内で不審人物の目撃情報	複数下校	下校引率	
1 注意レベル	その他警戒すべき事案が発生	複数下校	学校周辺の 巡回	

4 施設面における安全確保

門扉の管理

1 登校後

通常の授業時は、〇時〇〇分に門を閉めるが、児童の登校状況を勘案し、安全に十分に配慮する。遅刻した児童は、正門横の通用口から登校する。

2 授業時・休憩時

- (1) 校内からは正門横の通用口を開けて出入りすることを原則とする。
- (2) 来校者用に、正門付近に職員室（事務室）への案内掲示を設置しておく。
- (3) 来校者は、通用口を開けて職員室（事務室）に来るので用件を聞く。用件終了後、職員室（事務室）で退校チェック等を行い、通用口から退校するのを見届け、門扉を閉める。

3 下校時、放課後

- (1) 児童の下校の際には、教職員が全ての門を開けて下校させる。下校後は、直ちに門を閉めておく。
- (2) 来校者については、授業時・休憩時と同様に対応する。

安全点検

毎月〇〇日を、安全点検の日とし、校内巡回及び各自の点検場所の状況を把握し点検表に記入する。安全部は安全点検内容を確認し、点検状況について教頭に報告する。

教頭は改善の必要があれば、改善の措置を速やかに講じる。

* 施設設備の安全点検表

場 所	状 況	場 所	状 況
ブランク	○	正 門	○
鉄棒	○	北 門	格子破損
南校舎	壁にひび	体 育 館	○
1年2組	○	西北フェンス	金網破損

・異常なしは○、改善が必要な場合は簡潔に記述する。

5 安全教育・避難訓練

安全教育

1 安全教育にかかわる指導時間と内容

指 導 時 間	指 導 内 容
◎ 関連教科	◎ 不審者侵入・災害発生時の行動
◎ 特別活動	◎ 登下校時の安全
	◎ 校外学習時の安全
	◎ 帰宅後の行動
	◎ 長期休暇の過ごし方
	◎ 避難訓練
	◎ 安全マップ作成

2 児童への安全教育実施に際しての留意事項

- (1) 学校安全計画に基づき実施する。
- (2) 安全教育については、「学年だより」等により、あらかじめ内容を保護者に知らせ、理解と協力を得て実施する。その際、災害や犯罪が身近にあった児童については保護者やカウンセラーと連携をとり、適切な対応をする。
- (3) 通学路や在宅時の行動の仕方についても指導する。
- (4) 被害に遭ったり、遭いそうになった場合には、必ず家の人や学校の教職員に話すよう指導する。
- (5) 「こども110番のいえ」について指導する。
- (6) 校内に不審者が侵入した場合の対応について指導する。特に、来校者は必ず「来校者カード（名札）」等を着用しているの、着用していない者には近付かず、教職員に知らせることや、自分の身が危ないときは、すぐに逃げることなどについて指導する。
- (7) 災害の特性や避難行動について指導する。
- (8) 児童の手による安全マップの作成等を通して、危険予測・回避能力の育成を図る。

避難訓練

1 避難訓練実施に際しての留意事項

- (1) 通報訓練を含めた訓練を警察・消防機関と連携し実施する。
- (2) 児童を含めて実施する避難訓練は年2回以上実施し、児童が動揺しないよう配慮する。とりわけ、不審者が実際に侵入してくる防犯訓練については、児童が怖がることのないように注意する。
(恐怖感を抱かせるおそれがあるような防犯訓練は、教職員のみで実施する。)
- (3) 事前に保護者に理解と協力を求め、緊急時の連絡体制により、PTA役員と連携を図り、保護者への連絡についても訓練を行う。
- (4) 教職員・児童に事前に避難訓練の実施を知らせない、緊急訓練を実施する。
- (5) 訓練であることについて、地域住民への周知理解の徹底を図る。

6 定期的な巡回

校内巡回

通常は、次にあげる体制で、始業前は正門指導、授業中・放課後は校内巡回を実施し、不測の事態に備える。

- 1 毎休憩時間は、校内に不審者等が侵入していないか確認するとともに、児童の動きに注意を払う。
- 2 巡回中に来校者と出会った場合には、必ずあいさつ等の声掛けを行う。
- 3 出勤後から退勤するまでは、必ず「笛」を携帯し、万一の際に他の教職員に非常事態であることを知らせる。
- 4 本校教職員であることが誰にでもわかるように、校内では必ず「教職員カード（名札）」を着用する。
- 5 不審者に遭遇した場合は、暴力を阻止するために、身近な道具等を活用できるよう、日ごろから保管場所を把握しておく。
- 6 放課後の巡回は、毎月第〇〇曜日と第〇〇曜日に行う。

* 校内巡回当番表

- (1) 始業前 〇時〇〇分～ 〇時〇〇分（正門指導）
- (2) 授業中 〇〇時〇〇分～〇〇時〇〇分（月・水・金）{毎月時間を変更}
 〇〇時〇〇分～〇〇時〇〇分（火・木）
- (3) 放課後 〇〇時〇〇分～〇〇時〇〇分 {安全点検を含む}

	月	火	水	木	金
(1) 始業前	教頭	校長	教頭	校長	教頭
(2) 授業中					
(3) 放課後					

定期校外巡回等

- 1 通学路点検・・・・・・・・ 毎年〇月と〇月に、PTAと全教職員で実施後、安全マップを作成する。（防犯、交通、災害それぞれの観点を明確に）
- 2 地域への協力依頼・・・・ 毎年〇月に、学校から地域の人に「こども110番のいえ」への協力、登下校時の見守り活動及び登下校中の事故等に関する学校への情報提供等について依頼する。
- 3 校区内巡回・・・・・・・・ 毎年夏休み前と冬休み前に、PTA主催の校区内巡回を教職員とともに実施する。

7 日常の来校者等への対応

遅刻した児童の場合

正門横の通用口から入ってきた児童の学年、組、名前、体調等を確認し、教室へ行くよう指示する。その際、児童と一緒に部外者が入ってこないように状況を確認しておく。

来校者の場合

- 職員室で、所属、氏名、用件を確認し、受付名簿の記入と、「来校者カード（名札）」の着用をお願いする。
- 特に挙動が不審な場合には、すぐに校長（又は教頭）に連絡し、指示を仰ぐ。
- 保護者については、年度当初に配布した「保護者カード（名札）」を着用してもらう。忘れた場合は、来校者カードを着用してもらう。
- 用件終了後、職員室で、受付名簿に退校のチェックと来訪者カードの返却を依頼し、退校するのを見届け、門扉を閉める。

* 来訪者名簿（記入例）

月日	お名前	所属等	用 件	入・時間	退・時間	名札番号
/	〇〇〇〇	△△△△				1 2 1 3 ←保護者
/				:	:	1 4 ←保護者以外

* 来校者用のカード（透明ホルダーに入れ、首からつるして使用する。）

「保護者カード（名札）」
保護者（事前に配布、□数字は年度、4桁の数字）

「来校者カード（名札）」
その他の来校者の場合（1～3桁の数字）

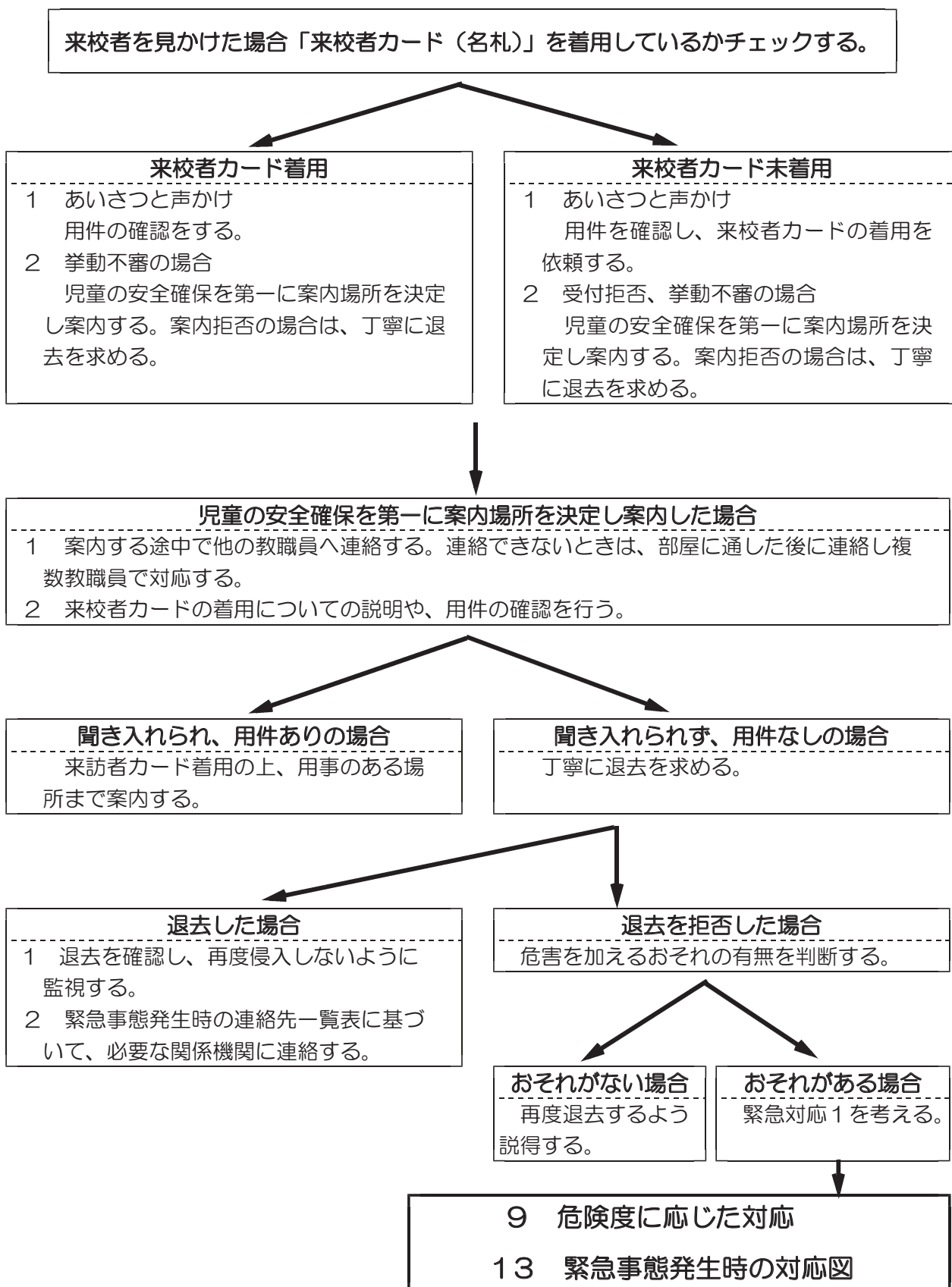
22		保護者	
1	2	1 3	
年	組	番号	
偽造され ないマーク など		〇〇小学校	

来 訪 者	
1	4
番号	
偽造され ないマーク など	
〇〇小学校	

近隣で不審者情報があった場合の対応

- ◇ 確認事項「内容」「情報提供者の名称・連絡先」
- ◇ 「校長・教頭・安全部等」に連絡
（集団下校等の実施について検討・対応）
（電子メール、ホームページ、ツイッター、文書等により速やかに保護者・地域の人に提供）

8 関係者以外の立入りに対する対応



9 危険度に応じた対応（緊急対応1～3）

	事件（不審者侵入）	災害
緊急対応1	退去を求めても応じず、危害を加える恐れがある場合	震度3以上の地震発生、交通機関は運行 校区の河川氾濫警戒、校区で土砂災害発生 等
緊急対応2	危害を加えるおそれが非常に高い場合	震度5弱以上の地震発生、交通機関は運行を維持（乱れている）、校区の河川氾濫、台風などの警報が発令 等
緊急対応3	危害が及んでしまった場合	震度6弱以上の地震発生、校区で広域的な火災発生 交通機関が不通、原子力災害発生 等

※ 地震が発生した際は各教室で一次避難の指示をする。

※ 集団下校をする際、教職員は地域の役割分担に基づいて引率または校区の巡回を行う。
（緊急対応1、場合によっては2）

緊急対応1		
	事件（不審者侵入）・災害（地震）発生	事件（不審者の確保）・災害（地震による揺れ）収束
対策本部チーム	<ul style="list-style-type: none"> ○ 状況の変化に対応できるような統括と指揮 ○ 校長（教頭） 110番通報の指示 ○ 校内緊急放送で緊急対応1であることを全教職員、児童に連絡（暗号、決めた文例を使用） ○ 児童の避難の必要性の判断と指示 ○ 不審者逃亡の場合、近隣校への連絡を教育委員会に要請 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 警察、消防、教育委員会等への状況報告 ○ 保護者（PTA本部役員等）への連絡 ○ 当日の授業継続、下校方法等の決定 ○ 今後の登下校方法・授業についての決定 ○ 保護者説明会の準備と開催 ○ 保護者あて連絡文書の作成 ○ 近隣学校への情報提供（必要に応じて） ○ 報道機関への対応
不審者・災害対応チーム	<ul style="list-style-type: none"> ○ 不審者を落ち着かせるよう丁寧な対応 ○ 不審者の言動に注意 ○ 隔離できる場所へ連れて行く努力 ○ 所持品（凶器等危険物）の確認の努力 ○ 不審者との距離の確保(1.5m以上) ○ 警察が到着するまで児童に危害が及ばないように配慮 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内を巡回し、他の不審者の有無の確認 ○ 逃げ遅れた児童や負傷者の有無の確認 ○ 児童の安全確保の応援 ○ 事件の情報収集、把握、整理 ○ 学校や地域の状況の把握
児童対応チーム	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の人員確認と安全確保 ○ 教室で待機、避難についての放送等の指示を待つ。 <p>児童の安全確保確認後、可能な範囲で不審者対応の応援体制を編成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 下校方法決定後、全保護者と連絡をとり、児童の安全下校を確認 ○ 保護者あて連絡文書を児童へ配布
救助チーム		<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内巡回し、負傷者の有無を確認 ○ 校内の状況把握と報告
救護チーム		<ul style="list-style-type: none"> ○ 負傷者の応急手当

緊急対応2		
対策本部チーム	<p>対応1に加えて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 校内緊急放送で緊急対応2であることを全教職員、児童に連絡 (暗号、決めた文例を使用) 	<p>対応1に同じ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報の収集(テレビ、ラジオ、インターネット、防災無線等)
不審者・災害対応チーム	<p>対応1に加えて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 危険を周知 (笛、大声、大きな音、火災報知器) ○ 不審者の移動を阻止する努力 ○ 攻撃に備え防御できる身近な道具の活用 (ぼうき、いす、机、消火器、ものさし等) ○ 近くに児童がいる場合は逃げるように指示 ○ 児童から注意をそらさせ、不審者を児童に近づけない努力 ○ 児童が捕らわれている場合は、不審者を説得 	<p>対応1に同じ</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 二次避難(学校内)後、場合により安全な避難場所へ避難 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 二次的な災害の予測 ○ 下校判断(学校待機か一斉下校か等) ○ 保護者へ連絡
児童対応チーム	<p>対応1に加えて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 避難場所、経路の決定、避難 ○ 避難後の児童の人員確認と負傷状況等の確認 	<p>対応1に加えて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 緊急下校または、学校待機の準備
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 二次避難(学校内)後、場合により安全な避難場所へ避難 	<p>対応1に加えて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 緊急下校または、学校待機の準備
救助チーム		<p>対応1に加えて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 校内を巡回し、避難できていない児童・教職員の確認及び不明児童・教職員の搜索 ○ 校内巡回し、被災箇所の有無を点検
救護チーム	<ul style="list-style-type: none"> ○ 準備した救急用品、負傷者搬送時の学校との連絡方法を確保して避難場所、負傷者発生現場へ急行(お金、携帯電話、緊急連絡網等) ○ 負傷状況の確認と応急手当 ○ 救急車要請の判断 	<p>対応1に同じ</p>

		緊急対応3	
対策本部チーム	<p>対応1に加えて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 校内緊急放送で緊急対応3であることを全教職員、児童に連絡 (暗号、決めた文例を使用) ○ 負傷者対応の要請で救急車手配(119番) 	対応1に同じ	
不審者・災害対応チーム	対応1、2に加えて	対応1に同じ	
	○ 一次避難後、より安全な避難場所へ避難	対応2に加えて 避難所としての初期対応	
児童対応チーム	<p>対応1、2に同じ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 避難場所、経路の決定、避難 ○ 避難後の児童の人員確認と負傷状況等の確認 	対応2に加えて	○ 二次避難、三次避難場所での児童の健康観察
救助チーム		対応2に同じ	
救護チーム	<p>対応2に加えて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 負傷者発生現場へ急行 ○ 負傷者の応急手当、搬送準備、救急車手配の要請 ○ 負傷者氏名等の確認とリスト作成 ○ 救急車同乗と搬送先からの連絡 	対応1に加えて	<ul style="list-style-type: none"> ○ 負傷児童と保護者等への対応 ○ 心のケア

10 学校行事の受付体制（参観日・運動会）

保護者参観

（PTAの協力による不審者の侵入防止のための方策）

- 1 PTA役員に受付の応援を依頼する。担当者には、腕章、笛等を配布する。
- 2 「保護者カード（名札）」を着用している場合は、保護者名簿に記入（チェック）してもらう。
（保護者カードを忘れた保護者には、当日限りの「参観者カード（名札）」を配布する。）
- 3 「受付等の留意点」の内容
 - (1) 保護者カード着用者には、児童名簿にチェックしてもらう。
 - (2) 保護者カードを忘れた保護者には、児童名を確認の上、名簿にチェックをしてもらい、新たに「参観者カード」を配布する。
 - (3) 駐輪等整理担当者は、自転車等で来られる保護者に対して、駐輪場所の案内や整理を行う。
 - (4) 挙動不審な者が来校した場合は、担当者の中の一人に直ちに本校教職員に連絡してもらう。残り的人で不審者が教室等に近づかないよう、冷静に対応してもらう。
（相手を興奮させない。）
 - (5) 近くに児童がいる場合は、児童をそこから遠ざける。（**児童の安全が最優先**）
 - (6) 不審者が突然暴れ出した場合など緊急の場合は、すぐに笛を吹いて危険を知らせ、むやみに不審者に立ち向かわず、いす等で防御できる準備を整えておく。

運動会

保護者参観に準ずるが、次の点について追加又は変更し、臨機応変に対応する。

- 1 保護者カードを忘れた保護者や地域の人には、必要事項（児童の学年、組、来訪者名）を記入してもらい、当日限り有効の「運動会用カード（名札）」を配布する。
- 2 「受付等の留意点」の内容
 - (1) 保護者カードを忘れた保護者には、児童名を確認の上、名簿にチェックをしてもらい、新たに運動会用カードを配布する。
 - (2) 正門係は、招待状を持参した来賓を、「来賓受付」へ案内する。
 - (3) 警備巡回係は、不測の事態に備えて、防御できる用具等を身近に置いて準備しておく。

11 学校行事の危険等発生時の対応（参観日・運動会）

保護者参観

- 1 教職員、保護者等学校にいるものすべてが「カード（名札）」を着用する。
（着用のない場合は声をかけ、確認する。）
- 2 万一、不審者が侵入した場合は、危険度に応じて緊急対応1～3の行動をとる。
- 3 全校に緊急放送が流れた際は、各担任等教職員は、児童を動揺させないように、保護者に対し簡単に事情を説明し、教室等で児童を守ってもらうよう依頼する。その際、保護者や児童が動揺しないよう、落ち着いて対応する。

＊ 担任等の保護者への説明例

「皆さん、今の放送は、校内の〇〇でトラブルがあった場合の暗号による放送です。すでに、本校教職員が緊急体制に入っていますので、落ち着いて、この教室の子どもたちの安全を確保できるよう、協力してください。教室の中に入りドアを閉め、児童とともにドアから離れてください。私は、廊下に出て状況を確認しますので、お待ちください。」

- 4 教職員は、防御できる用具を持ち、保護者に対しても準備してもらうよう依頼する。
- 5 その後については、放送等の指示に従い、避難または待機する。
- 6 災害発生時は通常の対応を行い、保護者の安全確認には受付名簿を使用する。

運動会

保護者参観に準ずるが、次の点について追加又は変更し、臨機応変に対応する。

- 1 児童は運動場で活動しているので、それぞれの学年、組の児童を、担任を中心としてきっちりと掌握しておく。
- 2 昼食時は、教室を使用するので、事前に教室付近を巡回する。
- 3 運動場に不審者と思われる人物が現れた場合は、声を掛けて、正当な理由があるのかを尋ねる。また、近くにいる複数の教職員で取り囲み、児童に近づけないようにするとともに、防御できる用具を準備する。その際、近くにいる保護者にも協力を求める。また、児童をその場から遠ざけ、安全を確保する。
- 4 運動場以外で危険等が発生し、運動場の教職員等に不審者の状況が確認できない場合は、緊急放送を行い、状況を知らせる。その場合、まず児童の安全を確保し、また、保護者にも協力を求める。
- 5 児童は運動場で活動しているので、災害発生時はその場に座らせ、安全を確認する。保護者にも同様の指示をし、「子どものそばに駆け寄らない」等、落ち着くように声を掛ける。

1 2 学校行事の体制等(校外活動)

校外学習等、校外での活動時の留意事項

1 計画の作成

- (1) 場所等の選定については、地理的な状況や交通機関等、計画を作成する段階で、必ず下見を行い、危険箇所についてチェックする。
- (2) 経路や活動場所近くの公衆電話、救急病院及び警察署の場所、住所、電話番号を確認し、必要に応じて連絡するとともに、名称と電話番号は保護者への案内プリントやしおり等に明記する。

2 事前準備等

(1) 児童への事前指導

ア 児童に対して安全指導（交通安全、災害安全について）と防犯指導（知らない人がついてくる、声を掛けられた場合の対応等）を十分に行う。

イ 特に、防犯指導については、犯罪被害のおそれがある場合など、万一の際の対処のしかた（「助けを求める、逃げる、信頼できる大人に話す」など）についても指導する。

(2) 当日の対応

ア 緊急時は、学年主任が全体の指示を行い、それに従って担任は児童の安全を守る。

イ 万一の緊急事態に備えて、学校、保護者等にすぐ連絡できるよう、携帯電話（無い場合は小銭とテレホンカード）、保護者の連絡先一覧（緊急時の連絡網）、救急病院の連絡先等を持参する。

また、危険を知らせるための「笛」を忘れないこと。

(3) 活動場所についての確認

ア 活動場所の立地条件を確認する。（河川の状態、海岸近く、標高等）

イ 災害に応じた避難場所を確認する。

3 危険等発生時

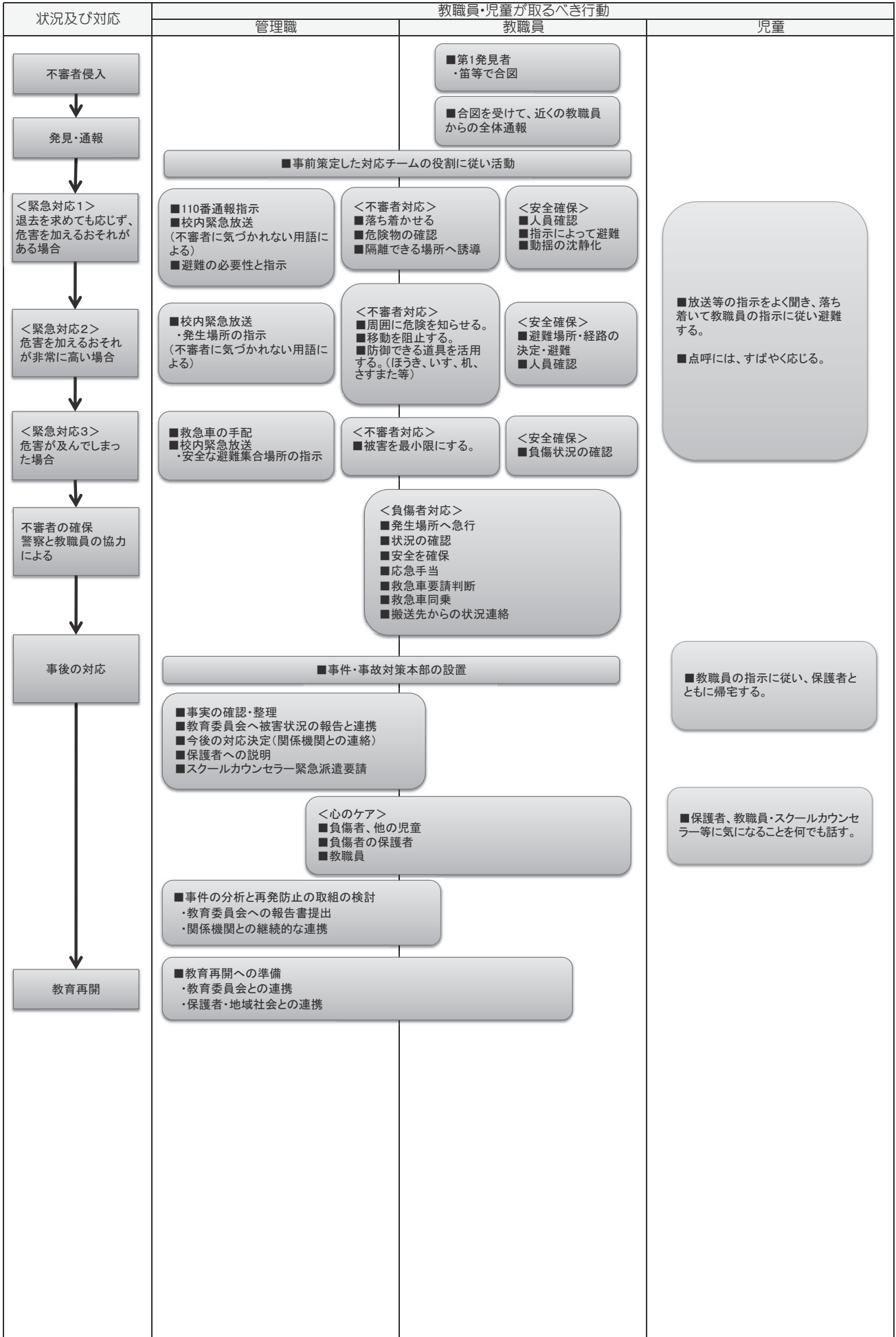
(1) 直ちに、学校（〇〇〇－〇〇－〇〇〇〇）、警察（110番）、救急（119番）、保護者に連絡する。

(2) 状況を把握し、他の児童の安全確保に十分留意する。

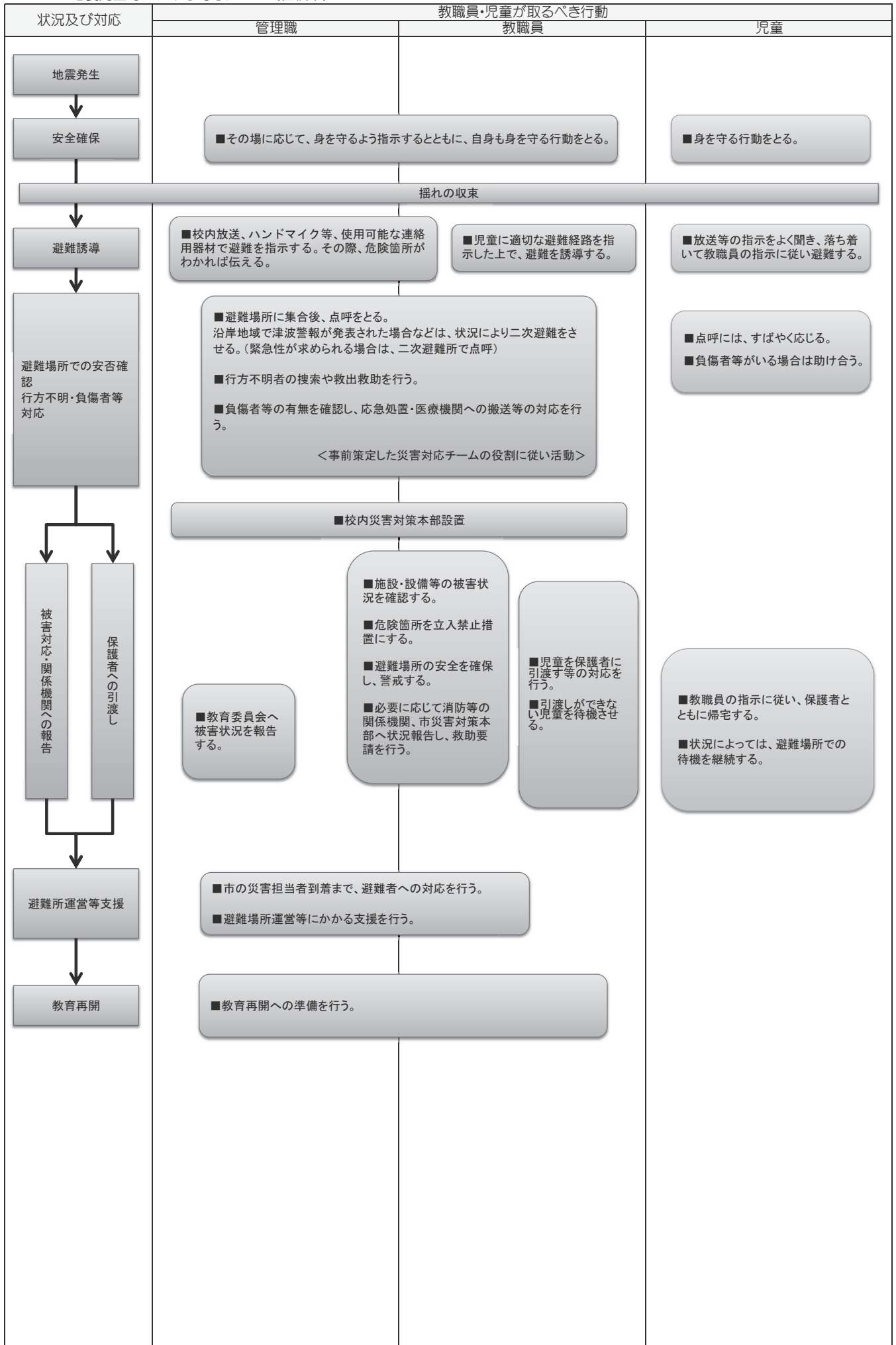
* 他の学校行事・PTA行事についても、児童等の安全を十分考慮して、これに準じて対応する。

13 危険等発生時の対応図

13-1 不審者侵入対応フロー



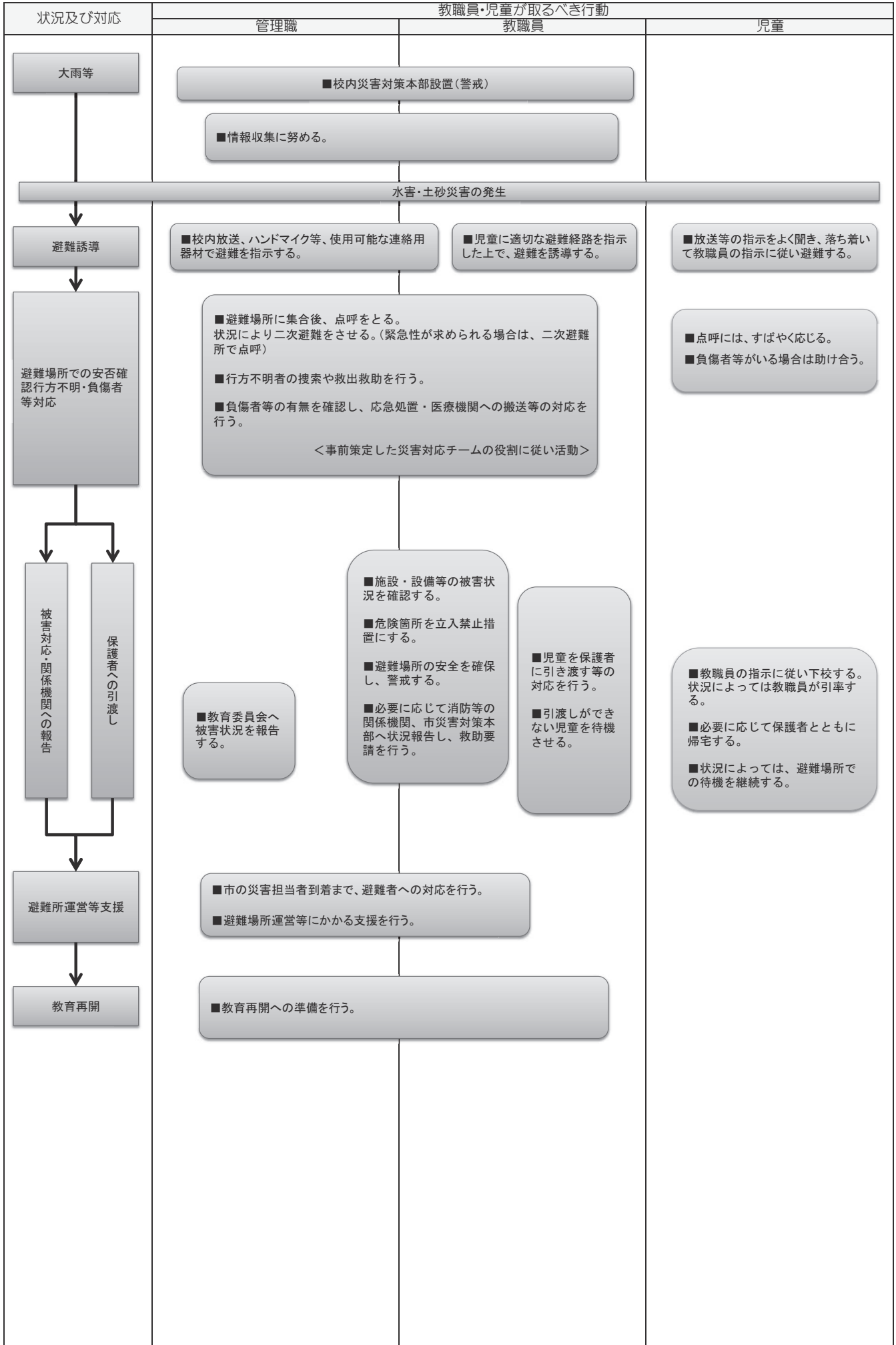
13-2 地震発生時における対応フロー（在校中）



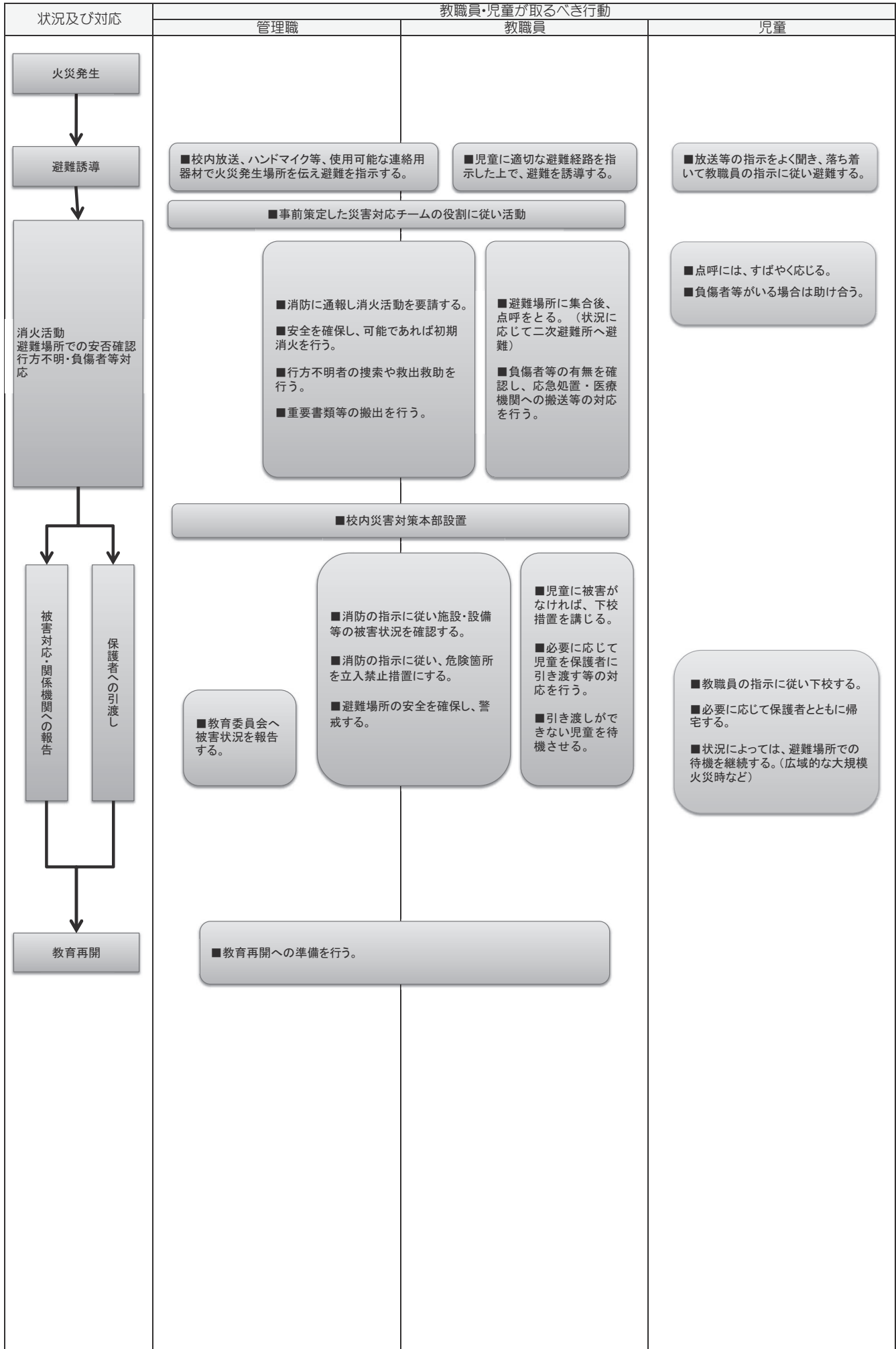
13-3 地震発生時における対応フロー（校外活動中）

状況及び対応	教職員・児童が取るべき行動		
	管理職(学校)	引率教職員	児童
地震発生		<ul style="list-style-type: none"> ■地形や周囲の状況に応じて、身を守るよう指示するとともに、自身も身を守る行動をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■身を守る行動をとる。
安全確保			
揺れの収束			
避難誘導		<ul style="list-style-type: none"> ■最寄りの安全な場所へ避難させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■引率教職員の指示に従い避難する。
避難場所での安否確認 行方不明・負傷者等対応	<ul style="list-style-type: none"> ■あらかじめ決めておいた緊急用連絡方法で現地との連絡体制を確保するとともに、被害情報収集体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ■安全な場所に集合後、点呼をとる。沿岸地域で津波警報が発表された場合などは、状況により二次避難をさせる。（緊急性が求められる場合は、二次避難所で確認） ■行方不明者の捜索や救出救助を行う。 ■負傷者等の有無を確認し、応急処置・医療機関への搬送等の対応を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■引率教職員とはぐれた場合は、あらかじめ決めておいた方法で連絡をとる。 ■引率教員と連絡がとれない場合は、現地の警察や公的機関等に行くなど安全を確保した上で、学校・保護者へ連絡する。
被害への対応、現地との連絡、保護者への連絡、関係機関との連絡	<ul style="list-style-type: none"> ■引率教職員と連絡をとり、状況を把握し、必要な指示をする。 ■テレビ・ラジオ等で現地の被害情報を収集する。 ■状況により応援教職員を派遣する。 ■保護者へ状況を連絡する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■学校と連絡をとり、状況を報告し、指示を受ける。 ■必要に応じて現地の消防等との関係機関へ救助要請を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■引率教員の指示に従い行動する。
<ul style="list-style-type: none"> ■教育委員会へ被害状況を報告する。 			
帰校・帰宅への対応	<ul style="list-style-type: none"> ■交通機関の状況や現地の安全状況を確認の上、帰校・帰宅か現地待機などの対応を行う。 		

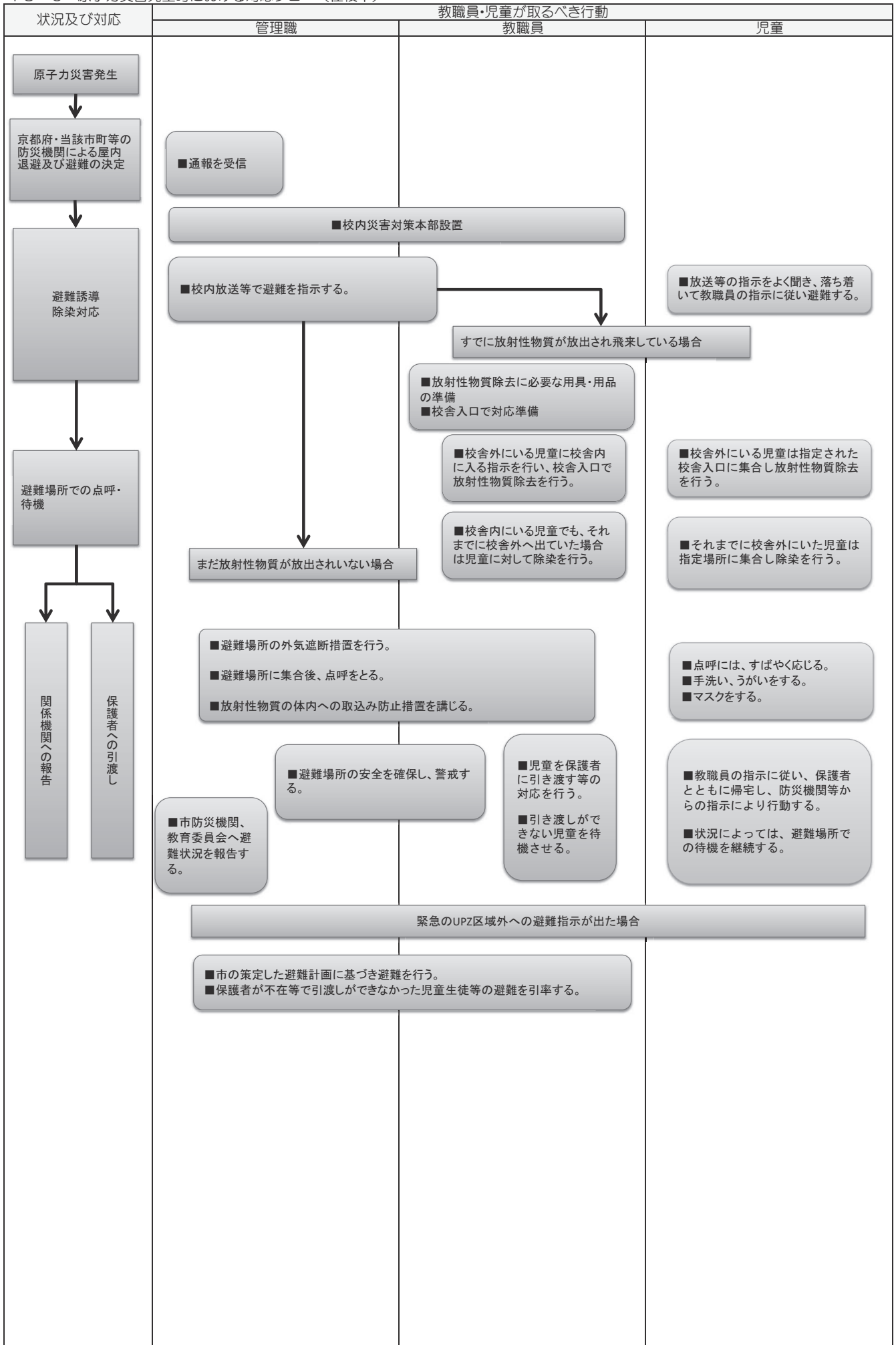
13-4 水害・土砂災害発生時におけるフロー（在校中）



13-5 火災発生時における対応フロー（在校中）



13-6 原子力災害発生時における対応フロー（在校中）



14 危険等発生時の連絡先一覧表

* 通報はあわてず落ち着いて		
連絡の要点	① 学校名	〇〇〇立〇〇小学校
	② 学校住所	〇〇〇〇〇 〇〇番地
	③ 電話番号	〇〇〇〇-△△-〇〇〇〇
	④ 連絡者の氏名	〇〇 △△
	⑤ 概要の説明 (簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> ・いつ ・どこで ・何があった ・今どうなっている (被害の状況等) ・不審者は (人相・車種・逃走方向等)

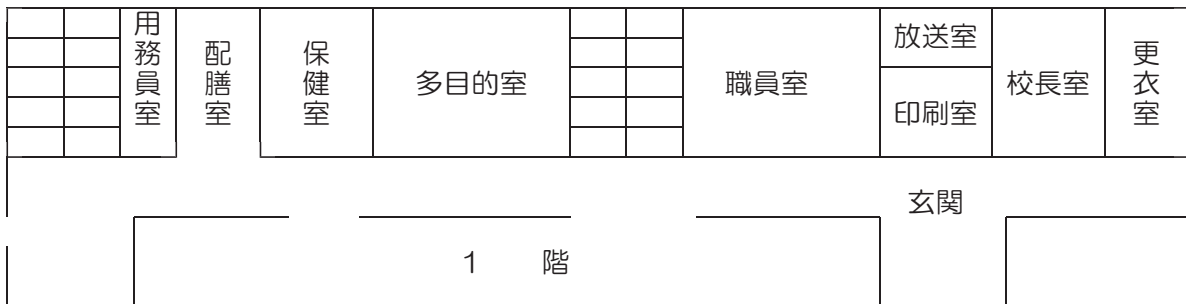
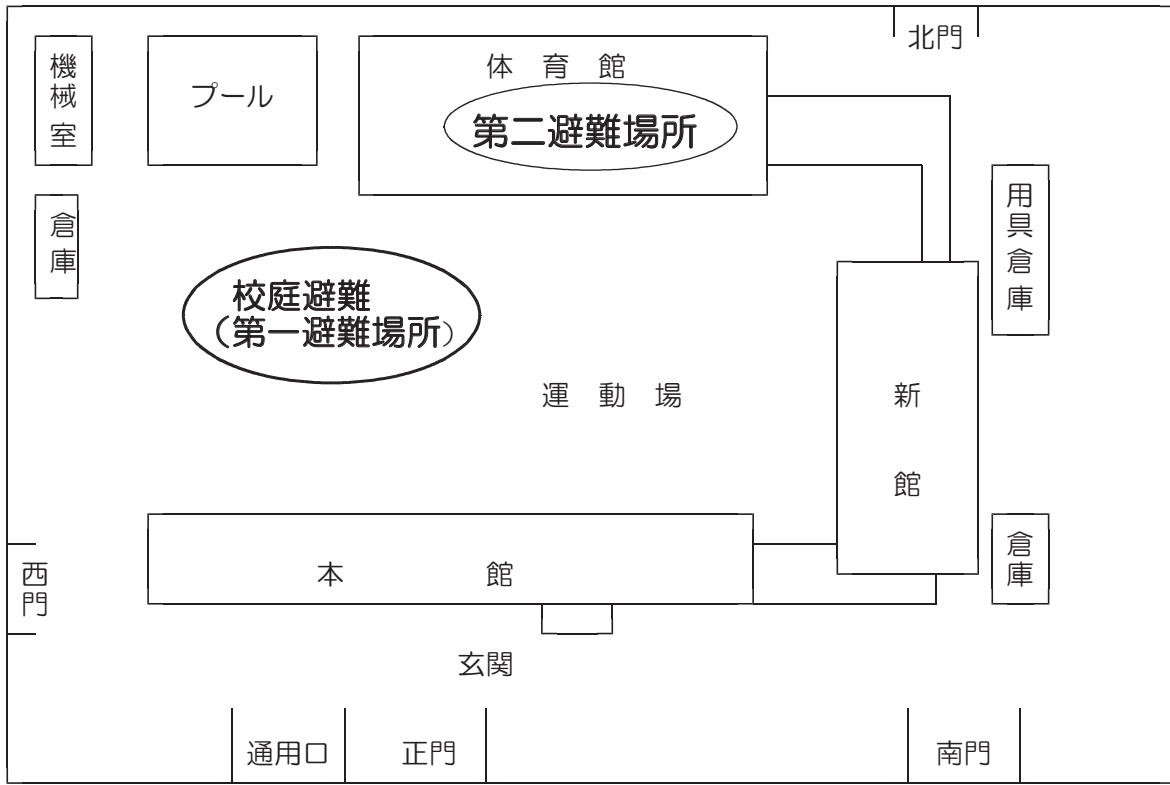
機 関 名	電 話 番 号
〇〇警察署 (緊急時 110番)	〇〇〇〇-△△-〇〇〇〇
〇〇消防署 (緊急時 119番)	〇〇〇〇-△△-〇〇〇〇
〇〇教育委員会△△課	〇〇〇〇-△△-〇〇〇〇
〇〇病院 (内科)	〇〇〇〇-△△-〇〇〇〇
〇〇病院 (外科)	〇〇〇〇-△△-〇〇〇〇
学校医 〇〇 △△	〇〇〇〇-△△-〇〇〇〇
学校歯科医 〇〇 △△	〇〇〇〇-△△-〇〇〇〇
学校薬剤師 〇〇 △△	〇〇〇〇-△△-〇〇〇〇
〇〇保健所	〇〇〇〇-△△-〇〇〇〇

氏 名	電 話 番 号
校 長 〇〇 △△	〇〇〇〇-△△-〇〇〇〇
教 頭 〇〇 △△	〇〇〇〇-△△-〇〇〇〇
P T A会長 〇〇 △△	〇〇〇〇-△△-〇〇〇〇
近隣の学校 〇〇 △△	〇〇〇〇-△△-〇〇〇〇
〇〇 △△	〇〇〇〇-△△-〇〇〇〇
〇〇 △△	〇〇〇〇-△△-〇〇〇〇
〇〇 △△	〇〇〇〇-△△-〇〇〇〇

[掲示場所：校長室、職員室 (事務室)、保健室]

15 避難経路図

校内のあらゆる場所での事件・事故災害を想定して、その事案に対応した複数の避難経路を準備しておく。



- * 校内に複数の避難場所を設定しておく。
- * 避難場所は、災害や不審者侵入の状況によって判断し、本部が指示をする。
指示がない場合は教室にいる教職員が判断する。危険等から離れることを原則にする。
児童にも危険から離れることを指導しておく。
- * 避難したときには、教職員の役割分担に従って、児童の安全確認を行う。
- * 不審者侵入の際は、教室待機の場合もある。

校外の避難場所

災害に応じて、校外の避難場所を設定する。
避難場所に設定した場所とは事前に連携しておく。(市の防災担当部局と十分な協議が必要)

〇〇川の氾濫	国道〇号線を通して□□高等学校の体育館へ避難する。
--------	---------------------------

16 状 況 記 録 用 紙

※状況に応じて、模造紙やホワイトボード、黒板に記入する。

(時刻)	(事象・内容)	(対応者)	(記入者)

(記入例)

(時刻)	(事象・内容)	(対応者)	(記入者)
14:00	地震発生 運動場へ避難指示	本部(教頭)	本部(事務山下)
14:05	避難終了 不明児童確認 2-3(女、山田) 5-2(男、田中)	救助班搜索	山下
14:08	給食室、理科室より出火確認 初期消火 消防署連絡	災害対応班 本部(山下)	山下 山下
14:12	不明児童山田2-3教室で発見 負傷・意識あり 応急手当 救急車要請	救護班 山下	山下 教頭
14:15	消防車到着		
14:17	負傷児童3名 1-1(女、鈴木) 3-1(男、佐藤) 4-2(男、山本) 救護所で応急手当	救護班 同乗者(高橋)	山下 山下
14:18	負傷児童(山田)搬送		
14:20	不明児童5-2(男、田中) 図書室机の下で発見	救助班3名図書室へ	山下
14:30	山田搬送先決定 京都病院へ		山下
14:30	山田保護者へ連絡		教頭
.	.	.	.
.	.	.	.
.	.	.	.

(記入例)

17 児童負傷者状況記録用紙

年 月 日 事象名 _____

〇〇小学校

N O	発見 時刻	児童氏名	学 年	保護者 氏 名	症状	応急手当	搬出 時刻	搬出先	備考 (付添者)

18 緊急下校確認カード

引渡し確認表

年度初めに担任は「緊急下校確認カード」を作成（保護者が記入）し、電話下の棚に保管する。

平成〇〇年度 緊急時下校確認カード	
〇〇市立〇〇小学校	
年 組 番 氏名	
保護者の緊急連絡先 <	>
緊急時の下校先(該当する番号に○)	
1 自宅へ	
2 校区内の自宅以外へ()宅	
地域名 _____	
続柄 ()	
3 学校待機	
4 学童保育	
5 在校兄弟姉妹	年 組 氏名
	年 組 氏名

担任は引渡し確認表に児童氏名を記入しておく。引渡しの際は、児童、引取り者、教職員で必ず確認する。

1年1組		引渡し場所	引渡し時刻	引取り者 確認サイン	続柄	確認に立ち 会った教職員	下校後の連絡先
1	京都太郎	体育館	10:30	京都	母	山田	自宅
2	京都花子	体育館	10:45	佐藤	祖父	山田	祖父宅 〇〇-△△△△
3	田中京子	体育館	10:50	田中	父	山田	〇〇小学校避難所
4	・						
5	・						
6	・						

■年度当初に準備

■引渡しの際は児童生徒等、引取り者、教職員で確認

19 報告文

保護者向け報告文(例)

〇〇年〇月〇日

保護者 様

〇〇〇立〇〇〇学校
校長 〇〇 〇〇

〇〇に係る事件に関する概要及び今後の対応について

この度の〇〇に係る事件に関する概要及び今後の対応について、取り急ぎ御報告させていただきます。

(事実概要)

(休校措置・再開の目途について)

(保護者説明会の開催について)

(心のケア等に関する取組)

保護者説明会の次第・内容等の一例

司会・進行(教務主任)

一、 学校長全体説明(校長)

一、 説明(教頭)

(一) 事件・事故の概要

発生日時、場所

加害者、被害者

人数、被害の程度

被害者への対応

応急手当、救急車

家庭訪問

(三) 今後の対応

見舞い、心のケア

安全対策、休校措置

関係機関との連携

協力依頼

(四) 防犯パトロール

不審者の情報提供

一、 質疑応答

終わり

20 登下校時における危険等発生時の対応

不審者情報・事件・事故災害の学校への第1報

* 緊急対応が必要か判断

緊急対応

< 緊急対応を要しない場合 >

状況に応じて、警察、教育委員会等関係機関に通報。地域住民・保護者・ボランティア等と連携を図り、対策を強化

被害者等の安全確保

< 学校の対応 >

- 警察への通報の有無を確認し、未通報の場合には110番通報を行う。
- ボランティア等の支援を得て、児童の安全確保を図る。
- 現場(病院等含む)に急行し、情報収集と整理を行う。
 - (1) 避難している児童の安全確保
 - (2) 不審者の現在の様子
 - (3) 現場での対応の様子
 - (4) 負傷者の搬送の状況
- 教育委員会への第一報と支援要請を行う。
- 負傷者がいる場合には、119番通報や保護者への連絡を行う。

登下校の安全確保

(不審者が確保されていない場合)

< 学校の対応 >

- 1 安全確保までの児童の保護と保護者への引渡しや集団登下校を行う。
 - (1) 児童の現状の把握
 - (2) 下校前であれば、安全確保まで学校待機
 - (3) 保護者への引渡しや保護者同伴の集団登下校などを行う。
- 2 地域住民・保護者・ボランティア・警察・教育委員会等への支援要請を行う。
- 3 必要に応じて、教職員等による緊急防犯パトロールを実施する。

事後の対応や措置

< 学校の対応 >

- ・情報の整理と提供
- ・児童への説明と指導
- ・保護者等への説明
- ・心のケア
- ・再発防止対策実施
- ・報告書の作成
- ・災害共済給付請求
- ・地域住民・保護者・ボランティア等に協力要請

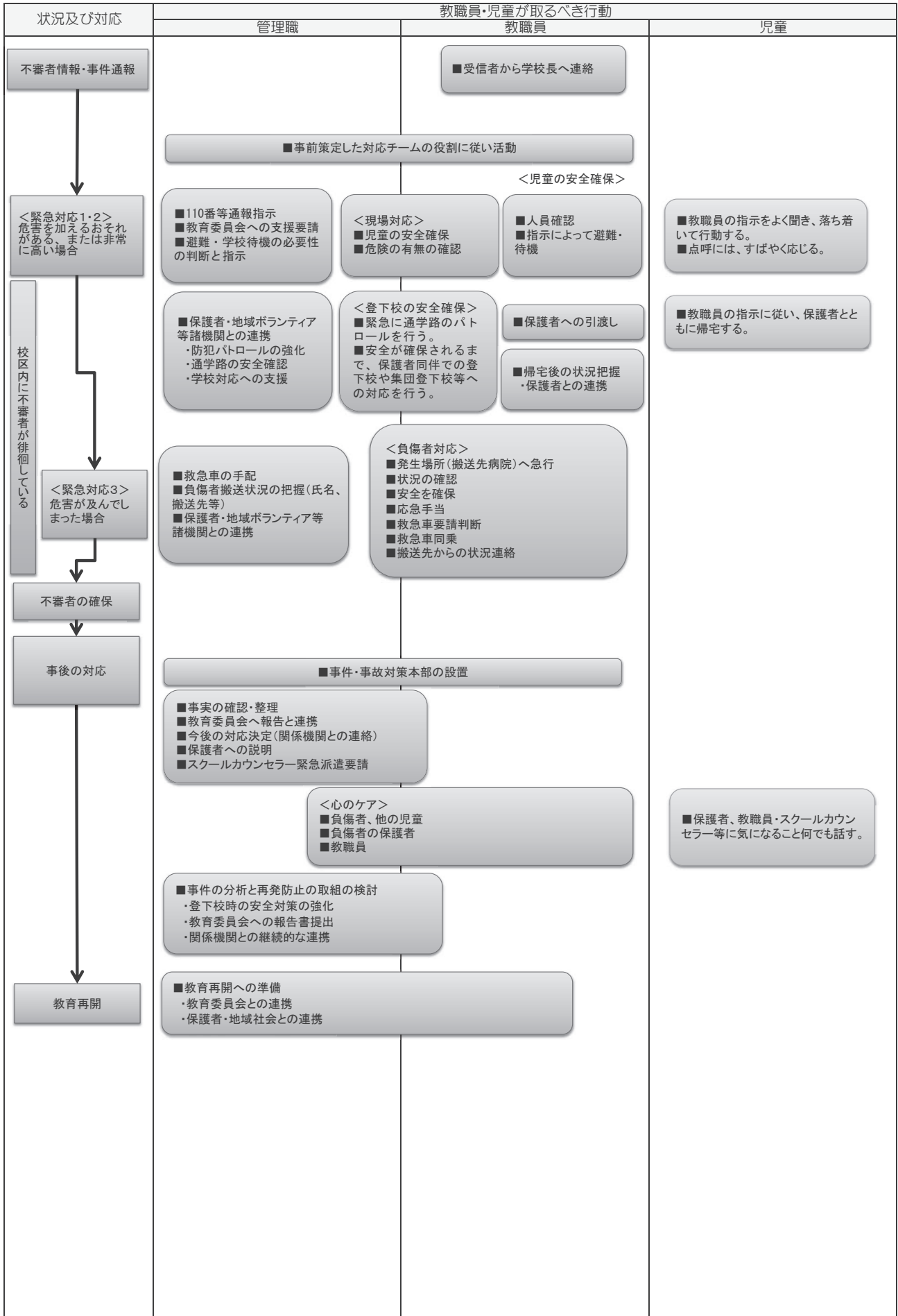
登下校時の安全対策の強化

< 地域住民・保護者・ボランティア等の対応 >

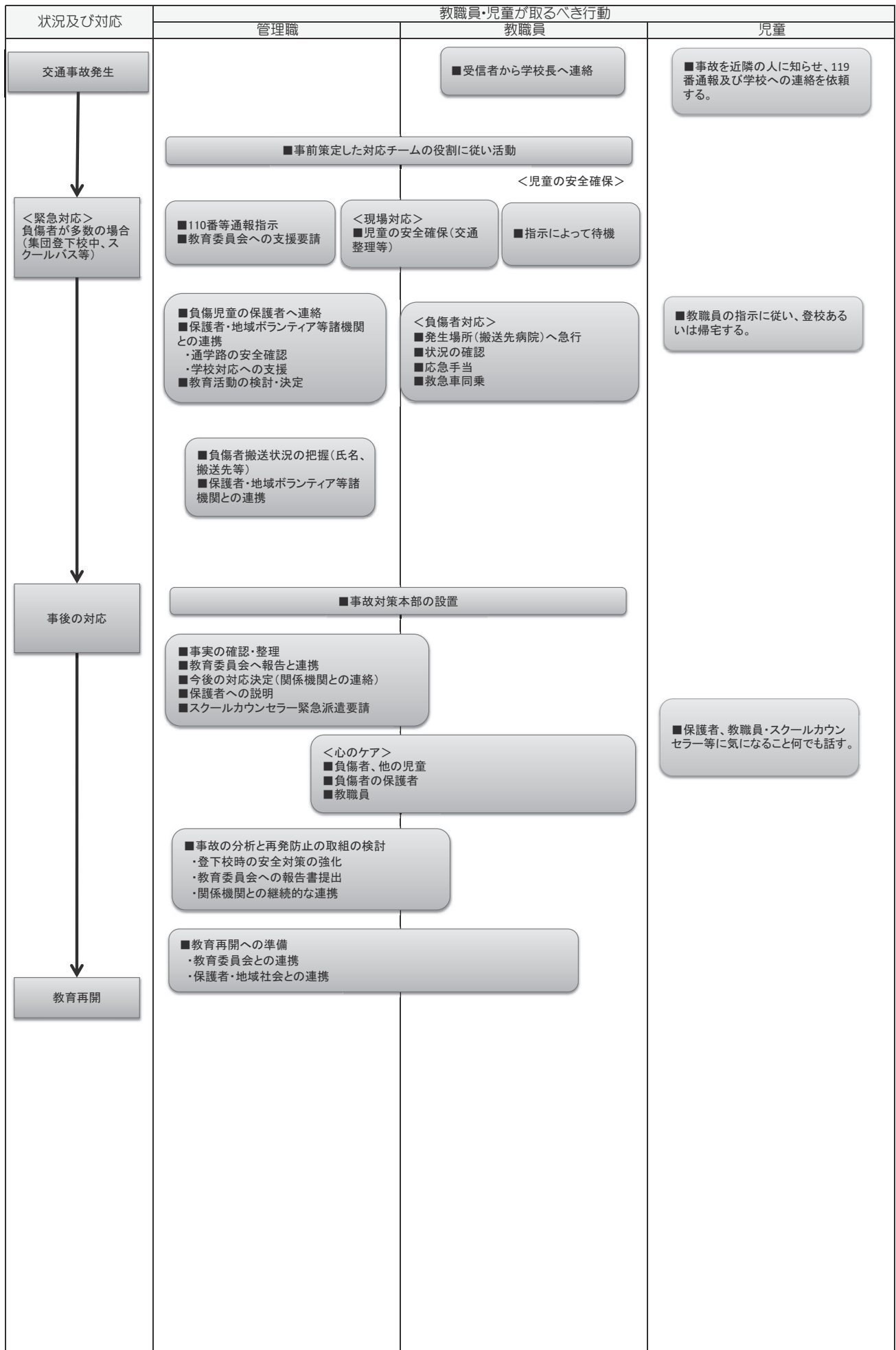
- ・防犯パトロールの強化
- ・保護者等による安全点検
- ・通学路の防犯施設・設備などの整備・充実
- ・不審者情報等の情報ネットワークの整備・充実
- ・ボランティア等の研修
- ・学校の事後対応への支援

21 登下校時における危険等発生時対応フロー

21-1 登下校時の不審者情報・事件対応フロー



21-2 登下校時の交通事故対応フロー



21-3 登下校時の地震発生時における対応フロー

状況及び対応	教職員・児童が取るべき行動		
	管理職	教職員	児童
地震発生			
安全確保	■身を守る行動をとる。		
	揺れの収束		
避難	■校内災害対策本部設置		
避難場所での安否確認、行方不明・負傷者等対応	■事前策定した災害対応チームの役割に従い活動 ・在校教職員で対応チームを編成し活動(不在教職員のカバーも確認) ・通勤途中の場合は、安全を確認しながら学校または児童が避難する避難場所で合流		
	<p>■児童の安否確認及び安全を確保する。 沿岸地域で津波警報が発表された場合などは、状況により二次避難をさせる。(緊急性が求められる場合は、二次避難所で確認)</p> <p>■行方不明者の捜索や救出救助を行う。</p> <p>■負傷者等の有無を確認し、応急処置・医療機関への搬送等の対応を行う。</p>		
被害対応・関係機関への報告	■施設・設備等の被害状況を確認する。		
	■危険箇所を立入禁止措置にする。		
保護者への引渡し	■避難場所の安全を確保し、警戒する。		
	■必要に応じて消防等の関係機関、市災害対策本部へ状況報告し、救助要請を行う。		
被傷者等への報告	■教育委員会へ被害状況を報告する。		
	■学校にいる児童を保護者に引き渡す等の対応を行う。		
避難所運営等支援	■引渡しができない児童を待機させる。		
	<p>■市の災害担当者到着まで、避難者への対応を行う。</p> <p>■避難場所運営等にかかる支援を行う。</p>		
教育再開	■教育再開への準備を行う。		
			<p>■原則として、自宅、学校、地域の避難場所のいずれかの安全で近い所へ向かう。</p> <p>■津波の危険があるときは、最寄りの安全な高台へ避難する。</p>
			<p>■登校した場合は、教職員の指示に従い避難する。</p> <p>■帰宅した場合は、学校へ連絡する。</p>
			<p><登校してきた児童></p> <p>■教職員の指示に従い、保護者とともに帰宅する。</p> <p>■状況によっては、避難場所での待機を継続する。</p>

22 避難所の運営

本校は広域避難場所になっている。市の防災担当部局の職員が配置されるまで、本校の教職員で避難所を運営する。

教育活動中	児童の安全確保と教育活動を最優先とする。 管理職及び担任外（授業担当教諭以外）の教職員で初期対応する。
教育活動外、 教育活動継続が 不可能な場合	児童の安全を優先しつつ、対応可能な教職員で初期体制をとり運営する。 広域的な大災害の場合、市の防災担当部局との連携が図れないことも考えられるので、教職員のみで運営する体制を整える。

役割分担表

対応可能な教職員で役割を分担し、避難所運営業務を行う。

災害種類や規模、季節、気候などによって対応を臨機応変にすること。

役割分担	最少人数	仕事内容
避難所運営本部	(1)	各分担を掌握し、適宜対応を検討しながら方針を決める。(管理職または準じる者)
避難所受入れ・ 区割り・ 名簿作成班	1	避難者を受け入れ、誘導、避難者の名簿を作成する。また、避難者の人数に応じて区割りを行い、避難所が共同生活しやすくなるよう支援する。
被害状況調査・ 情報収集・伝達班		校舎・避難所の建物、設備等の点検を行う。また、通信やライフライン、市広報等の情報収集、校区被害情報の収集を行う。
設備班	1	避難所で使用する設備(放送、トイレ、電源等)の設置を行う。
物資運搬・保管班		備蓄品の現有数を確認し、不足分等を運搬・保管する。支援物資の配給、設備保管庫の整理、物資管理等を行う。
食事班		基本的には朝食と夕食の準備支援を行う。
ごみ処理班		食事や避難所生活で出るごみの処理とごみ置き場管理を行う。
救護班	1	けが、病気等の応急処置、市や消防署への連絡を行う。
児童生徒管理・ 安全(否)確認班		保護者への引渡しを行いながら、欠席・早退者の安全(安否)確認を行う。夜間・休日の場合は、状況に応じて確認を行う。

避難者名簿

避難者名簿

	家族番号	氏名	よみがな	年齢	性別	住所	入所日	退所日	退所後連絡先	退所後住所
1	1									
2	1									
3	1									
4	2									
5										
6										
7										
8										
9										
10										

コンピュータが使用可能なら、表計算ソフトで作成し、検索しやすいようにデータベース化する。

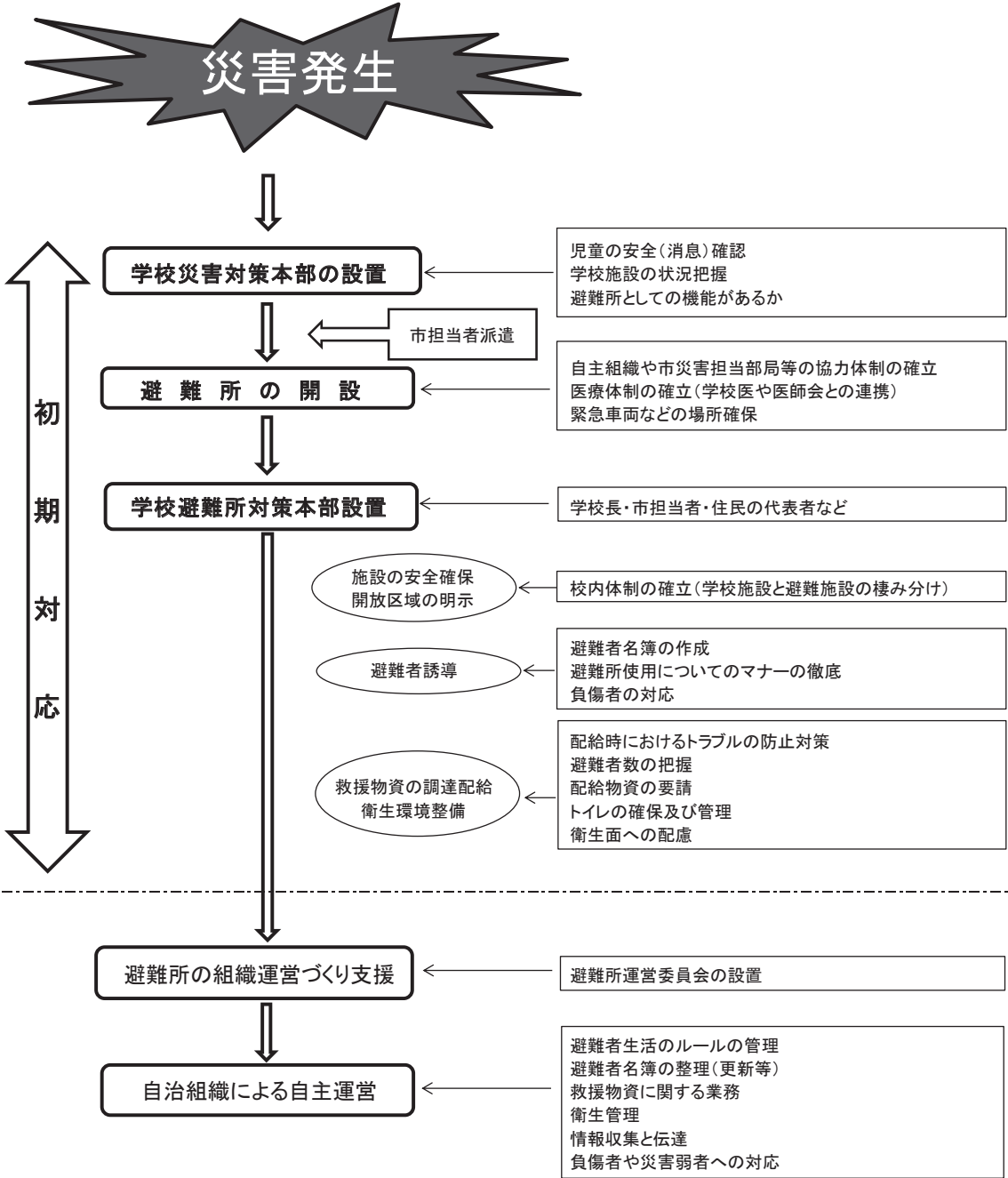
同居していない家族や知人が避難所を訪ねてきても確認ができるように掲示用も作成する。掲示する際には、個人情報の保護に配慮する。

避難所運営のための事前準備

年度初めに必ず以下のことを確認する。

<p>市の防災課の避難所運営担当者の確認</p> <p>◇◇課 ○○ △△課長 連絡先 ○○○-△△-××××</p>
<p>避難所開設の際に市が準備してくれるもの</p> <p>非常食、水、毛布、懐中電灯、ビニールシート……………</p>
<p>備蓄品の確認(市の防災課、◇◇小、△△中と一緒に)</p> <p>△△中の備蓄倉庫の確認。</p> <p>非常食(児童数プラス100)、水、毛布……………</p>
<p>学校にある備蓄品</p> <p>保管場所 体育館下倉庫</p> <p>備蓄品 毛布、ビニールシート、新しい乾電池(毎年入れ替えること)、ラジオ、懐中電灯</p> <p>水、ゴミ袋……</p>

災害時における本校の避難所運営手順



23 事後の対応・報道関係機関への対応

事後の対応

- 1 本部（管理職）
 - ◎ 再発防止、学校再開のための総括
 - ◎ 報告書の作成
 - ◎ 保護者、地域社会との連携方策等の改善
- 2 安全部・担任・救護
 - ◎ 負傷者に対するケア
 - ◎ 心のケア
 - ◎ 学校医等との連携体制の改善
 - ◎ 安全教育の内容、指導体制等の見直し
- 3 安全部・不審者対応
 - ◎ 再発防止策の検討と危機管理マニュアルの改善
 - ◎ 危機管理体制、役割分担の見直し

報道関係機関への対応

基本的な対応

- (1) 教育委員会との連携
記者会見を開く際の留意事項等について助言を得るなど、教育委員会と緊密な連携を図る。
- (2) 窓口の一本化
取材要請があった場合、窓口を一本化し、校長又は教頭で対応する。

京都府学校危機支援チーム（CCST）派遣依頼

- 1 派遣対象
学校だけでは解決困難であり子どもたちの多くが心に傷を受ける可能性がある事故・事件等（おおむねレベルⅡ以上）
- 2 依頼方法
学校長から市教育委員会、教育局を通じて府教育委員会へ依頼する。
- 3 留意事項
「学校危機対応教職員ハンドブック（京都府教育委員会作成）」を参照に、校内チームの態勢を整える。
CCSTは、市教育委員会と連携し、校内チームの各班への指導・助言によって学校危機への支援を行う。

「25 京都府学校危機支援チーム（CCST）」参照